

# EMPOWERING YOUNG ADULTS GUIDELINES FOR THE ROVER SCOUT SECTION

## 青年の力を引き出す

ローバースカウト部門のガイドライン

(仮訳)

※この資料は世界スカウト機構発行資料

“Empowering Young Adult”の内容把握のための参考として作成したものです。仮訳であることをご了承の上、ご活用頂ければ幸いです。現時点では作業途中の版ですので、読みにくい部分が多いですが、ご容赦下さい。

なお、本編巻末の補足資料と用語集は訳出していませんので、この部分が必要な場合は、英語版を参照して下さい。



**SCOUTS**  
Creating a Better World

Youth Programme

© WSB 2007 / All rights reserved



**SCOUTS**<sup>®</sup>  
Creating a Better World

© World Scout Bureau  
Education, Research & Development  
May 2009

World Scout Bureau  
Rue du Pré-Jérôme 5  
PO BOX 91  
CH – 1211 Geneva 4 Plainpalais  
Switzerland

Tél.: (+ 41 22) 705 10 10  
Fax: (+ 41 22) 705 10 20

[worldbureau@scout.org](mailto:worldbureau@scout.org)  
[scout.org](http://scout.org)

Reproduction is authorized to  
National Scout Organizations and  
Associations which are members of the  
World Organization of the Scout Movement.  
Credit for the source must be given.

# 青年の力を引き出す

ローバースカウト部門のためのガイドライン、



「ローバーリングとは 目的なしの さまよい だとは考えない。はっきりした目標をみつめ、愉快的道を進んで行くことだと私は意味づけている。そして、その道中には苦難もあれば危険もあり、君たちはそれに出会うものと考えてのことである。君たちはこのような暗礁の多くを予期しているべきである。」(「Revering to Success」日本語版：1967年発行より)

*Baden-Powell*

## 目次

1. 序文	5
2. 導入：ローバースカウト・プログラム	7
3. 第1章「WHY」	11
1) ローバースカウトの目的と目標	13
2) 青年の特質とニーズ	21
4. 第2章「HOW」	39
3) ちかいとおきて	41
4) 行うことによって学ぶ	49
5) ローバースカウト部門のチーム・システム	59
6) 象徴的フレームワーク	69
7) 自然と環境	81
8) 教育の目的と個人の進歩	87
9) 成人の支援	99
5. 第3章「WHAT」	113
10) ローバースカウト部門の活動	115
6. 結び	125
7. 資料集	126
8. 用語集	138



## 1. 序文

ローバーのためのガイドラインは、多くの関係者の貢献により作成されました。最初に、Adolescents & Young Adults 作業チームのメンバーに感謝します。Mary Nugent 氏、Johanna Virkkula 氏、Daniel Wood 氏らの努力により このガイドラインの製作が可能となりました。

また、世界の様々な地域の同僚と友人が協力してくれました。Hany Abdul Monem 氏（アラブ地域）、Syd Castillo 氏（アジア太平洋地域）、Radu Stinghe 氏（ヨーロッパの地域）、Alberto Del Brutto 氏と Ana Elisa Piubello 氏（インターアメリカ地域）。彼らを迎え入れ、柔軟に協力し作業を行ったことで、効果的な学習素材となりました。

更に 次のイベントの参加者の協力によって、これらのガイドラインがより内容の濃いものになりました。

12th World Scout Moot, 2004;  
Rover Scout Transversal Team Meeting, 2005;  
World Scout Seminar on Partnership (Marrakech+10), 2005;  
4th Meeting of the Senior Section Task Team, Interamerican Region, 2005;  
International gathering for “Scouting & senses of belonging”, Arab Region, 2005;  
International seminar on Youth Programme Development - Rover Scout section, Asia-Pacific Region, 2006;  
5th European Forum on Youth Programme and Adult Resources, 2007;  
Seminar on the Scouts of the World Award, Asia-Pacific Region, 2007;  
“Rover experience” at World Scout Centre, World Scout Jamboree, 2007;  
RoverNet 3.0, European Region, 2007;  
Workshop on Rover Scout Programme & Scouts of the World Award, World Scout Conference, 2008;  
World Scout Challenge on Rovering, Jamboree on the Internet, 2008.

私たちの同僚でありボランティアの Rod Abson 氏、Jose Eduardo C. Delgado 氏、Maeliosa De Butlear 氏、Jonathan How 氏、Srinath T.V. 氏、Ursu Valentina and Saad Zian 氏が原稿とその校正における貢献は、賞賛に値します。

最後に、このプロジェクトに対する Dominique Benard 氏の貢献に感謝します。彼のアイデア、熱意、そして素晴らしい仕事のお陰で、このガイドラインの編集を始めることができました。

Joao Armando Goncalves Chairman Adolescents & Young Adults Task Team  
Anne Whiteford Executive Director, Education, Research and Development World Scout Bureau  
Andres Morales Unit Manager, Adolescents & Young Adults World Scout Bureau

## ROVER SCOUTS IN ACTION



**ハイチ・スカウト連盟はサイクロンの被災地に対する地域サービスプロジェクトを展開しています。**

ハイチは数ヶ月に亘ってサイクロンによる波にさらされ、多くの人命が失われ、建物にも被害が出ました。ハイチ・スカウト連盟は、2004年のサイクロン・ジェニーのときと同様、一ヶ月以上も被災者を救うための活動に従事しています。地域社会に貢献するこれらの活動は、現在ではローバーと指導者のための一週間に亘るスカウトキャンプの活動に統合されていて、被災地周辺のGonaives, Cabaret, Chansolmeの3か所にキャンプを設置しています。全体では、国全土から1800人以上がこのプロジェクトに参加しています。ハイチ・スカウト連盟は、市民保護局、市役所、教育省、マルティニク島の消防士、キロや教区の大学、そして様々なNGOと協力関係を結んでいます。また、次のような支援を受けています：フランス大使館（建築資材）、国連世界食糧計画（参加者の食料）、ユニセフ（飲料水）。フランス・スカウト連盟は現地での活動を通じて積極的に協力しており、支援物資運搬のためのトラックを買うための資金造成プログラムを展開しています。



## 2. 導入： ローバースカウト・プログラム

社会におけるスカウティングの影響をいかにして測るか？その指標の一つが、どのくらいの青年が、社会の発展のための活動的な役割を担う意識と能力を持った成人としてスカウト運動から卒業していくか、ということです。

各国スカウト連盟（NSO）の役割は、何でしょうか？それは適切なローバースカウトのプログラムを提供すること、そして成人指導者に意義あるトレーニングを提供することによって、地元の団と指導者を支援することです。

世界スカウト機構（WOSM）の役割は、何でしょうか？それは、ガイドライン、情報、ネットワークといったものを、プログラム開発者と各国のトレーニング・チームに提供することで、各国スカウト連盟を支援することです。こうしたことは、各国スカウト連盟が自国の青年の事情にあったローバープログラムを開発したり、改善していくのに役立つことが期待されます。

この文書は、ローバー部門におけるローバーのプログラムをどのように開発し改良していくか、というプログラム開発者のためのガイドラインとアイデアを盛り込んだ資料となっています。

### ローバースカウト・プログラムとは、何でしょうか？

ローバースカウト・プログラムは、スカウティングの最終の部門です：

スカウティングにおけるどの青少年プログラムからしても、ローバースカウト・プログラムはまとめとなるものでなくてはなりません。即ち、「なぜ」行うのか？（ねらいと目的）、「どのように」行うのか？（スカウト教育法）、ローバー部門において青年は「なにを」行うのか？（活動）。

スカウティングにおける青少年プログラムは、スカウト運動における青年の経験を全て網羅するものです。最も若い世代では大体6歳から8歳くらいからスカウト運動に加わり、年長のメンバーとしてプログラムを終え、卒業していくのは、通例18歳から25歳頃となります。これらは全部門を通じた教育と自己啓発のための進歩的な過程であるといえます。

## WHY :

ローバースカウト・プログラムはスカウティングの原則に基づいて、スカウティングの目的を達成するために貢献します。:

個人として、信頼できる市民として、そして、彼らの地元で、また国および国際的なコミュニティのメンバーとなるのに寄与します。また、彼らが身体的、知的、社会的、精神的な面での成長を促進するようにします。

## HOW :

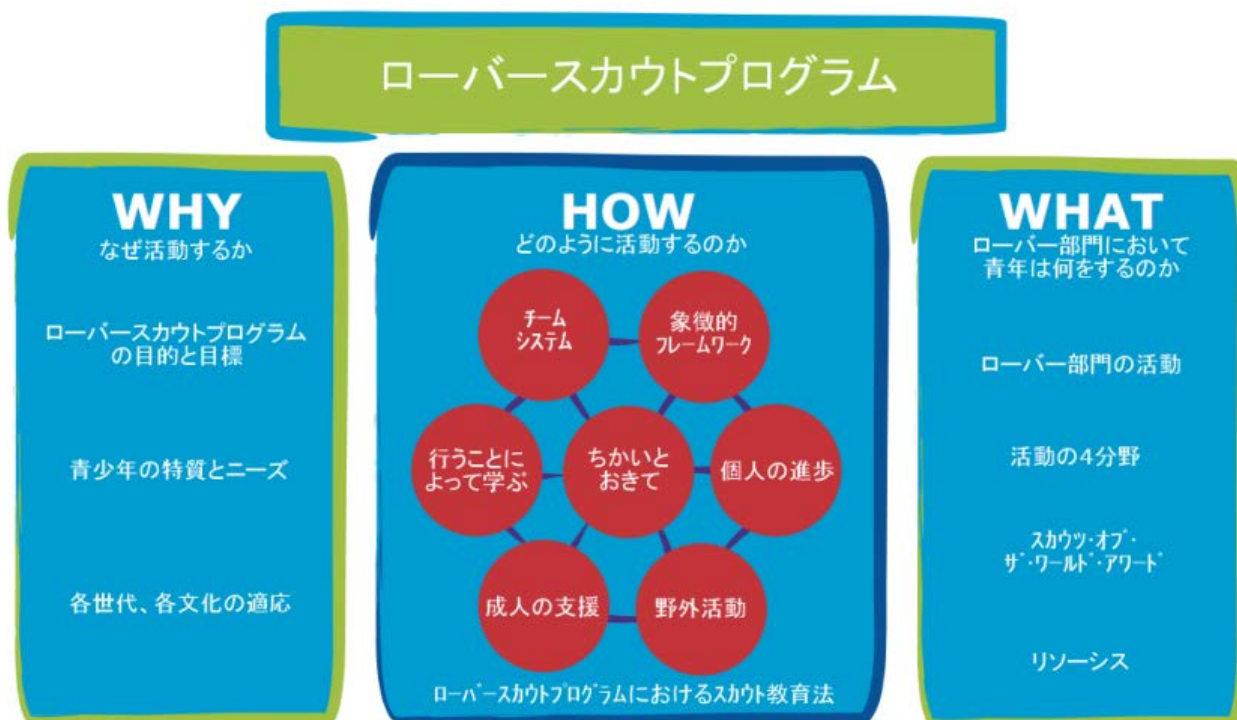
ローバースカウト・プログラムがどのように実行されるかを決定する、1つの基本となる面があります：それはスカウト教育法です。

他とは異なる様々な教育的なツールから成るため、スカウティングが用いている手法は「スカウト教育法」と呼ばれています。これらは、ちかいとおきて、行うことによって学ぶ、チーム・システム、象徴的フレームワーク、進歩制度、自然、成人の支援、といった要素から構成されます。これら教育ツールの多くは、例えばチームでプロジェクトを行うといった形で、他の教育形式に対しても用いられます。しかし、スカウティングにおいてこれらのツールをスカウト教育法の要素としているのは、それぞれのツールは教育法全体の一面を表すものに過ぎないからです。これらの要素が全体を形作り、システムとして用いられるということが、スカウティングを独特のものとしています。

## WHAT :

ローバースカウト・プログラムは、キャンプ・野外活動、地域奉仕活動と開発プロジェクト、ゲーム、式典、スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードといった、ローバー活動を行う青年が参加するすべての活動を含みます。これらは共通の性格を持っていないければなりません。即ち、青年にとって魅力的で、挑戦的のもの、ということです。

ローバースカウト・ガイドラインは、3つの分野に分けられます（下図参照）：



ガイドラインの各章において、「WHY」（目的と目標）、「How」（スカウト教育法）、「WHAT」（活動）は、次のようにローバースカウト・プログラムに対応しています。

## 第1章「WHY」

### 1) ローバースカウト部門の目的と目標

成長の6つの領域において、青年が自分自身を成長させる機会を提供しています。青春から成人期への移行を支援します。

### 2) 誰がローバースカウトなのか：青年の特徴とニーズ

ローバースカウト・プログラムは青年の特徴とニーズ、およびスカウティングの基本要素に基づくものでなければなりません。各国スカウト連盟（NSO）は、ローバースカウト・プログラムを構築する最も適切な方法は、その国の青年の特徴を知ることであると認識していません。



## 第2章「HOW」



### 3) ちかいとおきて

スカウトのおきてによって提案されている価値体系、およびそれを達成するために自身の最善をつくすというちかいに基づいてローバースカウトが自分の選択した人生を送る、ということを意識的に責任付けることです。

### 4) 行うことによって学ぶ

「行うことによって学ぶ」ということは、スカウティングが教育に積極的にアプローチしていることを示しています。このことは若者がローバースカウトのコミュニティのメンバーに加わった時に様々な経験を経験することを含みます。例えば、役割を果たすことから学ぶ、自身に課された責任から学ぶ、自分たちが選び実現させていく活動から学ぶ、といったことです。

### 5) チーム・システム

チーム・システムは、その仕組み以上に重要なものです。というのは、スカウティングによって提供されるもう一つの教育の機会であるからです。それによって、集団力学、リーダーシップ、参加に対する洞察、といったことができるようになります。成人は、アドバイスを行って容易に物事を進めるようにする役割を担います。

### 6) 象徴的フレームワーク

「道」、「航路」、「旅」の概念は、ローバースカウティングを示すのにしばしば用いられます。ローバースカウティングとは、成人に向かっていく旅と言えます。象徴的フレームワークは、フットワークが軽いこと、私達がある場所から他の場所へ移動する時にみつける新しいこと、といったことに焦点をあてます。旅をして、新しい現実や展望を発見することは、若者の自然な欲求に合致するものです。

### 7) 自然

自然は、非常に多くのローバースカウトのための活動において、申し分のない環境を提供します。若者は自分の能力に挑戦することができます。自然環境を敬い、保護することを考える機会を提供します。ローバースカウトは、身体的な能力を高め、冒険精神を育み、精神的な側面においても経験を積むことができます。

### 8) 教育の目的と個人の進歩

進歩の計画を立てるということは、技術と知識の取得を評価するということです。そうすることで、成人の役割に近づく、社会における責任を受け入れる、といったことに近づいていくことになります。それは個人の発達段階を測る方法であり（教育の目的に合致する）、自身が直面した課題に対処するために各人が身に付ける「ツール」を理解する方法でもあります。

### 9) 成人の支援

成人の支援や、ローバースカウトとリーダーの関係は、スカウティングにおいて重要な意味を占めます。ローバースカウト部門の成人は支援者かアドバイザーです。こうした成人は、ローバースカウトが自分自身を成長させるような意味ある経験を得られるよう、押すか引くよりは、むしろ共に歩むことで若者を支援します。

## 第3章「WHAT」

### 10) ローバースカウト部門の活動

活動とは若者にとって楽しく、冒険的で、活動的で、生涯に亘って役に立つ技術を高めるためのものです。ローバースカウト部門の活動では特に、積極的に旅をする、多くの文化を経験する、大自然での冒険、地域社会への奉仕、社会や経済に対する理解を深める、といったことに焦点をあてます。

---

## REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 As defined by the “World Programme Policy” adopted by the 32nd World Scout Conference, Paris, 1990
- 2 Constitution and By-Laws of the World Organization of the Scout Movement
- 3 “Scouting: An Educational System” 1998, World Scout Bureau. – Page 13



## スカウトのクリスマスの話

12月25日—毎年、ボリビアのコカバンバにあるインカ・スカウト団では、クリスマス特別な日としてお祝いします：スカウトたちは辺境地帯に住んでいる子ども達に朝食を供したり、おもちゃを与えたり、子ども達が遊べるようなスカウトゲームを行ったりしています。今年は、ベロ・ホリゾンテ地区の700人以上の子どもがこの素晴らしい贈り物を受け取ることができました。

ベロ・ホリゾンテ地区はコカバンバの近くにある移民の居住区で、大人以上に子どもが多く、住民は公のものではない仕事で働くことによって収支を合わせます。何週間もかけて、スカウトの指導者は団員や、団員の保護者、友人たちとともに、このイベントに必要な資材を購入するための計画を立案します。ここでは、何も見返りを期待しないことが最も重要なのです。

今年は、支援者から財政的な支援を受けることができたので、700人分の朝食とおもちゃを準備することができました。こうした寄付は、活動を成功させるための非常に重要な要素となります。中には、コカバンバで第1回全米ムートの開始を待っているアルゼンチンからのスカウトも参加していて、ボリビアのスカウトが活動を実施するのを支援しています。このことにより、子ども達と様々な国のスカウトソングやゲームを共有することができるのです。



## 第1章 “WHY”

青年プログラムとは、若者がスカウティングにおいて**What**（何を）行うのか（活動）、**How**（どのように）行うのか（スカウト教育法）、**Why**（なぜ）行うのか、の総合的なものです。

**Why**：ローバースカウト・プログラムはスカウティングの原則に基づいて、スカウティングの目的を達成するのに貢献します

個人として、信頼できる市民として、自分の住む地域や国家および国際社会のメンバーとして青年が成長するよう、その身体的、知的、社会的、精神的な可能性を高めます。

このセクションは、2つの章に分けられます：

- ・ 1) ローバースカウト部門の目的と目標

青年に、成長の6つの領域で、自分自身を成長させる機会を提供すること。

青年が青春期から成人期へ移行していくことを支援すること。

- ・ 2) ローバースカウトである青年の特質とニーズ

ローバースカウト・プログラムは、青年の特性やニーズとスカウティングの基本的な要素に基づかなければなりません。各国スカウト連盟は、ローバースカウト・プログラムを構築する時、青年のニーズと特徴に対応するための最も適切な方法を見つけなければなりません。



## グレートレイク地域の平和建築と和解

軍隊による民族浄化と侵略を受けた故郷の村から、長い、困難な道のりを裸足で歩いて、100万人以上の難民がルワンダとブルンジの大量虐殺の恐怖から1996年にゴマへ流入したとき、ギルバートは、若いローバースカウトのリーダーでした。難民キャンプに割り当てられた場所は、活動休止中の火山の傾斜で、容赦ない場所でした。水も食料も住居も不十分で、数日の内に死が多発する危険な場所となりました。

外国から多くの援助要員がこの場所の状況を理解し、支援しようとしたのですが、無駄でした。援助要員自身の多くが病気にかかってしまい、この恐ろしい環境の犠牲者となってしまいました。多くの人々は、ストレスに対処することができなかつたのです。

ゴマ地区のローバークルーのリーダーとして、ギルバートは15人のボランティアを集めました。IOM（国際移住機関）からハンドマイクを借りて、彼らは広がった町のようになっている山の斜面を縦横に動きました。そして、スカウトたちに一緒に活動しようと呼びかけました。1300人のスカウトと、元スカウトが呼びかけに答えました。数日の内に、彼らは、長い道のりを歩き、飢餓とコレラの犠牲者となった26,000の遺体を埋葬しました。

彼らは、遺体の埋葬、食料や衣類の配布、そして多くの国際NGOがキャンプにおいて救援活動を行うための基幹部分を作りました。そして、この恐ろしい悲劇に影響を受ける地域中で、他のスカウトたちも彼らの活動を同様に言うようになりました。スカウトがいなければ、これらのNGOは活動することがもっと難しくなっていたでしょう。また、より多くの命が失われていたことでしょう。

しかし、これらの取り組みが終わった後も、彼は座したままではいませんでした。彼は将来の再発を防止するため何ができるかについて考えました。恥ずかしいことに、暴力と民族浄化を行ったものの中に、スカウトもいたのです。隣人が隣人に背を向けたとき、スカウトも憎しみを呼び覚ます行為に加わったのです。ギルバートとこの地域のスカウト連盟の仲間たちは、ゴマとその周囲で起こったことを見て、それが再び起こるのを防ぐために最善を尽くすと誓いました。

しかし、何をすればよいのでしょうか？ 暴利をむさぼる者や心ない犯罪者、狂信者による憎悪の炎によって、この地域は民族の火種となっていました。一体どんな組織が線引きをして、違いをもたらすことができるのでしょうか？

これに応じて、この地域のスカウトたちは密かにキャンプを行いました。再び戦争が起こり、「マイマイ（子どもを紛争に送り込むジャングルギャング）」が少年や青年を誘いにやってきました。ある少年は、彼のボーイスカウトのリーダーのところへさよならを言いに行きました。彼は戦争に行くというのです。この少年のスカウト・リーダーは、最近、ギルバートのコースで訓練を受けた者でした。彼は慎重に話をして、少年は考えを変えました。そして、友人たちが戦争に行く中、彼は残りました。3ヶ月後、少年はリーダーに感謝しました。友人は皆、死んでしまったからです。一つの命が救われた、語られることのない無数の物語の一つです。

彼ら自身のリソース、そしてWOSM地域事務局とベルギーのNGOである Broederlojk Delen からの限られた支援、そしてクイーンシルビア基金（世界スカウト財団の特別基金）からの補助金によって、ギルバートと彼のチームは、1996年の開始以来、プログラムを存続させています。これまでに、48,638人のスカウトと1,194人のリーダーが、このプログラムの影響を受けています。

ギルバートと彼の仲間たちは、スカウティングが違いをもたらすのを見ました。彼らはスカウティングが驚くべき事を成し遂げるのを見ました。危機的な状況の中で、地元のスカウトは数多くの援助要員の中で輝いていました。危機の陰で、スカウトは架け橋となり、コミュニティの再建を助けたのです。

ギルバートのチームは活動を続けていくつもりでいます。彼らの活動は、ささやかなものではありません。

（“Scouts of the World Award Best Practices” [www.scoutsoftheworld.net](http://www.scoutsoftheworld.net) より引用）



## 1) ローバーの目的と目標

1. 導入	14
2. ローバースカウティング：最終段階ーローバースカウティングは、なぜ重要なのか	15
2.1 ローバースカウト部門の目的と狙い	16
3. 一貫性のある我々の任務	17
4. 結論	18
リソース	19

### Key concept (基本概念)

- ・ローバースカウト部門は、青年が人生における自分自身の行く手を見出して、社会的で経済的に自活ができるよう、積極的に将来を計画することを支援します。
- ・ローバースカウティングは成人期に通じる「道」の最後の部分へ向かう人達に対しスカウティングが提供する学習環境で、スカウティングが「教育として提供するもの」としては最後の段階のものです。
- ・ローバースカウト部門の目的は、成人の社会へ参画する最後の段階において、若者が青春から成人期へと移行するのを支援しサポートすることです。
- ・ローバースカウト部門の目標は、スカウティングにおける成長の6つの分野を通じて、若者に自分自身を成長させるための機会を提供することです。6つの分野とは、身体的、知的、感情的、社会的、精神的、性格の成長のことです。

## 1. 導入

ローバースカウト部門の目的と目標に関して、世界中のプログラム開発者と各国スカウト連盟（NSO）が直面している課題としては、次のようなものがあります：

- ・各国スカウト連盟（NSO）の一部の人々は、教育的な提案がなぜこの年齢層のために必要なのかを知ろうとしていません。
- ・ローバースカウト部門をレクリエーション的なものにとらえ、教育的なアプローチをしないで、上限の年齢を決めていません。年齢の上限を決めていないと、教育的な内容を決めるのが難しくなり、それはレクリエーション活動になってしまいます。
- ・ローバーより若い年齢部門のリーダーが不足しているので、青年に彼ら自身のニーズを満たすための適切な計画を提供するのではなく、より若い年齢部門のリーダーとしての役割を果たしてもらうようローバースカウトを利用してしまいう傾向があります。

とりわけこれらの課題に応じて、この章は、あなた（各国のプログラム開発者）に、次のような情報、アドバイス、手引きを与えます：

- ・「ローバースカウトのプログラムは何か」、との疑問に対する答え
- ・ローバースカウト部門の目的と目標
- ・スカウティングの使命とローバースカウト・プログラムがどのように関連するか

各国スカウト連盟（NSO）がローバースカウト・プログラムを開発するために行うことは：

- ・青年期を対象とした教育プログラムを提供するため、上限年齢を確立する；
- ・自国の社会的、文化的、経済的状況を考慮し、いくつかの目標をローバースカウト部門に設定する；
- ・この年齢層に学習環境を提供するためのプログラムを構築する；



## 2. ローバースカウティング：スカウティングの最終段階

### ーローバースカウティングは、なぜ重要なのか

「ローバースカウティングとは 目的なしの さまよい だとは考えない。はっきりした目標をみつめ、愉快的な道を進んで行くことだと私は意味づけている。そして、その道中には苦難もあれば危険もあり、君たちはそれに出会うものと考えてのことである。君たちはこのような暗礁の多くを予期しているべきである。」 Baden-Powell

(日本語訳：Revering to Success 日本語版 ボーイスカウト日本連盟 平成8年版)



この文は何十年も前に書かれたものですが、もし象徴性を理解することができるならば、ローバースカウティングとは何であるかについて理解するのに役立つでしょう。

スカウティングの主な目標は、若者の可能性を高めるために、各々の若者を支援することであり、刺激することです。若者が活発で幸せな市民となり、より良い世界を構築することに貢献するのが成人の使命です。我々の使命は、幼児期から成人期へと向かう青年の「道」を支援することなのです。

スカウティングがしなければならないのは、成長するその人の通過する道に沿って、各々のスカウトとともに、彼らがスカウティングの支援がなくなっても、成長するために必要なものを自分の内側から見出すことができるよう、各々の人を応援することです。

このことは、青年がうまく成人期に入っていく場合、様々な局面で直面することになる難問です。自分の居場所を社会の中に見つけ、職業を選び、価値体系を開発して、人間関係を育み、長続きする協力関係を築いていくことが課題となります。青年を迎え入れて、支援する準備ができていくスカウティングの年齢部門は、成長する青年にとって重要な時期に、大きな役割を果たすことができます。このことが、ローバースカウト部門を持つことが重要である理由です。なぜなら、各々の青年が自分たちの仲間や経験豊かな人々からの支援を受けて、自分自身の分析や、職業や生活手段の決定を行うための環境を提供することができるからです。

ローバースカウティングは、成人期に通じている「道」の最後の段階にいる人々に対し、スカウティングが提供する学習環境です。スカウティングが「教育として提供するもの」としては最後の段階のものです。

今まで述べてきた全てのことは、明らかに、なぜローバースカウト部門に年齢上限がなければならないかの理由となります。スカウティングの役割は、スカウトが成人期に達するまで、青年が自分自身を成長させるよう支援することなのです。そのため、私たちが提供するプログラムはこの段階に達する前に終わらせるべきではありません。もしそうすると「不完全」なものとなってしまいます。

同時に、私たちは教育プログラムを、すでに自分の居場所をコミュニティの中に見つけた「完全に成長した」人々に提供し続けることは、不適當であると考えなければなりません。もちろん私たちは、自分を成長させるということは、ずっと続いていくものであるということを知っています。しかし、スカウティングにおいては、世界アダルトリソース方針で確認されたように、青年とそのトレーニングに対して提供される教育プログラムと、「スカウティングにおける成人」に提供される支援とは、異なるものであるということを知らなければなりません。このことは、ローバースカウト・プログラムに上限年齢を定めることが重要である理由のうちの1つです。

上限年齢は国ごとに異なります。それは、文化的な理由、経済的理由、社会的理由など、いくつかの要因によって、20歳、22歳、25歳となるようです（「青年の特質とニーズ」を参照）。重要な点は、ある社会において、若い男性や女性が活動的で普通の役割を果たすための正しい「手段」を身につけているようにすることです。

この文書では、ローバーとは18歳から22歳の間の若い男女を指しています。

## 2-1. ローバースカウト部門の目的と目標

伝統的にローバースカウト部門と名付けられている、  
年長部門の役割は重要です。  
それでは目的と目標を明確にしましょう。



### 目的

ローバースカウト部門の目的を以下の通りに定めることができます：

- A) 青春から成人期への移行を支援し、最終段階として完成された大人への道を進んでいる青年を支援すること。

18-22歳の年齢層に対してスカウティングが提案するものは、主にボーイスカウト運動が必要とするリーダーを発掘することに絞ってしまうのではなく、我々の最初の目標のとおり、青年が創造的で積極的な方法により、自分の居場所を社会の中に見つけるのを支援することによって、青年プログラムをまとめていくことでなければなりません。これは、スカウティングの使命と一致しています。

この年代の青年にとって最も重要な課題は、人生における自分自身の道を捜し出すことです。彼らは社会にでて、職業人としての生活を始めなければなりません。彼らは、自分自身が積極的に差別のない人間関係を築き、維持するように訓練されなければなりません。最後に、彼らは地域、国家および国際的なレベルの社会活動に積極的に参加する市民として、自分の属するコミュニティにおいて責任を引き受ける方法を学ばなければなりません。

ローバースカウト部門の教育の目的は、この点で定められなければなりません。

### 目標

ローバースカウトの目標のいくつかは、次の通りです：

- A) スカウティングが認める成長の分野、すなわち性格の成長につながる、身体的、知的、感情的、社会的、精神の分野において、青年に自分自身を成長させることを保証する機会を提供します：

カブスカウトからローバースカウトまで、一貫した教育の目的に基づく進歩的な計画を提案します。この計画の最終的な目的は、18-22才の青年に提案されるものです。ローバースカウトと若いリーダーには自分自身を成長させる必要があり、スカウティングはそれに応えなければなりません。したがって、若者はこれらの目的を達成するよう励まされ、その能力に適した支援が得られなければなりません。

- B) 青年に対し今日の世界における課題に挑戦する機会を与え、その課題と向き合うための動機と技能を習得させること（自分の属するコミュニティや自分の国の中のだけでなく国際的なレベルのものも含む）。

青年が自分の生きる世界を理解することは重要です。彼らが活発な役割を果たして、より良い未来を創ることに貢献するための動機と技能を身につけることが重要です。

- C) 青年がリーダーシップの経験と技能を身につけることを支援すること。

スカウティングにおいて、リーダーシップは他の人々と良く協力することができるようにするのに積極的な役割を果たすものです。その役割とは、問題を分析し解決すること、争いをまとめて一緒に決定できるようにすること、目的を設定し評価すること、総体的なプロジェクトを組み立て計画すること、コミュニティにおけるルールを確立すること、共に進歩し生活できるようにすること、といったことです。これらの技術を身につけることは、将来、積極的で責任ある市民となるためには不可欠なものです。

- D) 青年が人生における自身の道を切り開き、社会的・経済的に自立することができるよう支援すること。

これは青年にとって一番の課題です。価値観と精神のバランス、家族を築く、職業の選択、市民の責任といった要素を備えて、社会において自活できるよう準備をしなければなりません。昔にくらべて成人の役割への移行がずっと複雑で難しいので、この問題は現代において、社会的に非常に重要です。このプロセスで効果的役割を果たす能力が、スカウト運動の信頼性において、ますます期待されています。





### 3. 一貫性のある我々の使命

「スカウティングのちかきとおきてに基づく価値体系を通して、人々が個人として自己の力を発揮し、より良い世界を築き、社会で建設的役割を果たすことができるよう、スカウティングの使命は青年の教育に関与しています。」

一部の各国スカウト連盟においては、意識的に青年との関わりが抜けてしまっているようで、前青年期の年齢の範囲だけに集中しているという懸念があります。青春期の若者とともに働くことは難しく、高い資質の成人のリーダーを必要とします。高い年齢部門のプログラムはレクリエーションとしてだけでなく、青春期の若者が直面する、生活、危険なふるまい、愛、性別役割や性差別、コミュニティとの関係、職業の選択といった、難しい問題にも対処しなければなりません：

これらの問題に背を向けてしまったら、スカウト運動の価値とは何でしょうか？それは、使命として筋が通っているのでしょうか？

あるスカウト連盟が世間の悪いイメージについて不満を言うとき、若者や青年のニーズを満たすためにどんな努力をしたかについて、自分自身に尋ねるべきではないでしょうか？社会が最終的に期待することは、まさにその努力ではないでしょうか？

グリーンアイランドが私たちに言いたいこと：

あなたはどのように各国スカウト連盟の成功を評価しますか？その教育的な提案によって？そのプログラムの品質によって？その成人向けリーダートレーニング計画の効果によって？その構造の、または、その通信システムの効果によって？いいえ、これらのすべての面は、最終段階での評価手段です。スカウト連盟の質は、それが成し遂げる結果で測定されます。そして、あなたはどのようにそれらの結果を判断しますか？その加盟員数が増加したかどうか？これは重要な基準です。しかし、それは十分でも正確でもありません。加盟員数は、スカウト連盟には直接的な影響がなく、社会経済の文化的な状況によって変動します。あなたがスカウト連盟の質を審査するための主な基準は、私の考えでは、社会の責任を引き受ける事のできる動機と技能を持って、ローバースカウト部門を卒業する青年の数です。

私たちがプログラムの品質について考えるとき、しばしば運動に加わる青年の数を知らうと多くの時間を費やします。むしろ私たちは、社会の開発に活発な役割を果たす能力を持ってローバースカウト部門を旅立つ人がどのくらいいるかということについて、注意を払わなければなりません。

結局、スカウティングの使命は、効果的に社会の発展に貢献できる、自主的で、頼りになり、信頼できる人を育てることによって、より良い世界の構築に関与することです。

そういうわけで、高い年齢部門は、私たちの運動における主役となります。スカウトプログラムの最後の段階となるのですから、スカウト運動を卒業しようとする若者が活発で、信頼できる、有能な市民としての動機と技能があるようにすることです。そうするために、スカウト活動を提供し、若者のためにコミュニティにおける責任と行動の領域を拓けることとなります。地域、国家および国際的なレベルで身のまわりの社会を調べ、更には人類を発展させるのに弱点となっているものや、その欠点とニーズを知ることを奨励しなければなりません。プロジェクトを企画し実行するために若者を支援しなければなりません。そのことは、若者が社会の発展に貢献する方法を見出すことにも繋がります。

このように、青年が自分の職業、すなわち社会の発展のために自分が担う役割を見つけること、そして自分がどのように行動していくかのプランを作成することを支援しなければなりません。

スカウティングで多くの国が今日直面している現実のうちの1つは、加盟員が減少しているということです。最も心配なのは、この減少が主に青春期の加盟員に集中していることです。これは、青年期よりもむしろ少年期たちのための運動として活動しているスカウト連盟が多かった、ということです。

私たちが思春期直後の若者をスカウティングに留めたいならば、彼らのために「場所をあげなければならぬ」ことは、明白なようです。スカウティングには、青年が成人期に達するのを支援するための、はっきりした展望がなければなりません。これは、この教育的なプロセスがスカウト活動の最終段階であり、他部門のもの（カブまたはボーイスカウト）と同じくらい重要であることを意味します。そのつもりで、私たちはこの年代のための「活動するための場所」（目的や実践内容を持った部門）を作り、挑戦的で面白いプログラムを提供しなければなりません。

各国スカウト連盟により実施された多くの調査と年齢部門の構造を分析するならば、思春期直後の部門が弱いスカウト連盟は、思春期年代の部門も弱いことが分かります。上位の年齢部門に注意を払わない連盟では、思春期年代のスカウトが（未来に期待できなくなって）興味を失ってしまい、この運動から離れていく、ということが言えそうです。

他方、いくつかの事例によれば、長期的に見れば、ある期間「ローバースカウト年代のスカウトをローバースカウトとして活動させようとする」ことで、（若い部門を支援するために動員されるので、しっかりしたローバースカウト活動がないこと的主要原因となっている）指導者の不足を改善できることが示されています。教育的なプロセスを完了する人々の総数からすると、彼らの多くは、非常にポピュラーな方法で、社会において活動的でありたい、と願うようになるのです：即ち、ボーイスカウトのリーダーになる、ということです。

こうした理由のために、各国スカウト連盟が青年に対し質の高い提案を行い、しっかりしたローバースカウト部門を作っていることは、スカウティングの使命を達成しているかどうかを測るよい指標となるのです。

#### 4. 結論

ローバーリングは、成人期に通じている「道」の最後の段階にいる人々に対し、スカウティングが提供する学習環境です。スカウティングが「教育として提供するもの」としては最後の段階のものであります。

ローバースカウト部門の目的は、青春期から成人期への移行を助けて、成人の社会へと至る最終段階において、若者（若い女性と男性）を支援することです。

ローバースカウト部門を持つことはスカウティングの使命を成し遂げるのに貢献するだけでなく、より若い人々にスカウティングを提供する機会でもあります。そして、若者の生活と世界全般に違いをもたらします。



### “Scouting an Educational System” . (教育システムとしてのスカウティング)

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者に向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)



### “Achieving the Mission of Scouting” . (スカウティング使命の達成)

この文書は「使命声明を理解する」ためのものです。使命声明を理解して、各々の各国スカウト連盟内でそれを用いることは重要なステップです。しかし、スカウティングの使命を今日の世界において達成するという次のステップに移行するならば、我々の行動に直面する鍵となる「課題」を調べて、様々な「課題」の基礎をなす問題を考慮し、行動を起こすことが必要です。世界スカウト機構に加盟する各国スカウト連盟が自国の言語と文化において使命声明を理解し、解釈して、広めるのを支援しています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

### “Understanding the Mission Statement” . (使命声明を理解する)

この文書は、スカウティングの使命声明を調べて、テキストを解釈するための様々な方法を提供します。この文書の狙いは、世界スカウト機構に加盟する各国スカウト連盟が、自国の言語と文化において任務声明を理解し、解釈して、広めるのを援助することです。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

### “The Green Island” . (グリーン アイランド)

The Green Island は、各国のユースプログラム委員会が、ユースプログラムを更新する計画 (RAP ラップ) へどのようなアプローチを用いるか考える際に、役に立つ物語です。これはラップ・ツールボックス (下記参照) とともに読む必要があります。ラップをより良く理解することで、プログラムへ新たなアプローチをする際に補完的な情報を得て、事例研究として使うことができます。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

### “The RAP Toolbox” . (ラップ・ツールボックス)

The Renewed Approach to Programme (RAP) は、ユースプログラム開発の新しい切り口です。各国スカウト連盟がユースプログラムを更新したり、改善する際の助言とすることができます。RAP ツールボックスは世界プログラム方針を説明し、新たなプログラムの切り口を、非常に簡単に総合的な方法で紹介しています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

### “Youth Programme: The World Programme Policy” . (ユースプログラム：世界プログラム方針)

第32回世界スカウト会議で採択された方針声明と、関連した背景が含まれています。方針はユースプログラムを定め、プログラム開発の過程を記述し、プログラムをもたらすことについて述べ、各国スカウト連盟の責任と、この分野のスカウト運動の世界組織を概説しています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

### “Constitution and By-Laws of the World Organization of the Scout Movement” . (ボーイスカウト運動の世界組織の機構と規約)

世界スカウト機構の活動を定める規約です。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

## REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 Constitution and By-Laws of the World Organization of the Scout Movement
- 2 “Scouting: an educational system”, WOSM
- 3 You can find RAP and other tools for programme development on [scout.org](http://scout.org)
- 4 The Green Island, Dominique Bénard and Jacqueline Collier
- 5 See “Achieving the Mission of Scouting”. Find this booklet at [www.scout.org](http://www.scout.org)



## エルサルバドルで暴力に立ち向かうスカウト

エルサルバドルの多くの若者は、暴力の文化の窮地に陥っています。これは、平和条約が1992年に締結されるまで、長年続いた内戦によります。都市への人々の流入によって、都市開発とユース・ギャングの組織化が早まりました。

若者はギャングを組織し、自己と自尊心を表現しようとし、それだけではなく、縄張りを作って、反対勢力と戦い、特定の地域を支配したいという願望を持つようになります。路上での暴力や殺人が増える中、爆弾が校庭に放り込まれ始めたとき、地域社会は特に衝撃をうけました。

教育機関はこれらの事件に関係する人々を罰しようとすることによって反応しましたが、これらの問題を防ぐことはほとんど成功しませんでした。あるスカウトのリーダーは、スカウト教育法を用いることで、この問題に対処できるのではないかと考えました。

対抗するギャングと一緒に7つの異なる学校の15-20歳の学生を招待して、数日間、都市環境から離れて楽しい冒険プログラムを提供することにしました。出席した若者の多くは、これまで都市の外に出たことがなかったのです。350人のスカウトのスタッフ・チームは、学生のニーズに対応するために訓練されました。

キャンプの間、若者はすべて「団結隊」と呼ばれる小さなグループに配属されました。彼らは、一緒に働き、プログラムを実施する役割を果たしました。提供されるプログラムは、若者が創造的で、自己を表現する非暴力的な方法を開発して、互いについて学び、彼らの違いを受け入れて評価するのに役立つようになっていました。キャンプ・プログラムは、統合、チームワーク、隊生活、役に立つ技術を学ぶ、地域奉仕活動、の5つのモジュールに基づいています。プログラムは学校に戻ってから続き、キャンプで培った関係を築いていきました。

プログラムが開始された2001年以降、学生による暴力が80%減りました。



## 2) 青年の特徴とニーズ

1. 導入	23
2. 世界の青年の挑戦	24
2.1 アジア	25
2.2 ラテンアメリカ	25
2.3 サブサハラ・アフリカ	25
2.4 中東と北アフリカ	26
2.5 発展途上国の小さな島	26
2.6 発展途上国	26
2.7 成熟国	27
3. 成人期への移行：大人の役割にアクセスする年齢	28
4. 青年の特徴とニーズ	30
4.1 精神的な特徴	30
4.2 青年の特徴と発達	31
5. 青年の特徴とニーズに基づいたローバースカウト・プログラム	34
5.1 各々の文化と各々の世代への適合	34
6. 青年に公的な権限を与えること	35
7. 結論	36
Resources	36

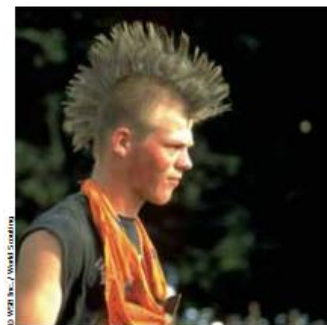
## Key concept (基本概念)

- ・ ローバースカウトとは、スカウト活動の最終段階として、成人への移行期にある青年のこと。
- ・ ローバースカウト・プログラムはスカウティングの基本的な要素に基づき、青年の特徴とニーズを考慮に入れなければなりません;そして、青年は、この過程に関与していなければなりません。
- ・ 青年のニーズを確認することは重要です。そして、それを支える成人や各国スカウト連盟は、伝統や文化を参考にして、そのために最も適した方法を見つけなければなりません。
- ・ ローバースカウト部門はレクリエーション活動を提供することだけに絞られることなく、青年が率先して自分たちの主要な問題に取り組むのを支援しなければなりません: 主要な問題とは、ここでは、性のアイデンティティ、人間関係、愛により家族を築く;職業人としての生活への準備と労働市場への参加;市民権とコミュニティ関係;道徳的・精神的な価値と人生の意味、といったものを指します。



## 1. 導入

青年の特徴とニーズの分析は、単に統計と数の問題だけではありません。各国スカウト連盟は、定期的にローバースカウト・プログラムを更新する義務があります。スカウティングの基本的な要素に基づいて、青年の特徴とニーズを考慮に入れます。これらの特徴とニーズは青年が生きる社会文化的な環境によって変化します。このことが、他のスカウト連盟によって作成されたプログラムをコピーしても、そのスカウト連盟には役立たないことの原因となっています。また、社会そのものが変わるので、青年も世代毎に変わっていきます；これが、運動の基本的な要素を尊重しつつ、ローバースカウト・プログラムを定期的に更新しなければならない理由です。



特徴の分析と青年のニーズに関して、世界中のプログラム開発者と各国スカウト連盟はいくつかの課題に直面しています。その課題とは、以下のとおりです。

- ・「大人の経験と視点」（大人が、「ローバースカウト・プログラムの活動がこうでなければならない」と考えていること）に基づいてローバースカウト・プログラムを作成する。
- ・世界の他地域における青年のニーズや特徴の分析結果が、自国でも同じであると仮定する傾向
- ・青年の今日の特徴とニーズが、過去の場合と同じであると思っていること。
- ・青年の特徴とニーズを分析する際に、青年自身を分析過程に巻き込むことが困難である。

とりわけこれらの課題に応じて、この章は、あなた（国レベルのプログラム開発者）に、以下に関する情報、アドバイス、手引きを提供します：

- ・世界中の青年にとって課題となっていること
- ・成人期への移行
- ・青年の特徴とニーズ（あなたの国で、それらを明確にする方法）
- ・青年の特徴とニーズに基づくローバースカウト・プログラムを作成する。

ローバースカウト・プログラムを作成する際に、各国スカウト連盟が必要とすること：

- ・あなたの国における、青年の特徴とニーズを分析して下さい。
- ・あなたの国における、青年に対する主な懸念、課題と問題を確認してください；
- ・これらの調査結果に基づいてローバースカウト・プログラムを作成してください。

## 2. 世界の青年にとっての課題

文明の進展は、主に、社会の発達と前進に貢献するための機会が個人にどの程度与えられているか、ということで決まります。国連が「青春期」または「若者」と称する15歳から24歳の年代の人口は、2007年の時点で12億人です。歴史や文明の進展を図るための最高に教養がある若者世代であり、世界の人口の18パーセントを構成する、国家発展のための大切な人材です。今日の若者が自己を改善し、社会的・政治的・経済的な構造を改善するために、個々人の活動やグループによる活動を通じて関与していることは明白です。例えば、あらゆる地域の若者が、教育を改善したり、自身の技術の向上や仕事を見つけるために、活発にインターネットを活用しています。若者は、社会活動グループやボランティア活動を通じて大きな発展や政策に関する世界的な議論に貢献しています。そして、時には自分自身の命をかけ、家族や友人との繋がりを失っても、国外により良い選択肢を見つけようとして、多くの若者が移住します。

しかし、多くの活動的な若者人口から得られる恩恵は、自動的に生じません。青春期とは、依存している子供から独立した成人への移行期でもあるので、その期間は激しく、長引くことがあります。しかし、社会が若者のための教育、健康、仕事、スポーツ、余暇の活動に投資することによって、発達に貢献し能力を高めるための十分な導きと機会を青年に与えるなら、若者の能力と資質は早い時期に解放されて、若者が社会に貢献する、ということが現実のものとなるでしょう。

国連の青少年レポート2007年版—若者の成人期への移行：進歩と挑戦—によると、若者の能力から恩恵を得るために社会が実現しなければならないことは、発展のプロセスに従事する青年のための機会を育て、保護することです。そうしないと、社会から若者のエネルギーや活力、革新性を奪い、若者の除外・阻害といった状況に至ることになります。レポートによると、グローバル経済や社会・政治の仕組みが大きな変化を経ていく中で、社会の発展に貢献しようとする青年の力は、青年に能力が欠けているということだけでなく、発展の過程に参加する機会が制限されることによっても束縛される、ということです。こうした理由から、青年に可能性をもたらすだけでなく、雇用、市民活動、政治への参加、ボランティア活動といった分野において青年に門戸を開く、という方針が必要になってきます。発達段階において活動的であることができるような機会を青年にもたらす、効果的な環境が作られなければなりません

鍵となる事項、すなわち世界の様々な地域における青年移行期の機会や課題を鑑みるに、レポートによれば、若者の進歩や、彼らが世界中で直面し続けている課題には、多くの特徴的な面があります。しかし、あらゆるところで一般的に制約となっていることは、青年が発達し参画するための効果的な環境が無い、ということです。教育に対して適切な設備投資が成されていない、質の高い教育を受けたり健康を享受するために高い個人負担が必要になる、労働市場が縮小してしまい若者はなかなか雇用されなかったりすぐに解雇されたりする、といった要因が、地域を発展させるために若者が意味のある参画をすることに対しての本当の障害である、といえます。

いくつかの地域では、多くの青年が、労働市場で効果的に競争することができる教育のレベルに到達していませんでした。他の地域では、青年は高い教育水準に到達しましたが、彼らが身につけた知識と技能に見合わない労働市場しかなく、仕事を見つけることができません。すべての地域では、グローバル化と労働市場の変化により、若者のための労働の場が縮小してしまっています。

若者は均一なグループではありません；彼らの生活に影響を及ぼしている課題と機会は、概して似たものですが、それぞれの独特の環境に由来する重要な違いによって特色づけられるものです。実際に広まっている方法ではなく、よりグローバルな均一性として提案されている方法で問題に対処することを避けるために、国連の青少年レポート2007年版は地域的なアプローチを採用しています。次の資料を見れば、地域において若者に影響を及ぼしている主な課題を知ることができるでしょう：Youth, Education & Employment: A regional perspective.





## 2-1 アジア

- ・世界の青年労働力の55パーセントはアジアに住んでいます。(世界の青年労働力は、2005年時推定で6億3300万人です。)
- ・最も目立ったのは、教育の機会がアジアの多くの地域で拡大したことです。女子の初等教育への就学が増えています。たとえば、インドでは、初等教育に登録される女子の割合は、1998～2002年に84から96パーセントまで上がりました。
- ・アジアは、移民を受け入れる、または送り出す、主な地域となっています。というのは、自分の住んでいる地域の外や国外に多くの雇用機会があるので、永住・非永住のどちらの場合においても、アジアの何百万人も若者が活発な動きを見せています。
- ・高度な技能を持つアジアの若者にとって、OECD加盟国への移住の機会が増えたので、多くの国から相当数の優秀な若者が流出しました。
- ・自国以外で勉強している人々が世界合計の29パーセントに達しているので、東アジアと太平洋地域は、留学生の数が最も多いグループとなっています。
- ・中国は、留学生の14パーセントを占めます。



## 2.2 ラテンアメリカ

- ・ラテンアメリカの小学校の実質登録比率は、発展途上国の平均85%より多い95%です。
- ・読み書きの能力や教育的なレベルの男女差は、世界の他の地域と比較して比較的小さく、大部分の国では読み書きの能力差は、2%未満です。
- ・アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、ホンジュラス、メキシコとベネズエラでは、識字率は若い女性のほうが若い男性より高いです。
- ・アルゼンチンは、高等教育（高校相当）を受けている比率が地域で最も高く、若い女性の4分の3以上と半数以上の若い男性が、より高度な教育を受ける努力をしています（ユネスコ研究所2007年度統計）。
- ・しかし、雇用と所得水準に関してみると、今日のラテンアメリカの青年は、15年前に比べ、よくありません。
- ・2002年に、15歳～19歳の人々のおよそ18パーセントは勉強も働くこともしていませんでした。そして、20歳～24歳のおよそ27パーセントは同じような状況でした。
- ・15～19歳の若者が貧困に生きている割合は2番目に高く、これは社会の最も貧しい層である14歳以下に次ぐものです。

## 2.3 サブサハラ・アフリカ

- ・教育において大きな進展が成し遂げられました。小学生の実質登録数は、1999年の57パーセントから2005年の70パーセントまで増加しました。
- ・高等教育（高校相当）を受けている比率は、1991～2004年の間にほとんど二倍になりました。しかし、中学生登録率は低迷していて、近年ほとんど変化していません。
- ・サブサハラ・アフリカの青年は世界で最も成長が早い労働力です、それでも、アフリカ全ての失業している若者は、1995～2005年におよそ34パーセントに達しています。
- ・多くの若者は、貧困が原因で、ひどい状況下の仕事や農業を引き受けざるを得ません。
- ・貧困の中で生活している青年のパーセンテージはとても高く、ナイジェリアとザンビアの若者の90パーセント以上（ほぼ4000万人）は、1日2ドル未満で暮らしています。

## 2-4 中東・北アフリカ

- ・識字率や学校教育を受ける平均年齢は、1970年代から地域の全域でかなり増加しました。学校教育を受ける平均年齢の男女差は、急速に縮まっています。
- ・この地域は、過去10年の間に、青年の雇用が世界で唯一増加しています。
- ・失業は、全ての年代というよりも、むしろ主に若年層の問題です。この地域では、就業している年代の3分の1を若者が占めますが、失業している人々のほぼ半分を占めるのも若者です。
- ・この地域では、若者の失業率が世界で最も高く、若者の労働力参加は最も低い40パーセントとなっています。中東と北アフリカ地域は、人口に対する若者の就業率が最も低い29.7パーセントで、これは地域の若者のわずか3人に1人しか仕事がないことを意味します。
- ・女性の若者の平均就業率は、2005年は25.1パーセントに留まりました。これは世界で最も低い数値で、地域の割合54.3パーセントも下回ることになります。

## 2.5 小さな島、発展途上国

- ・大部分の小さな島から構成されている発展途上国の就業率は高いのですが、小学校の最高学年まで残る人々の率は大きな差があります。
- ・バルバドスでは、女子の99.5%と男子の95.7%は小学校を卒業していますが、コモロの子供たちで小学校最高学年まで残るのはわずか55.9%だけです。
- ・中等教育の就学率は1990年代後半から増加しています。そして、小さな島から構成されている発展途上国の大多数は中等教育における男女平等を成し遂げ、男子より多くの女子が登録されています。
- ・小さな島から構成されている発展途上国において、若者の失業率は高いままです；カリブ海地域では若者の5人に1人が失業中です。
- ・若い女性は教育において大きな成果を挙げていますが、それが雇用の面に反映されてはいません。女性は若い男性よりも就業率が低い傾向があります。セントルシアでは、労働市場の若い女性のほぼ半分は、失業中です。

## 2.6 経済が移行期にある国

- ・この地域において、初等・中等教育の登録数は数カ国で減少しましたが、高等教育の登録数は経済発展に伴い連続的に増加しました。
- ・多くの国において、高等教育を受けた若い女性の数は多くの国で増え、現在では若い男性の数を上回ります。
- ・しかし、過去20年の間にこの地域で起こった社会経済変化は、若者の労働市場に重大な変化を引き起こしました。
- ・中央および東ヨーロッパでは、青春期の33.6%の人たちは、学校に行っておらず、雇用もされていません。



## 2.7 先進諸国

- ・ 発達した市場経済において若者が得られる機会は、世界の他の地域とは比べるものがありません。
- ・ 全ての教育レベルにおいて、教育を受ける率、教育を修了する率、ともに高いです。
- ・ これらの経済では、雇用されていない青年の総数は、過去10年で減少しました。そして、若い男性と女性はほぼ等しく労働市場に参加しています。
- ・ かなり良い労働市況にもかかわらず、多くの若者は、彼らの技能レベルに一致し、安定した、適切で長期的な仕事を得るのに苦労しています。
- ・ インターンシップは、即座に仕事を見つけることができない人や、良い仕事を見つける可能性を向上させようとする人々にとっての待機期間となったかに見えます。
- ・ 青春時代に満足いく給与を得られる仕事に就くことができないことが、発達した市場経済において、青春から独立した成人期への移行を遅らせてしまう主な要因となっていました。1985～2000年に、発達した市場経済において独立した家庭をつくることのできるような青年の経済力は、下降気味です。
- ・ 若い移住者の流入により、先進諸国の若者の人口は、ますます多様になっています。移住者は、現在先進諸国の人口の9.5パーセントを構成します。



今世紀の中頃までに、高齢者と青年の人口は、世界でほぼ等しい数となります。2000～2050年に、60歳以上の人口は二倍になり、その割合は10%から21%になります。14歳以下の人口は三分の一に落ち込み、30%から20%になります。青年の人口は、人口全体の18%から14%に減少します。

若者が経済的に独立しているか、または家庭に依存しているかの程度は、非常に速く変わっていきます。このことは、若者およびその家族にとって、現在および長い目で見た幸福についての重要な要素を含んでいます。若者の失業率が高いことは、家庭から経済的に独立することを阻害し遅らせています。

世代間の関係も、文化的な傾向に関係します。幼児期から成人期へと移行する段階において、若者は自身のアイデンティティをつくり、両親の文化的な価値基準を受け継ぎ、自分たちの住む社会に適応させていきます。メディアの国際化は、若者が自身のアイデンティティをつくる際に、未来を描く基準や価値を拡げています。若者は、ますます世界中の文化を吸収し、自身のアイデンティティに取り込んでいます。このことは、両親や祖父母との文化的なギャップを広げる原因になる場合があります。若い世代と年齢を重ねた世代の「デジタルデバイド（パソコンやインターネットなどの情報技術(IT)を使いこなせる者と使いこなせない者の間に生じる格差)」もまた、世代間のギャップを広げる原因となっています。

ミレニアム開発目標は、若者に対する国際的に同意された目標の新しいセットと解釈されています。大部分のミレニアム開発目標は、子供から次世代の若者まで直接関連することであり、例えば母親の健康やHIV/AIDSといった重要な問題に対して、若者の興味を引きつけるものでもあります。

青年は市民社会の不可欠な部分です。市民の社会活動への参加は、青年が彼らの将来を形づくることを確かなものとし、若者は、自身の社会経済環境を形づくるのを助ける意思決定プロセスに参画する必要があります。

大部分の若者は、保護された幼児期から独立した成人期へと移行していきます。家族や学校と仲間の支援により、大多数の若者は、青年として意義ある場所を社会で見つけます。少数の若者はこの経路から分かれ、何人かは、自分の社会的地位と彼らの健康に打撃を与えてしまう危険な行動に関わってしまいます。多くの若者は性的な関心を示し、このために落とし穴に落ちる危険があります。ほとんどは一時的な期間ですが、薬物や非常識な冒険を行っています。これらの移行期の危険は、世代を通して大きくは変わらず、今日の大部分の若者にとっても大きな影響を及ぼします。

### 3. 成人期への移行：大人の役割ができる年齢

歴史的、文化的、または環境に特有なものとして形作られたものかどうかにかかわらず、青春期の主な機能の一つは、両親の庇護から離れることです。若者は、自分自身の人生に責任を持ち、決定の際に両親に頼ることを止め、意義ある人生を送ることを学ばなければなりません。そして、社会的関与や財政援助などにより、若者に生涯設計の意味を考えさせます。自己中心の生涯とそうした考えが増長する風潮には、危険の要素が含まれます。結局、なされた決定は、予想されたことと違ってくるかもしれません。このことは、意思決定者としての両親の役割が低くなっていることを意味します、そして、選択の範囲が増加することで、未来はより開かれたものになっていくが、それだけではなく、より不安定になっていく、ということでもあります。成された決定と行われた行動は、意思決定者にとっては直接的な結果につながるもの、ということになります。ある失敗について責任を取るといった基本的な経験は、自主性の明確なサインとなり、だからこそ可能となるのです。

各々の個人は自分の決定に対して責任がありますが、この決定には各人が属するコミュニティまたは社会的な常識が影響しています。これが意味するのは、若者がより自主的になると、その若者は協力と公正に沿って、より理性的に自分の決定を正当化することを学ばなければならないのです。

一般に、大部分の各国スカウト連盟やスカウティングに関連する人達は、ローバースカウトを成人期への移行期の最終段階として定義しています。

ライフステージにおいて、この移行という概念は先進諸国ではかなり新しいものであり、いくつかの地域では今日においても新しい概念とされていますが、大半の文化圏では子供から大人への移行であると認識されています。

そうすることにおいて、一般に、多かれ少なかれ、ローバースカウト部門は青春期の発達段階に重ね合わせられています。ある人はローバースカウトを青春期の最後の期間と見なし、またある人は成人期に移行している青年と見なします。

成人期への移行は複雑なプロセスで、そこでは子どもの時には両親に依存していた若者が、財政的、居住的、精神的に独立し、市民、配偶者、親、労働者といった、より大人としての役割を果たすこととなります。特に若者がこのプロセスについての導きを必要としている時に、要望に応じて導きと経済的な支援や、学習の基礎やライフスキルに接することができるような学習の機会を提供できる地域の繋がりがしっかりした家族があるなら、この移行は成長と達成の期間となりえます。成人期への移行は10代から20代後半への広範囲にわたる年数の間に行われ、大部分の青年は、うまく移行ができます。

青年の多くは、あまりにも早く家庭を持ち親になったり、学校を中退したり、仕事を見つけることができない、法律制度で困る、といったことによって、成人期の移行への妨げを経験します。これらの経験は成人期への移行をより難しくするだけでなく、青年が成人期に差し掛かってからもそのポテンシャルが損なわれ、更にその青年の子ども達がやがて同じようなネガティブな経験をすることになるという、長期的な影響を及ぼすこととなります。

今日の西側社会の大半では、22-25才を中心とした青年が大人の役割を実行しようとしています。

伝統的な社会では、成人期への移行は、昔は今と比べてより早く単純でした。大部分のケースでは、青年が彼らの両親の役割を引き受けていました。大人の役割はそれほど多様でなくて、世代が変わっても役割は変わりませんでした。彼らは首尾一貫して、性、家族、経済、文化と社会に関して同じ特徴を保ちました。農民の息子は農民になり、家族の長として父親の後任となり、コミュニティ内で同じ地位にありました。個人の職業などの選択については、ほとんど機会がありませんでした。





しかしながら、現代の社会では、両親は直接自分の子どもに大人の役割を伝えるということはしません。青年は役割を選ばなければならず、この役割を果たすために長い準備期間を経なければならなりません。現代社会での成人の役割が非常に多様となり、変化があり、複雑であるので、選択は簡単ではありません。このため、性、家庭生活、文化および経済に関する若者の特徴は、首尾一貫していません。若い女性は、選んだ人生に成功するために、結婚を延期するかもしれません。妻がより良い仕事の機会に恵まれたなら、夫は家にいて、子供の世話をすることを選ぶかもしれません。長い期間、難しい学問に従事したとしても、そのことはもはや高額所得と高い社会的地位の保証を与えてはくれません。男性の役割と女性の役割の違いは、少なくなっています。仕事の種類と職層は、非常に速く変わっています。発展途上国では、多くの青年が安定した仕事に就業することができません。途上国の青年が成人の役割へと近づくためには、しばしば、家族（コミュニティ）から離れ、大都会または外国でその機会を発見しなければならなくなります。

今日、成人期への移行は長くて複雑なプロセスです。その間、青年は連続したステップを経て、知識、住まい、生計、最終的には社会的地位に関して家族から独立しなければなりません。それから、市民、労働者、配偶者、親としての大人の役割を果たしていくことになります。

それが個人ごとのアイデンティティの形成と関連があるので、この長いプロセスは質問と不安のもとです。青春期の初期段階の間、もし青年が高い学歴を得られれば、「私は誰？」という問いに対して、楽しくポジティブに応じていけるでしょう。彼らは自分自身に疑問を持たず、自身の可能性をより知るようになります。彼らは、「否定的なアイデンティティ」（非行な行動）を採り入れる代わりに、いろいろな建設的役割を経験し始めます。劣等感や企画能力の欠如によって麻痺せず、成功を期待して成し遂げることができるようになります。

この進化は、青春期の最終段階と成人期への移行の間、続けられ強化されなければなりません。

個人ごとのアイデンティティの探求は、大人の役割のいろいろな側面と一致しているいくつかの方面において行われます：

・ **性のアイデンティティ：**

女性としてどのように、または男性としてどのように、社会におけるポジションを確立するのでしょうか？「男性であること」「女性であること」のモデルは、どのように選べばよいのでしょうか？現代の社会で、男らしさの優位なモデルがあります。男性はしばしば挑戦しなければなりません。若者はいろいろなモデルと向き合っていて、自身の個性により男性または女性に合致したことを自分の方法で見出すよう、選択していかなければなりません。この問題は人間関係、性的関心、愛、夫婦として家族に生計をたてられることなどに関連があり、このことは青年にとって重要な問いとなります。

・ **職業のアイデンティティ：**

私はどんな職業を選ぶべきでしょうか？どのような価値観から選べばよいのでしょうか？個人としての成功や幸福と、連帯や地域に参画するといったことは、競合するのでしょうか？私が学んでいることは、職業の選択に備えたものなのでしょうか？多くの国において若者が労働環境に接する割合は非常に異なるので、これらの質問は非常に難しいです。

#### ・文化的、市民/政治的なアイデンティティ：

現代の社会は、主な文化的・市民的モデルを守る一方で、文化的なルーツを維持することの困難さに直面するという点で、しばしば多文化的な社会といわれます。同時に、青年は地域の問題に立ち向かい生活の質を改善していくことに活動的に関わる機会を得ることができます。しかし青年は、地域において市民として参画することについては困難に直面しています。

#### ・精神的なアイデンティティ：

青年は、自分の家族とコミュニティから受け継いだ精神的な伝統に、自身の位置を定めなければなりません。もし世界がより弱い人々を落胆させてしまうような競争によって導かれてしまうように思えるなら、どのようにその精神性と、元となる価値とを一致させればよいのでしょうか？

多くの青年はこうした問いを心配していて、今日の世界に対し否定的なイメージがあります。しかし、若者は将来の見通しがそれほど暗くないということを知らなければなりません。特に若い女性にとって、伝統的な社会は圧制的で閉じられていました。現代の社会では、もし若者が受け身に回ることなく、率先して物事にあたることのできるのならば、若者は自己成果の多くの機会をつかむことができます。

特に青年には、もし自分の道をこのプロセスで見つけるために必要なリソースを得ることができれば、この移行とアイデンティティを模索することは成長と自己成果につながります。こうしたリソースに含まれるものは、助言と経済的支援を提供できるしっかりした家族、コミュニティと関わること、ライフスキルやトレーニングを身に付けるための機会を与えてくれる経験や教育、といったものです。スカウト運動は、これらのリソースから恩恵を得られない人々に具体的な支援を与えなければなりません。

## 4. 青年の特徴とニーズ

ローバースカウト部門のプログラムが明らかに青年のニーズを満たすことに貢献することができ、彼らが成人期において建設的に将来を見つけれられる支援をする。そうするためにはレクリエーション活動を提供することに限ってはいけません。青年が率先して彼らの主要な問題に取り組むことを支援しなければなりません：主要な問題とは、性差別、人間関係、愛、家族を築くこと、職業を持ち労働市場へ参画すること、市民権とコミュニティに参画すること、道徳、精神的価値、人生の意味、といったものです。

「青年の特徴」については多くの研究があります。ここでは最も重要なもののいくつかを紹介します。より正確に青年の特徴とニーズを把握できるかどうかは、各々のスカウト連盟次第です。

### 4.1 精神的な特徴



身体的、知的、感情的、社会的な発達の変化において起こる精神的な特徴が大部分の個人に見られることから、幼児期後半、思春期、成人期初期、といった段階は、発達を測るステージとしては正確なものといえます。

しかし、青年は各成長の段階において発達していくものです。

それゆえ、この年代における一般的な精神的特徴を定義することは難しいのです。個人の違いは、前の年齢の範囲よりも一般的なものとなります。

多くの文化において、18才は法的に成人期の境界を意味します、そして、それを通過している誰もが社会的な責任がある（すなわち社会で彼（彼女）の役割が果たせるように成長した）と思われます。

比較すると、部分的に若者の成長が「より個人化されて」、外部の要因と個人の経歴にいろいろな影響を得ているので、この難しい年齢層に作用するメカニズムを理解しようとはしませんでした。



## 4.2 青年の特徴と発達

一般に、青春期の青年の大部分が迅速に身体的、感情的、知的な発育を完了することで、親交、人間関係、個性化、善悪の判断が落ち着いた、より重要な発育段階へ移行したとすることができます。より若い思春期の時のように、若者の変化は「個別に」様々な形で起こるわけですが、思春期の頃に比べて全体的にその発達は穏やかで、より「内側に」向かって成長することになります。一部の分野では、道徳と対人関係のように、若者自身に潜在しているものと経験や刺激により、非常に異なる特徴を見つけることができます。

### 認知的発達

- ・一部の青年は批判的に考えることができるようになります。そうすると、自分が考えている内容についてさらに考えることができたり、自身の意識について批判的であったりすることができるようになります。このふり返りの第二段階（単に「私は何を考えるのか？」だけではなく、「なぜ私はそう考えるのか？」）により、個人のアイデンティティ、道徳的な価値体系、信頼体系に向かって成長することができます。

### アイデンティティの発達

- ・青年は、自己のアイデンティティを確立しようとしています。アイデンティティを探っていくということは、現在・過去・未来を統一した考えで全体を作るために、意味のある自己概念を持つことを含みます。
- ・彼らは自分で「私は誰？」「私はどのようになりたいか？」という疑問に答えなければなりません。
- ・青年は、一貫した自己概念を発達させる際に、自問、再評価、試行錯誤の期間を経験します。
- ・青年は両親から自立する、独立して活動する、といった自主性を発達させます。同様に、青年は他の権威的存在についての判断を評価します。
- ・一部の青年は自分の性的関心を受け入れて、成人期の半ばまでに男性または女性としての自己認識を概念化します。
- ・青年は職業選択に関しても、「成人の経歴」を決める前に、一つ以上の職を経験しています。
- ・青年は、価値観、宗教的な信条、職業のゴールと人生哲学について、個人のシステムへの関与をします。

## 個人間の発達

- ・一部の青年は、彼ら自身の外側に踏み出すことにより、それぞれの人間関係 — 感情、行動などの関係やそれらの二—において、その両方を考慮することができます。人間関係は、より相互に関連づけられます;信用、友好と忠誠は、人間関係における有意な要因です。
- ・彼らは、自分自身、仲間、集団とともに更に大きな社会を築き、彼らの展望を拡大します。より大きな世界の眺めや姿勢が、さらに理解され、考慮に入れられます。
- ・青年は、より深い動機、感情、他の個人や民族（例えば国、階級）のグループへの思案パターンを理解することができます。
- ・彼らは、他の個人が信条、態度と彼ら自身の信念システムと異なるかもしれない価値を調整した行動を理解していません。



## 友情の発達

- ・一部の青年は、同性メンバーや異性メンバーと、人を疑わない、永続できる個人の友好を深く進展させています。相互に関係することで親密になります。
- ・青年は、「私は誰？」の問いかけから自分を他者に受け入れてもらい、自分の最も深い部分を共有することができるよう、自分を受け入れてくれることと愛にあこがれています。

## 道徳の発達

- ・一部の青年は、従来、道徳的であろうとします。自分自身よりもむしろ他の何かからの期待という点で、道徳的ジレンマを解決する結論をだします。この「他の何か」は、より個人的なものであり得ます。友達や大事な人が、何かをする時にどのように考えるだろうか、ということです。ある状況について法律やよく整備されたシステムが求めるものについては、より人間味のないものとなり得ます。
- ・一部の青年は従来の道徳的な理論を超えて動きます。新しい経験や情報の点から、昔からある（受け継がれてきた）道徳の原理を評価したりします。このことは、不安定な物を壊したり再構築したりすることを含みます。それは道徳の原理に一種の真空を作ることがあり、そこでは若者は懐疑的で、否定的で、相対論的であったりします。

## 信念の発達

- ・一部の青年は、自身の信念のアイデンティティを確立するのにもがきながら、批判的に自分の人生とその意義を考えます。公的に信頼されたコミュニティとも距離を置き、彼ら自身の信念、人生と旅立ちに向かいます。信念の知的な擁護を求めるようになります。自分が生きるに値する信念を見つけるよう努めて、コミュニティの判断や方法に対して批判的な判断に従事するようになります。
- ・青年は、個人的に評価される信頼システム/表現をつくり始めます。彼らは、深刻に自身の責任、ライフスタイル、信条と行動の責任に重圧を受けます。彼らは、内部志向の信頼アイデンティティを発達させます。彼らは、信念と行動の整合性に関心を持ちます。

## 社会と労働市場の統合

社会と労働市場の統合は、大方の青年にとってかなりの課題で、青年にとってはさらに大きな挑戦を意味します。実際、個人や社会の発展に多くの困難を経験した青年は、自分自身を社会や労働市場に融和させようとすると大きな課題に直面します。Ouellette と Doucet (1991) は、個人としての弱さ、職業アイデンティティが示す特徴と個人的、社会的、教育的な職業の特徴が、参加を困難にしていることが似ていると述べました。社会および労働市場への参加と計画に関する要因のモデルの開発に至りました：



最近の文書で、世界銀行は以下の分析をしました。

「青春期とは、特定のカリキュラムやキャリアパスにおいて決心しなければならない、重要な時期です。ここで決めたことは、最善でない場合があります。というのは、大学のコースや求人案内における情報が不完全であったり、情報が欠けていたり、中等学校や職業訓練学校における教育が十分でなかったりするからです。

また、仕事を求める若者は、労働市場においてある種の壁を感じる場合があります。しばしば、雇用主は新規に就職する人（未経験者）を雇うのをためらうことがあるからです。多くの若者は、以前に働いた経験がないまま、労働市場に参画します。多くの国で、教育制度は、初等教育と仕事を結びつけるという視野を提供しません。働いた経験が不足していること、特に技術が不十分であることは、良い賃金を得られる仕事に就くことの障害となります。雇用主が求めるのは即戦力となる人材であり、必ずしも若者を一人前に育てるためのコストを引き受けようとはしません—あるいは、単に財政的・人材的にそうする余裕がない、ということもあります。

今までに挙げたリスクは、生物学的・精神的・社会的に弱い全ての子供や若者に影響することから、貧しい者により大きな影響を及ぼします。様々なリスクにさらされたり社会のセーフティーネットが少ないという理由から、貧しい子供や若者はより弱い立場に立たされます。乳幼児死亡率、病気、障害、認識力の欠如、社会が発達していない、といったことは、貧しい子供や若者にとってはより影響が大きなこととなります。」

世界銀行の文書が明確に示していることは、近年、青少年団体は青年期の若者が直面している本当の問題にきちんと対処しておらず、そのため若者からの信用を失っているということです。

最後に、最もありふれた若者の特徴とは、一般的にこの年代の若者が取り組む課題の結果、即ち成人としての役割に取り組む、ということです。



## 5. 青年の特徴とニーズに基づくローバースカウト・プログラム

スカウティングにおける青少年プログラムの定義の長所は、スカウト運動において青年が行う全てのことをスカウティングの原理と目的に向け、スカウト教育法の下に行う、ということを強調できる点にあります。

第32回世界スカウト会議で採択された世界プログラム方針は、青少年プログラムは一度に決めてしまっても良いものではなく、各世代の若者や各国のニーズと希望を採り入れていくべきものである、という考えに基づいています。

この方針では、「若者のための」プログラムと対照させて、「若者による」プログラムに言及しています。このことは、プログラムは青年の希望と参画により開発するものである、ということの意味しています。つまり、若者自身が発達と幸福の担い手である、ということです。

しかし、このことは、教育的で励みを与える成人の存在を拒絶する、という意味ではありません。プログラムの開発と実施において、成人は若者が潜在能力を活用できるよう、可能性を提案し、選択肢を提供し、動機づけ、助ける、という立場にあります。

それでも、青年の希望を考慮に入れることなく、またプログラムの開発と実施のプロセスに若者が積極的に関与することなく、これらを成し遂げることは出来ないのです。

この理論は、スカウティングの魅力のまさに核心となるものです。1909年に、ベーデン・パウエル卿はチリ大学で行った即興の演説において、自身の教育の概念について語りました。「漁師が釣り針に付けるエサ（例：虫）は、一般に、漁師の食べ物の好みとは無関係であるが、対照的に、魚の好みには合わせなければならない。」

青年は、自身の人格が調和の取れた発達をするからという理由でこの運動に興味を持つわけではありません。青年がスカウトになった理由は、彼らのニーズと希望を満たすわくわくするような活動に参加することが出来るチャンスを得られるからなのです。

しかし活動は、ただわくわくするものである以上に、教育的なものでなければなりません。そのため、若者が自身を発達させることが出来る技術を会得するよう、支援しなければなりません。

ローバースカウトのプログラムは、教育の目的に基づかなければなりません。我々が信じることは、ローバースカウトのプログラムは若者の発達を締めくくるものである、という意向・知識・技術を、教育者だけではなく若者自身も認識していなければならない、ということです。活動の基礎を成す教育の目的に焦点をあてることなく活動を提供することは、青少年プログラムを「行動主義」の罠に陥らせる危険があります。そうすると、活動を自分自身のためだけにするようになり、受動的に繰り返すようになり、徐々に質が落ちていくこととなります。ゴールを目指さないプログラムは、理解され難いかもしれないし、新しいニーズに合わせることはできません。そうすると、あっという間に硬直化して、結局は時代遅れなものとなってしまいます。

スカウティングは、若者を自身の発達に責任があるようにするよう、努めるものです。標準化された指示を受け身的に受け取るのではなく、自分自身で学ぶことを勧めるようにします。

ローバースカウトのプログラムは、基本的に青年が支持する目的に基づいたプログラムです。これらの目的は年齢とともにますます個人的なものとなっていきます。青年がこの運動に参加するのは、面白い活動に参加するだけではなく、若者自身のニーズと希望に対する答えを見つけるためでもあるのです。

もしある国のスカウト連盟がもはや青年を引きつける魅力が無く、18歳以下の部門でしか新人が入ってこないのならば、おそらくそれは、青年と協議したり、青年のニーズや希望を考慮することなく、成人だけでプログラムを設計したことによるものでしょう。

### 5.1 各々の文化と各々の世代に適合させて

青年の世界には、多様で絶えず変化する興味に焦点をあてるという、独自の活力があります。この理由から、本当のローバースカウトのプログラムは一度に定めることができません。各国スカウト連盟は、独自の具体的な活動、方法、教育目的を自由に作り上げることが出来るだけでなく、発展する青年の世界や社会全体に適應できるよう、定期的にプログラムを改訂しなければなりません。





## 6. 青年の力を引き出す

この章の前のセクションで分析されるように、ローバースカウトのプログラムは、今日の世界における課題と傾向に直面する機会を青年に提供しなければなりません。したがって、自分自身の発達に取り組み社会に参与するよう青年に力を与えるということは、ローバースカウトのプログラムを成功させる鍵となる要素の一つであり、スカウティングがよりよい世界を創ることに貢献することにもなります。

ローバースカウトのプログラムが若者に多種多様な活動を提供することが出来る一方で、若者がこの年代の具体的な課題に取り組むのに役立つような経験を強調することが必要です。

したがって、ローバースカウトのプログラムでは、若者のスカウティングにおける個々の進歩に関して、次のことを提案します：

### ・活発な旅と異文化の経験

ローバースカウトのプログラムは、他の国、他のコミュニティ、自分自身の文化環境を発見するような機会を若者に提供しなければなりません。

活発な旅と異文化の経験を提供することで、ローバースカウトのプログラムでは次のことができます：他の文化を発見したり国際的な／異文化の経験をすること、視野を広げること、他の文化を理解し自身の文化を評価すること、国際的な関係を育むこと、組織的な技術を磨くこと、等。

### ・荒野での冒険

ローバースカウトは、山や森でのハイキング、カヌー、登山といった、荒野での活動を好む趣を育てなければなりません。こうした活動によって、チームワーク、環境や野生動物の保護、資源を浪費しない生活といった、実際の生活においても推奨される事柄を育むべきです。

### ・地域への奉仕活動

これは、環境、開発、平和、教育、飢えと貧困、情報通信技術といった事項に関連する、地域への奉仕活動です（ベーデン・パウエル卿は「奉仕する」ことをローバースカウト部門へのモットーとして提案しています）。

このことは、若者に地域や国、そして国際的なレベルでの活発で責任のある市民としての意識や、男性と女性の連帯、共通のゴールに向かって考え行動する能力をを育む機会を提供します。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードはこの分野の実施を補うことができます。

## ・社会と経済の統合

若者の失業や不完全な雇用は、至る所で問題となっています。実際、それは全ての市民に雇用の機会を作るといふ、大変な努力のうちの一つとなっています。好ましくない事実として、経済が成長しても、必ずしも雇用の増加を伴わない、ということもあります。以前述べた通り、若者は労働市場に加わることで、そして経済社会に組み入れられることに備える、という面において困難に直面しています。ローバースカウトのプログラムは、若者が専門的な職業にとって不可欠な技術、すなわち時間管理、チームワーク、プロジェクト管理といったことを学び経験する機会を提供しなければなりません。同様に、この分野における世代間の関係も考慮されなければなりません。

これら4つの分野については、セクション3 “What” –ローバースカウト部門における活動一にて述べます。

## 7. 結論

若者に関係した意味のあるプログラムを作るとは、若者のニーズや期待、抱負に基づいたものでなければならず、同様にその国の状況や文化に基づいたものでなければなりません。そのため、現実を知り、具体的な課題に対処することができるということは、とても重要なこととなります。

情報を集めるには様々な方法があります（「情報はまず少年に聞け」の言葉を思い出してください）。そして、最も効果的な方法の一つは、プログラムのデザインに青年を直接参画させることです。これにより、若者のニーズを明確にすることができ、明確でより成功の見込みがあるプログラムを実施することができるでしょう。

## Resources リソース

### 国連の世界ユースレポート2007年度版

若者の成人期への移行：「進歩と挑戦」

このレポートでは、世界中に約12億人いる15歳から24歳の若者に関する課題と機会について述べています。2003年版・2005年版とは異なり、15の主要地域で行った若者のための世界アクション・プログラムにおける主な若者の発達の傾向について、各地域についての概要をまとめています。レポートにより、雇用、教育、健康、貧困と暴力といった、若者の発達に関する主な問題について調査しています。同時に、レポートは発展の担い手としての若い力に焦点をあて、若者が重要な貢献をすることをサポートするよう推奨しています。詳細については、次のホームページを参照して下さい。www.un.org/youth

### 国連の世界ユースレポート2005年度版

2005年は、1995年に国連総会で若者のための世界アクション・プログラムが採択されてから、10年にあたる年です。このレポートは、国連総会の公式なレポートで、世界アクション・プログラムについての新たな責任と呼ばれています。というのは、二億人以上の若者が貧困のうちに暮らし、一億三千万人の若者は読み書きができず、8800万人が失業中、1000万人がHIV/AIDSに苦しんでいるからです。詳細については、次のホームページを参照して下さい。www.un.org/youth

### 教育システムとしてのスカウティング

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者に向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は下記ホームページのリソースエリアから入手できます。

www.scout.org





## REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 Extracted and adapted from the United Nations' World Youth Report 2007: Young People's Transition to Adulthood: Progress and Challenges. United Nation publication. [www.un.org/youth](http://www.un.org/youth) (accessed December 2008).
- 2 Idem. P.36
- 3 Regions identified by the United Nations are not the same as the regions established in WOSM.
- 4 United Nations' World Youth Report 2007: Young People's Transition to Adulthood: Progress and Challenges. P.16
- 5 Idem. P.16
- 6 Idem. P.17
- 7 Idem. P.17
- 8 Idem. P.17
- 9 Idem, P.40
- 10 "Youth, Education & Employment: A regional perspective. Fact sheet." United Nations' World Youth Report 2007 – Young People's Transition to Adulthood: Progress and Challenges. [www.un.org/youth](http://www.un.org/youth)
- 11 Organization for Economic Cooperation and Development
- 12 See United Nations, World Youth Report 2005. <http://www.un.org/esa/socdev/unyin/wpayintergenerational.htm> (accessed December 2008)
- 13 See United Nations, World Population Prospects: The 2002 Revision Highlights (New York, 2003).
- 14 See United Nations, World Population Prospects: The 2002 Revision, vol. II, Sex and Age (United Nations publication, Sales No. 03.XIII.7).
- 15 See United Nations, World Youth Report 2005. <http://www.un.org/esa/socdev/unyin/wpayintergenerational.htm> (accessed December 2008)
- 16 See [www.un.org/millenniumgoals/](http://www.un.org/millenniumgoals/) (accessed December 2008)
- 17 See United Nations, World Youth Report 2005. [www.un.org/youth](http://www.un.org/youth) (accessed December 2008)
- 18 See United Nations, World Youth Report 2005. [www.un.org/youth](http://www.un.org/youth) (accessed December 2008)
- 19 European Union Study on Sport as a Tool for the Social Integration of Young People No. 1999-0458/001-001 SVE - SVE4ET
- 20 Rover Commissioner Resource Kit. "RoCoReKi" European Scout Region. 2005
- 21 Ronald Rindfuss, C. Gray Swicegood and Rachel A. Rosenfeld, "Disorder in the Life Course: How Common and Does It Matter," *American Sociological Review* 52, no. 6 (1987): 785-801.
- 22 A KIDS COUNT/PRB/Child Trends Report on "The Transition to Adulthood: Characteristics of Young Adults Ages 18 to 24 in America"
- 23 This synthesis is based on the work of Charles Shelton in *Adolescent Spirituality* (Loyola University Press, 1983) and James Fowler in *Stages of Faith* (Harper and Row, 1981).
- 24 *The Social and Labor Market Integration of At-Risk Youth*. ERIC Digest.
- 25 Investing in children and youth, a strategy to fight poverty, reduce inequity and promote human development, the World Bank, January 2004.
- 26 Extracted and adapted from the RAP Toolbox. World Organization of the Scout Movement, World Scout Bureau 2005
- 27 As defined by the World Programme Policy adopted by the 32nd World Scout Conference, Paris, 1990
- 28 Refer to Chapter: "Educational objectives and personal progression".
- 29 Refer to Section WHY: Activities in the Rover Scout section.
- 30 More information at [www.scoutsoftheworld.net](http://www.scoutsoftheworld.net)
- 31 World Programme of Action for Youth to the Year 2000 and Beyond. United Nations [www.un.org/youth](http://www.un.org/youth) A/RES/50/81 (accessed December 2008)
- 32 "Scouting: an educational system". World Scout Bureau, 1998. WOSM



© West Inc. / West Inc.

## 第2章 “HOW”

青年プログラムとは、若者がスカウティングにおいてWhat（何を）行うのか（活動）、How（どのように）行うのか（スカウト教育法）、Why（なぜ）行うのか、の総合的なものです。



### How :

ローバースカウトのプログラムにも、その実施方法を左右する非常に重要な要素があります。それはスカウト教育法です。スカウティングで用いている手法が「スカウト教育法」と呼ばれているのは、それがいくつかの教育的ツールから構成される、という事実があるからです。そのツールとは次の通りです：ちかいとおきて、行うことによって学ぶ、チーム・システム、象徴的なフレームワーク、個人の進歩、自然・成人の支援。これら教育ツールの多くは、プロジェクトに関してチームで作業する、といったように教育においてその他の形態で用いられることがあります。しかし、スカウティングにおいては、これら独特のツールをスカウト教育法の要素と呼んでいます。それぞれの要素は全体の一部分に過ぎません。これらの要素が全体を形作り、システムとして用いられるという事実が、スカウティングを特色あるものとしています。

この章は、7つの項目に分かれています。

### 3) ちかいとおきて

スカウトのおきてによって提案されている価値体系、およびそれを達成するために自身の最善をつくすというちかいに基づいてローバースカウトが自分の選択した人生を送る、ということを意識的に責任付けることです。

### 4) 行うことによって学ぶ

「行うことによって学ぶ」ということは、スカウティングが教育に積極的にアプローチしていることを示しています。このことは、若者がローバースカウトのコミュニティのメンバーに加わった時に様々な経験を含むことを含みます。例えば、役割を果たすことから学ぶ、自身に課された責任から学ぶ、自分たちが選び実現させていく活動から学ぶ、といったことです。

### 5) チーム・システム

チーム・システムは、その仕組み以上に重要なものです。というのは、スカウティングによって提供されるもう一つの教育の機会であるからです。それによって、集団力学、リーダーシップ、参加に対する洞察、といったことができるようになります。成人は、容易に物事を進めるようにアドバイスをする役割を担います。

### 6) 象徴的フレームワーク

「道」、「航路」、「旅」の概念は、ローバーリングを示すのにしばしば用いられます。ローバーリングとは、成人に向かっていく旅と言えます。象徴的フレームワークは、フットワークが軽いこと、私達がある場所から他の場所へ移動する時に見つける新しいこと、といったことに焦点をあてます。旅をして、新しい現実や展望を発見することは、若者の自然な欲求に合致するものです。

### 7) 自然

自然は、非常に多くのローバースカウトのための活動において、申し分のない環境を提供します。若者は自分の能力に挑戦することができます。自然環境を敬い、保護することを考える機会を提供します。ローバースカウトは、身体的な能力を高め、冒険精神を育み、精神的な側面においても経験を積むことができます。

### 8) 教育の目的と個人の進歩

進歩の計画を立てるということは、技術と知識の取得を評価するということです。そうすることで、成人の役割に近づく、社会における責任を受け入れる、といったことに近づいていくことになります。それは個人の発達段階を測る方法であり（教育の目的に合致する）、自身が直面した課題に対処するために各人が身に付ける「ツール」を理解する方法でもあります。

### 9) 成人の支援

どのような教育プロセスにおいても、成人の存在は重要です。ローバースカウトの活動における成人とは、支援をする人であり、アドバイスをする人のことです。成人は、押しやり引っぱりするのではなく、むしろ一緒に歩くことで、ローバースカウトが意味ある経験を積むことができるように助け、その成長に貢献するのです。

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### フランス、ボリビアとスペインのローバースカウト達が、よりきれいな環境のために協力

今日の世界において本当の冒険の一部となるような国際的な機会を想像してみましょう。環境保護、持続可能な開発、偏見に立ち向かう、コミュニティ間に平和をもたらす、といったことです。一つの考えが、世界をより良い場所にすることに貢献することもあります。

こうしたことの多くは、現在、スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードのプログラムに参加している世界中の何千ものローバースカウトの努力によって、実際に起こっていることです。

フランスのローバースカウトは、ボリビアやスペインのスカウトとパートナーを組んで、ボリビアのポトシに旅立ちました。このコミュニティは環境問題や健康問題で苦しんでいました。多くの若者が鉱山で働き、コミュニティには十分な発達の機会がなかったのです。

ローバースカウトはこれらの問題について学び、問題についてもっと知ってもらうことができるよう、コミュニティから参加した若者と共に活動することにしました。スカウトたちはDVDを作成して、鉱山会社が引き起こした地元の川の汚染問題を地元の行政に知らせるようにしました。また同時に、街頭演劇を行って地元の人達にこれらの問題を知ってもらうようにしました。スカウトたちは若者を訓練して、鉱山で働く以外の方法で収入を得ることができる新しいツール（例えば農業）を提供しました。こうすることで、鉱山で働くことを避けることができるようになったのです。





### 3) ちかいとおきて

1. 導入	42
2. ちかいとおきてー背景	43
3. チームにおけるちかいとおきて	45
4. ローバースカウト部門のちかいとおきて	46
5. 結論	47
リソース	47

#### Key concept (基本概念)

- ・スカウトのおきてに従って生きることの価値と意味、そしてスカウトのちかいに含まれる責任について、より高い認識を持つこと。生きていく上での責任。
- ・スカウトのちかいとは、ローバースカウトにとって、自身が発達していく上での道標となるものである。
- ・行いや態度を見直す際における仲間の重要な役割、この見直しを行う際の評価の時間の重要性。



## 1. 導入

ちかいとおきては、スカウト運動の価値を表すもので、若者が生活している文化で用いられている言葉や言語により書かれています。重要なことは、自身に課したことであるから真面目に取り組まなければならない責任について、ローバースカウトが理解し認識している、ということです。スカウティングの価値観に従って生きることにより個人に課される責任は、決して軽く考えて良いものではありません。

概して、おきては前向きに生きるための規則と言えます。これに対し、ちかいは「ローバースカウトであること」に対する個人の責任として表すことができます。

世界中のプログラム開発者や各国スカウト連盟は、ちかいとおきてに関していくつかの課題に直面しています。

それは次のようなことです：

- ・スカウト運動の内外で、しばしば、ちかいとおきてが誤解されている。
- ・ちかいとおきてに用いられている言葉が時代遅れになってしまって、ローバースカウトがその意味を理解しない。
- ・スカウト運動の成人がローバースカウトに対して、ちかいとおきてを、ローバースカウトが真の責任を果たすことを助けるものとしてではなく、単なる形式的なものとして伝えてしまう。
- ・ローバースカウトになりたい若者にとって、何かに対して責任を持つ、ということが難しすぎる。また、責任を持つことは人を成長させるものである、ということを理解するための十分な支援が成されていない。

とりわけこれらの課題に応じて、この項では次のような情報、アドバイス、手引きを記します：

- ・ローバースカウト部門におけるちかいとおきての教育的な影響；
- ・各国スカウト連盟でちかいとおきてはどのように実践されているか；
- ・各国スカウト連盟はどのようにちかいとおきてを展開しているか。

ローバースカウト・プログラムの発展のために、各国スカウト連盟がすべきことは：

- ・青年の価値を高めることを促進するためのツールとして、ちかいとおきてを用いることを定義し、支持し、推奨すること。

## 2. ちかいとおきてー背景

ちかいとおきては、スカウト教育法の基本要素となる部分です。スカウトのおきては、スカウティングの原則に基づいた、生活の規範となるものです。おきては、現在においてはこの運動に参画している人達が生活していく上での指針となり、将来においては発達していくための方向を導くという点で、個人にとっての生活の規範と言えます。また、スカウト隊が機能していくための基礎となるものであるという点から、おきては総体的な生活の規範であるとも言えます。したがって、スカウトのおきてはスカウト教育法の中心となるのです。

個人にとって総体的なものとなる具体的な生活の規範として、スカウトのおきては、実際に経験することを通じて、スカウティングが実践しようとしている「生活規範の様々な意味を見つけて達成すること」をよく理解するための方法を、若者にとって分かりやすく提示します。最終的に、スカウトのおきては若者の価値体系（註：ものごとの価値を、何かを評価するために優劣の序列をつけて整理したもの。例：「真」「善」「美」など。）を後に発達させる際の参考となるよう用いられます。

スカウトのちかいは、スカウト運動に加わることを選んだ時に、一団の仲間達の前で行う制約のことです。スカウトのちかいを行うことによって、若者は、その人がスカウトのおきてを知り、この生活規範に基づき最善を尽くして生きるということを選んだ人であると認識します。

ちかいを通して、若者は、個人の努力によりスカウトのおきてを受け入れ、その決心の責任を負うことを自分から受け入れることによって成長するという、スカウティングの招きを受け入れることとなります。ちかいを立てるということは、自己教育のプロセスにおける最初の象徴的なステップとなります。ちかいを立てるということは、若者が「完璧な」スカウトになったという意味ではありません。これは出発点であり、最終到達点ではないのです。

世界スカウト機構の規約第2章第2節に、ちかいとおきての遵守に関する記述があります。その内容は次の通りです：

「スカウト運動の全ての加盟員は、神へのつとめ、他へのつとめ、自分へのつとめの原理を反映し、各国スカウト連盟の文化や文明に適切な言語で表現され、世界機構によって承認されたスカウトのちかいとおきてを順守することが要求され、またそれによって導かれる。

スカウト運動の創始者によって当初考えられた、ちかいとおきては以下のものである。」

### スカウトのちかい

私は名誉にかけて、次のことに最善を尽くすことをちかいます—  
神と国王(あるいは、神と私の国)に対する私のつとめを果たすこと。  
いつでも他の人々を助けること。  
スカウトのおきてを守ること。

### スカウトのおきて

1. スカウトの名誉は信頼されることである。
2. スカウトは忠実である。
3. スカウトのつとめは、他人の役に立ち、他人を助けることである。
4. スカウトはすべての人々の友人であり、他のすべてのスカウトと兄弟である。
5. スカウトは礼儀正しい。
6. スカウトは動物の友である。
7. スカウトは、親や班長または隊長の命令に黙って従う。
8. スカウトは、いかなる苦境にあっても微笑み、口笛を吹く。
9. スカウトは儉約する。
10. スカウトは、思考、言葉、行動において健全である。



神に対する努め、他者への努め、自身への努めは、ボーイスカウト運動の3つの基本的な原則です。スカウトはどこにいても、スカウティングの原則（すなわち価値）を実践します。その原則とは、スカウティングが創設された時に基づき、スカウト運動全体を支配する倫理規範および各スカウトが抱く生活の規範の基礎となるものです。これらの原則は、精神的な、社会的な、そして自分自身の価値についての、人が持つ積極的で建設的な責任に関するものです。

ちかいは、厳粛な責任です（「私は名誉にかけて、次のことに最善を尽くすことをちかいます」…ということですから）。これに対し、おきては行動規範の形でスカウト運動の信条と目標を定めるものです（「スカウトの名誉は信頼されることである」「スカウトは忠実である」「スカウトのつとめは、他人の役に立ち、他人を助けることである」…）。

したがって、スカウト教育法は、活動やグループ生活を通じてスカウト運動の価値を見つけ、個人としてスカウト運動の原則に基づく行動規範を遵守することにより、スカウト運動に参画したい若者が参加することができるようにすることから始まります。

教育の原則と目的は成人のビジネスのままであってはならず、若者自身に自分の発達に責任を求めるよう、若者に直接訴えかける言葉で、若者に直接提案されなければなりません。スカウティングでは子供や若者が自身の発達について責任があるという自己教育のシステムをとっているため、スカウト運動における教育的なゴールは、直接子供や若者に示されなければなりません（これがおきてのねらいです）。また、これらの目標を達成するよう最善を尽くすために、子供や若者個々に責任を持たせなければなりません（これがちかいのねらいです）。

このことは、ちかいはおきてが分かりやすい言葉で作成されることを求めています。言い換えると、ここで用いられる言葉は若者の文化や年代に適したものでなければなりません。

もし今日のローバースカウトに合わせて、スカウトのおきての原文をより現代的な言い回しにしたとしたら、恐らく次のようになるでしょう：

- ・ 正直さと誠意（「スカウトの名誉は信頼されることである。」；「スカウトは忠実である。」）
- ・ 尊敬され、他の人々と連帯する（「スカウトのつとめは、他人の役に立ち、他人を助けることである。」；「スカウトはすべての人々の友人であり、他のすべてのスカウトと兄弟である。」；「スカウトは礼儀正しい。」）
- ・ 生命と自然環境に対する敬意（「スカウトは動植物の友であり、自然環境を保護する。」）
- ・ 自己管理（「スカウトはどのように従うかを知っていて、中途半端に何もしない。」）
- ・ 人生の浮き沈みにおける前向きな態度（「スカウトは、いかなる苦境にあっても微笑み、口笛を吹く。」）
- ・ 臨機応変さと仕事に対する敬意（「スカウトは儉約し、資源を有効に活用し、仕事を尊重する。」）
- ・ 自分自身の尊厳に対する感覚（「スカウトは、思考、言葉、行動において健全である。」）

スカウトのおきては前向きな生活の規範となるものなので、何も禁じることなく、自分自身を発達させ、より人道的になるよう誘うものです。それは、その人の人生の参考となるものなのです。

例えスカウトのおきてが前向きなものであるとしても、それは若者に課すべきものではありません。むしろ、それは若者に提案されるべきものであり、グループでの生活や活動を通じてその前向きさを見つかるよう促されるものです。このように、ちかいは、ある意味でグループに宣言する個人の自由で自発的な反応となります。「あなたがそれに沿って生きたい価値を発見したなら、あなたの助けを得て、私も共にそれらの価値に従って生きていきたい。」

このように、ローバースカウト活動におけるちかいはおきての教育的な影響とは、ローバースカウト個人がスカウトのおきてを通じて伝えられる知識・技術・心構えを発達させるように努めることです。ちかいはおきてを通じて、若者は真に自分自身の発達を担う行為の主体となることができるのです。



### 3. チームにおけるちかいとおきて

スカウトのおきてでは、埃をかぶった額縁に入れられて壁に掛けられた抽象的な参照文書であってはなりません。全員で採用したグループ運営のためのルールを通じて、グループの経験に実質的な意味を与えるものでなければなりません。図1は、このプロセスを要約しています。

チームやローバースカウト・コミュニティの活動は、必然的に問題、課題、発見を含みます。各々の主要な活動の後、個々にグループ活動に影響を及ぼした重要な点やイベントを記録し、検討する時間を設けなければなりません。ローバースカウトは、主にチームのレベルでこの行動が起きなければなりません。これは学習チームとなるための最初の状態です。

スカウトのおきてでは、(主な各チーム活動の後の) 反省とふりかえりの時間において、参考となるものです。この時間では、次のような共通の規則に基づいて、前向きな対話を行わなければなりません：

- ・各々に分かるように本当のことを言う。
- ・直ちにチームに関連した重要な情報を提供する。
- ・各々の発言のための持ち時間を制限する。
- ・問題なくお互いをチェックし検証する方法を確立する。

このことは、スカウトのおきての価値に関係なくできることではありません。これらの価値は、グループ活動を評価するのに用いられるツールでもあります。以下の質問は、ふりかえりの時間に用いることができます：

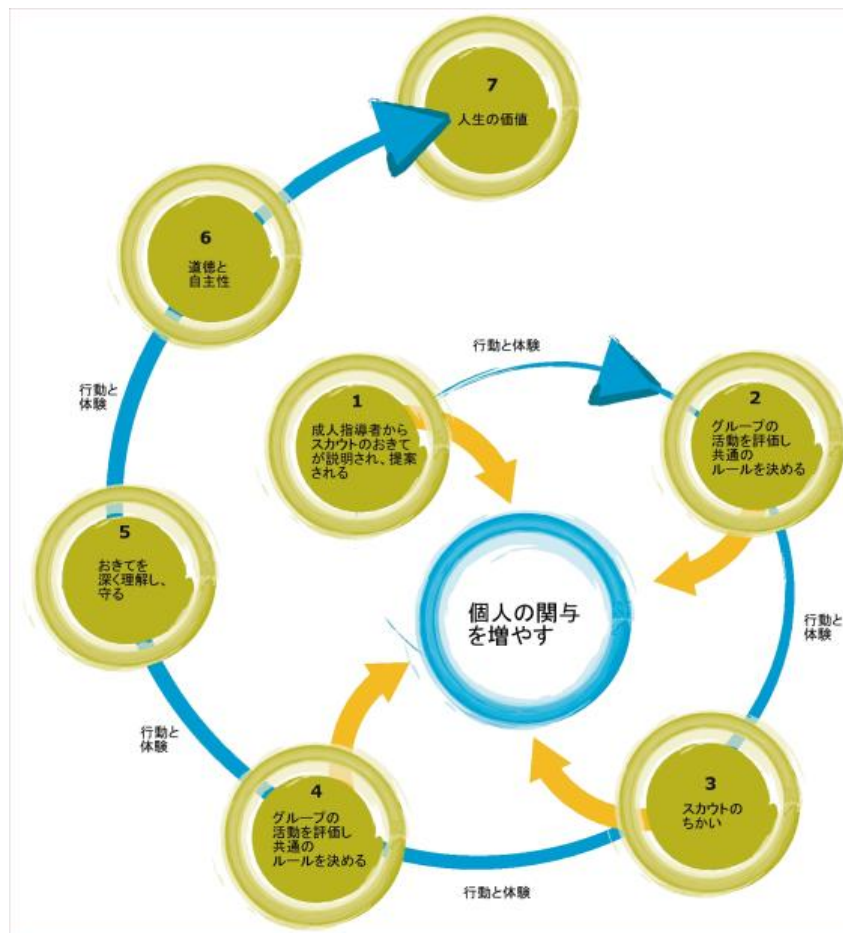
- ・どのようなことを見られましたか？ある人は、自分の役割を正しく成し遂げることができなかった；またある人は、やらなければならないことを実行しなかった；また、あるチームは活動に同意することができなかった。

また、前向きな経験というものもあります：

- ・チームは困難にもかかわらず任務を遂行しました、もう一つのチームは分担することと友情の意味を示しました、等。このことは、スカウトのおきてについて何を意味するのでしょうか？私達はどのように力を合わせてより良い活動を行うことができるのでしょうか？

各々のチームが達する結論がローバースカウト・コミュニティの評議会や会議にもたらすものは、グループ活動と個人の責任を改善するような共通の規則に同意する、ということです。

図1：ちかいとおきてでは、グループ活動を評価することや共通の規則について同意することを通して、意味のあるものとなります。



このように、スカウトのおきての影響を受けた規則は、グループ活動の経験から生じるものです。次に、これらの規則はグループ活動を形作り、具体的な経験を通じてスカウトのおきての基礎を成している価値を知ることができます。したがって、スカウトのちかいを立てることによりこれらの価値にしたがって生きるという望みは、新しく加わったメンバーにとっては自然なものであるし、その他の人にとってはスカウトのおきてと自身の責任をより理解する機会となります。

若者はまだ道徳的な自主性を成し遂げなければならないので、スカウト部門のために描かれた図1は、ローバースカウトに働く力について記しています。ローバースカウトのコミュニティにおけるローバースカウトの指導者（議長、チームリーダー、等）は、ローバーアドバイザーの支援を得て、仲間がより深くスカウトのおきてを理解し、より強く個人の責任を理解できるようになるための、重要な役割を果たします

スカウトのおきてとは、具体的で分かりやすい方法により、各々の年齢層にとって意味のある人間の価値を提案するものなのです。

#### 4. ローバースカウト部門におけるちかいとおきて

ローバースカウトとは、真の責任とは何かを理解することができ、生涯に影響を及ぼす重大な責任をどのように意識するかを理解することができる青年のことです。したがって、ローバースカウト部門のちかいは、下の部門のちかいに比べて、より理解しなければならない要素を含みます。ローバースカウトにとって、スカウティングの価値に対する責任は、二倍の重さを持つものとなります。

- ・発見のステージにおいて（第8項：「教育の目的と個人の進歩」参照）、ローバースカウトは、ローバーに提案されていることとスカウトのおきてを発見します。準備が整ったならば、ローバースカウトはちかいを立てます。これが意味するところは、生涯を通じておきてを実践するために最善を尽くすことを誓う、ということです。以前にベンチャースカウトであったならば、ここでスカウトのちかいを新たにすることになります。
- ・ローバースカウトがローバー部門において自分の目的を達成しようとする時、そのスカウトは「旅立つ」ように促されることでしょう（第8項：「教育の目的と個人の進歩」参照）。このセレモニーにおいて、ローバースカウトはローバーのコミュニティに対し、ローバースカウトの経験を通じて得たものや将来のプランについて説明します。ここで、人生を通じておきてを尊重するという責任を引き受けることとなります。その際、ちかいとおきてに組み込まれている価値は、各人の振る舞いや態度に組み込まれていることが期待されます。

準備が整ったならば、各々のローバースカウトは責任を担う適切な時期を決めます。通常、責任を担うことは「発見のステージ」で行うべきです。

ローバースカウトは若者であり、ちかいとおきてに対して自分からより近づいていくことができると言うことを認めることで、発見のステージにおいて、ローバースカウトはちかいとおきてを自分の言葉で、理解に近づく形で位置付けることができます。ローバースカウトは、スカウティングの基礎となる普遍的な価値、例えば個人の責任、人間の尊厳や自然と一体になることに対する敬意、チームやコミュニティに対する意識、国際的な連帯、暴力の拒絶、崇高な精神の信条の探求、声明の意味を探求する、といった価値に対する個々の責任を望むべきなのです。

したがって、ローバースカウトのちかいを提案するなら、次のことを含めます：

私はローバースカウトとして、以下の道を辿ることを選びます：

- ・ 真実と崇高な認識；
- ・ 知識と自由；
- ・ 正義と平和；
- ・ 思いやりと奉仕；
- ・ そして、持続可能な開発と世界市民としての行動。





## 5. 結論

スカウトのちかいとおきてでは、スカウティングに加わることを選んだ人に生活の規範を課すことになります。それは些細なものではなく、本物の契約書が無くても繰り返されます。「スカウトのおきてに従って最善を尽くす」ことを誓った時、このような人生を送るという責任を負うことになったローバースカウトにとって、スカウティングの価値と自分が負うことになった責任を理解することは必須の事項となります。

これらは、ローバースカウトがグループ活動における経験や、周囲の例や、「発見のステージ」において自分自身のちかいとおきてを探求していくことを通じて学ぶことです。ローバースカウトがそこで見つけた価値は、生涯を通じて共にあることでしょう。

### Resources リソース

#### The Essential Characteristics of Scouting. (スカウティングの重要な特徴)

この文書は世界スカウト機構憲章に基づき、スカウト運動およびその使命を特徴づける鍵となる要素の概要について、分かりやすくコンパクトにまとめたものです。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

#### Scouting an Educational System. (教育システムとしてのスカウティング)

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者にに向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

---

#### REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 "Scouting: An Educational System" 1998, World Scout Bureau. - Page 13
- 2 Scouting: an educational system. World Scout Bureau, 1998. WOSM
- 3 Idem
- 4 Idem
- 5 Idem
- 6 The word "God" may be substituted by another reflecting the concept of spiritual dimension in language appropriate to the local culture and civilization.
- 7 Constitution and By-Laws of the World Organization of the Scout Movement. Article II
- 8 Scouting: an educational system. World Scout Bureau, 1998. WOSM
- 9 See Chapter on Personal Progression
- 10 Text suggested by Dominique Bénard and Andrés Morales. World Scout Bureau
- 11 See Chapter 8 - "Educational objectives and personal progression" REFERENCES

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### ケニアのストリートチルドレンと共に活動する

ケニアのナイロビおよびその他の主要な町には、6万人以上のストリートチルドレンがいると伝えられています。これらの子ども達の多くは家が無く、夜には道路や露天のベランダ以外には行くところがありません。ストリートチルドレンは生きるためにごみから食べ物をあさり、物乞いをしたり、盗みや軽犯罪に手を染めます。有機溶剤を吸ったり、薬物を使用したりします。常に不潔です。

80年代に、ケニア・スカウト連盟は、「難しい環境に生きる」子供や若者を救う目的で「拡張スカウトプログラム」を開始しました。

ローバースカウトや若いリーダーは、ストリートチルドレンを救うためのカウンセリング技術、有機溶剤の吸引を止めさせる、青春期の性的な健康問題に対応する、といったストリートチルドレンに特有の状況に対応するための特別トレーニングを受けます。

ローバースカウト達は路上に出て、ストリートチルドレンのギャングを観察します。ギャング達と話をして、生活の状況や直面している問題を分析します。ギャングのリーダーを特定して、信頼関係を築きます。それからそのリーダーをパトロールリーダーのトレーニングコースに招待します。

この特別コースで、ギャングのリーダーはギャングの仲間達を助けるための動機と技術を身に付けます。路上に戻ると、ギャングのリーダーはギャングをスカウト班に作りかえます。成人指導者はストリートチルドレンへの支援として、「収入を生み出すプロジェクト」の展開を通じて、彼らを収容するための施設を見つけ、より良い状況で生活できるようにします。車を洗う、養鶏、野菜の栽培、道路の清掃などを通じて、ストリートチルドレンが正当な手段で自活できるようにします。ストリートチルドレンはスカウトの制服を受け取り、スカウトのプログラムを通じて他のスカウトと交流します。





## 4) 行うことによって学ぶ

1. 導入	51
2. 行うことによって学ぶ	52
2.1 活動と経験	52
2.2 活動と教育の目的	53
3. 経験からどのように学ぶか	53
4. ローバースカウトのプログラムにおける様々な活動	54
4.1 決まった活動	54
4.2 可変的な活動とプロジェクト	54
5. チーム・システムにおいて、行うことによって学ぶ	55
5.1 個人の活動	55
5.2 チームの活動	55
5.3 コミュニティ活動	55
6. 結論	56
Resources リソース	56



## Key concept (基本概念)

- ・「行うことによって学ぶ」とは進行中のプロセスで、ローバースカウトのコミュニティにおける全ての活動を強調するものです。活動はスカウトの経験の原動力となるものです。様々な種類の活動をバランス良く行うことで、ローバースカウトは様々な経験を積むことができ、様々な学習の機会を創り出し、様々な技術を身に付けることを促します。
- ・「行うことによって学ぶ」ことは、結びつき、グループ活動、試み、グループにおける責任といったことに関連しています。
- ・「行うことによって学ぶ」ことは、若者がコミュニティにおいて観客ではなく役者となることを推奨します。
- ・ローバースカウト部門を学ぶための環境とするように推奨します。
- ・積極的に学ぶことが、ローバースカウト部門の活動の中心となるようにします。
- ・活動やプロジェクトをふりかえることが、各々のローバースカウトが学ぶ際に気づきを得るための主要要素の一つとなるようにします。

## 1. 導入

まず最初に、スカウティングは活動的な教育であると定義されます。ローバースカウト部門においても、それより若い年代向けの部門同様、「行うことによって学ぶ」ことは基本的な教育の原則です。友人と一緒に刺激的で現代的な活動に参加することができるということが、若者がこの運動に参加し留まる理由の一つとなっています。活動はスカウトが多くのことを経験し学ぶ原動力なのです。

ローバースカウト部門の「行うことによって学ぶ」ということに関して、世界中のプログラム開発者や各国スカウト連盟が直面している課題があります。これらのいくつかは、次のことを含みます：

- ・「行うことによって学ぶ」とは、実際的な技術を習得すること以上のものであるということを理解するのが困難である。
- ・真に習熟することなく実施してしまう。
- ・スカウト教育法とは単に「行うことによって学ぶ」ことであると信じている。

これらの課題に関して、この項では各国スカウト連盟のプログラム開発担当者に向けて、次のような情報やアドバイス、導きを提供することをねらいとしています：

- ・教育的なツールとしての「行うことによって学ぶ」ことの完全な価値；
- ・活動や経験と、教育目的との関係；
- ・経験から学んだことを強調し評価する方法によって、活動をふりかえることの重要性

ローバースカウトのプログラムを開発する際に各国スカウト連盟が留意すべきことは次の通りです：

- ・ローバースカウト部門を学ぶための環境とするように推奨する。
- ・積極的に学ぶことが、ローバースカウト部門の活動の中心となるようにする。
- ・活動やプロジェクトをふりかえることが、各々のローバースカウトが学ぶ際に気づきを得るための主要要素の一つとなるようにする。



## 2. 行うことによって学ぶ

自己学習 つまり、先生から強要され指導を受けるよりもはるかに、独学や自分自身で学んだことのほうが 過ぎてから身になっていたことが分かる。

*Scouting for Boys Baden-Powell*



「行うことによって学ぶ」ということは、スカウティングが教育に積極的にアプローチしていることを反映しています。このことは、若者がローバースカウトのコミュニティの一員として経験する様々な事項を含みます。ローバースカウトが演じる役割、担う責任、選択し実現した活動から学んだことは、実際の技術を学ぶことを制限しません。単に活動を実施することだけでなく、計画し、準備し、評価することにも焦点をあてます。「行うことによって学ぶ」ということはまた、教育の目的を達成することに寄与する技術や知識、心構えにもあてはまります。言い換えると、若者は、受け身的に講義や実演を見たり聞いたりすることとは対照的な、具体的で「実際に」経験する機会を通じて成長するのです。

若者には、活動や課題、冒険に対する自然な欲求があります。スカウティングは、若者が探検し、経験し、発見することに集中できるような、豊かな学ぶための環境を提供します。そして、個人の計画を通じて、ローバースカウトの興味や個人の挑戦が成長へと向かうようにします。

「行うことによって学ぶ」ことは、人生に向けて積極的にアプローチしていくこととなります。若者が自身に影響を及ぼすようなあらゆることに活発に熱中するようになります。若者が自分の全ての能力を発見し、建設的に活用できるよう助けます。若者の人生を考えていく中で、「自分のカヌーは自分で漕げ」という考え方は重要です。「行うことによって学ぶ」ことは、若者がコミュニティにおいて観客ではなく役者となることを推奨します。

言い換えると、それは生活の規範や、責任における困難と達成感や、人間関係における喜びや苦難といったことの組み合わせとなります。これらのことは、個人的または総体的なゴールを設定し、仲間や支援してくれる成人と共に達成していくことです。若者にとって刺激的で役に立ち、全体的でバランスの良い成長に貢献するような、挑戦的な活動が全て織り込まれていきます。新しく豊かな経験の機会が手に届くようにすることで、若者は広い範囲の経験を通じて成長していきます。

教育的な経験を動かす原動力となるのは、若者が参加する活動です。活動について、より詳しい情報は「What ~ ローバースカウト部門における活動について」の項を参照して下さい。

### 2.1 活動と経験

活動とは経験の流れです。経験は、1つまたはそれ以上の教育目的に一致した知識・技術・心構えを、若者にもたらしめます。若者は、活動によって積んだ経験を通じて学びます。私達は、誰もが行う活動と、若者それぞれが活動を通じて積む経験を区別しなければなりません。

活動＝外部で起こっていること；誰にも関係する活動。

経験＝各々の人の内で起こる内部的なもの；各々の人が行動から得るもの。

各々の若者にとって、個人の間人間関係は現実であるので、経験が真に教育的な要素、ということになります。

若者にとって、自分が参加した単一の活動が様々な経験を引き起こすということはありません。というのは、経験とは様々な環境に左右されるもので、その環境は通常、人がどのようなものであるかということに関係するからです。

活動がうまく進行し、全体としてグループにとっては大成功であっても、若者にとっては望ましい結果を生み出さないかもしれません。

一方、活動が大成功と評価されなくても、若者にとってはいくつかの目標を達成することができたということで、若者の1人または数人にとっては役に立つ経験となった、ということもありません。

## 2.2 活動と教育の目的

活動と教育の目的には相互関係があります。

- ・活動は、以前に決定した教育の目的に照らして選択されます；
- ・また、完了した活動を評価して達成した教育の目的を確認することもできます。

活動と教育の目的の間には、直接的な因果関係はありません。活動は自動的に望ましい目的の達成を導くわけではありません。活動は徐々に、結果的に、累積的に教育の目的を達成するのを助けます。

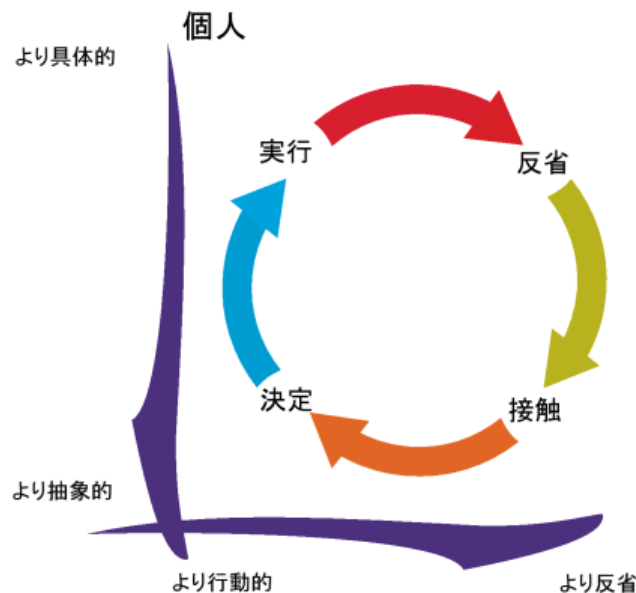
この関係はローバースカウト部門では特に重要です。なぜなら、ローバースカウトにとって理解しやすいからです。このことは、ローバースカウトにとって、彼らが個人またはグループのニーズに応じてどの活動を行うかを定めるための基準の一つとなり得る、ということの意味します。

## 3. 経験からどのように学ぶか

スカウティングでは、意思決定へのアプローチにおいて、進歩的な参加プロセスを用いています。というのは、それが若者の自主性を発達させると考えているからです。

人は循環する方法で学びます。動から静、行動からふりかえりへと向かう流れです。学習の歯車がこのサイクルを説明します（図1参照）。どのようなプロジェクトやイニシアティブにおいても、人は4つのサイクルを通ります。スカウティングでは、私たちはこのことを、実技においてだけではなく組織・責任・リーダーシップの分野においても、楽しく活動的に参加することを通じて学びます。強調すべき重要な点は、各ステージにおいて、次に進む前に慎重な注意が必要であるということです。

図1：個人の学習の歯車



(1) 反省・評価すること：

自分自身の考えや行動を見直しましょう。通常、このステージは前に行った活動の評価から始まります。

(2) つながり：

活動するためのアイデアと可能性を創り出し、これらを新しい形に再編成します。このステージでは、私たちの置かれた状況において、潜在的な活動とその他の行動パターンとの繋がりを見ていきます。

- ・最後の行動が示したものは、実りある結果を導いたでしょうか？
- ・物事に作用する方法において、何か新しいことが分かったか？
- ・次に何を見なければならぬか？
- ・他にどんな選択肢があるか？

(3) 決定する：

行動のための方法やアプローチ法を選びます。「選ぶべき選択肢があり、それを選ぶ理由があります。」

(4) 行うこと：

やるべき事を成すことです。事を成したら、すぐに反省のステージに戻ります。それはどのようにできたでしょうか？

学習の歯車に続けてリズムよく仕事を行うと、うまく循環します。うまくいなくて混乱してしまったとしても、反省のための時間が組み込まれているのですから、注意深く行動していきましょう。あるステージに移るのにゆっくりと時間をかけたなら、より早く学ぶことができることに気付くでしょう。少しの間何もしない時間をとって、何が起きているかをより深く理解しようとするならば、より多くを学び、より有能な人になることができます。

## 4. ローバースカウトのプログラムにおける様々な活動

ローバースカウトの活動は非常に多様で、様々な形を取り、様々な方法で編成されています。このように様々な形を取ることは、充実した学習経験をもたらすことに貢献しています。ローバースカウトのプログラムでは、決まった活動や、可変的な活動やプロジェクトを通じて学んでいきます。これらの様々な活動は、ローバースカウトのコミュニティにおいて、チームまたは個人で計画され、実行され、評価されます。これら各々の要素は様々な方法で学習経験全体に貢献し、また若者の発達に貢献します。

### 4.1 決まった活動

「決まった活動」とは、通常一つの形を取り、また一般に同じ主題に関するものです。これらの活動は反復的で、ローバースカウトのコミュニティに「スカウト」に関すること（例：ハイキング、キャンプファイア、等）を経験するような雰囲気を作り出します。これらの活動は、若者の参加、総体的な意思決定、価値が具体的に存在するようにする、といったことにより、「手法」を強化します（例：チーム会議、ローバースカウトコミュニティ委員会会議、コミュニティ会議、式典、等）。一般に、「決まった活動」は教育の目的を達成することに貢献します。

決まった活動の例：ローバースカウト隊の式典、会議、遠くに出掛ける、ローバー隊会議の会場を維持改善する、ゲーム、歌、チーム会議、ローバースカウトコミュニティ委員会と会議、等。

### 4.2 可変的な活動とプロジェクト

「可変的な活動」は、ある種の教育目的を達成するための機会をもたらします。というのは、若者の興味に応じて、様々な形を取り、非常に多くの主題を扱うことができるからです。これらの活動は若者が望まない限り繰り返されることはなく、特定の時間の長さをもって行われます。様々な活動の多様性を通じて、プログラムを若者の興味や関心に反応させ、多様な世界へと誘うことができます。

通常、プロジェクトはあるテーマのもとに様々な活動を組み合わせて、かなり長い時間をかけて目標を目指していくものです。

このことを示す活動の例として、カヌーを上げることができます。活動自体は短い時間で行いますが、その一方で、その他の活動と組み合わせて行うからです（その他の活動の例：鳥の写真を撮る、川で釣りをする、キャンプを企画する、泳ぎを覚える、泳いでいる人を助ける、川岸を探検する）。活動を組み合わせることで、川を探検プロジェクトを編成することができます。各々の活動にはそれぞれのゴールがあり、それらを組み合わせてプロジェクトのゴールへと向かうこととなります。プロジェクトの教育的な内容と学習の経験は、単一の活動によるそれらよりもずっと豊かなものになります。



## 5. チーム・システムにおいて、行うことによって学ぶ

ローバースカウトは通常、高い水準の自主性や意思決定への参画を成し遂げるので、自分自身で活動を選びます。しかし、私たちはまた、活動とプロジェクトの間に違いをもたらすことができます。



### 5.1 個人の活動

成人期に入ろうとしており、職業を見つける、価値体系を高める、個人の関係を進展させる、長く続く協力関係を得るといった、社会において自分の居場所を得ようといくつかの重要な課題に直面しようとしている若者にとって、個へのアプローチは特に重要なものとなります。各々の個人は十分に技術や心構えを高めて、自分の道を歩んでいかなければなりません。このことは、個人の成長の「ロードマップ」に「個人のプラン」として表されるものと密接に関わってきます。各々のローバースカウトは、自身のニーズを見直して、成長のための「より高いレベル」を目指して具体的に歩いていくこととなります。

したがって、各々の若者のニーズや興味に応じた個々のプロジェクトや活動を展開する機会が提供されなければなりません。そうした機会の中には、「スカウティングの世界」の外にあり、個を成長させるものとして見なされているものもあります。例えば、あるスカウト連盟では、スカウティング以外でのボランティア活動をローバースカウトの進歩計画の一部と見なしている場合もあります。

リーダーシップは活動的な市民であるために習得しなければならない技術であること、そしてローバースカウトはスカウティングの内外で短期間リーダーシップを発揮する経験を積む機会を持つべきであるということは、このフレームワークにおいて心に留めておかなければならないことです。ローバースカウトのコミュニティの中でも、こうしたことを経験する多くの機会があります。それはおそらく自分の団のローバーの下部門や、地域や国レベルでのチームにおいてあるでしょう。ローバースカウトのプログラムの観点からすると、ローバーの下部門での奉仕（例：隊の副長）や国連盟が編成しているチームでの奉仕は、常にローバー自身と自分が奉仕しているチームの両方にとって有益な、一過性の状況であると見なさなければなりません。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードもまた、各国連盟において個人の活動を見出すもう一つの良い機会となります。

### 5.2 チームの活動

チームとは、ローバースカウトの活動と「行うことによって学ぶ」ということにとって、もう一つのフレームワークとなります。仲間とともにプロジェクトに取りかかり、連携し協力することによって、各々のローバースカウトは個人の活動で身に付けることができるのはまた異なった有用な技術を身に付けることができます。

グループで活動することで、ローバースカウトはより挑戦的な目標に達することができるようになります。なぜなら、チームにおいては全てのチームメンバーが様々な技術を持っているので、お互いに学ぶことができるからです。また、より深く交流できるので、小グループにおいては意味のある人間関係を発達させることがより容易になります。一般に、パトロールシステムによって受けられる恩恵はまた、ローバー部門においてもあてはまります。そして、若者をその知識や経験と併せて扱うならば、仲間との教育効果はより強いものとなります。

ある各国スカウト連盟では、グループで活動を展開する際、チームを主要な構造としています；そこには、強いチーム生活と良い自主性があります。チームは自身でプロジェクトを展開し、そのメンバーは様々な状況と役割を持つこととなります（考えを共有する、決定する、チームとして一緒に働く、責任と問題を共有する、人材と才能を蓄える、成功を評価し祝う、等）。そうすることで、チームのメンバーはより経験を積み、自分の能力に自信を持つことができるようになります。

### 5.3 コミュニティ活動

最後に、ローバースカウトのコミュニティが提供するのは補完的なフレームワークで、それもまた非常に重要となります。ある種の重要な活動は、ローバースカウトのコミュニティのレベル以外では実施できないので、そこには様々な学習の機会があります。例えば、重要なトピック（例：人間関係、職業を持って生活することへの準備、家族生活への準備、等）に関するフォーラムやディベート、祝典、グループ生活の評価、大きな地域奉仕のプロジェクト、といったことです。

## 6. 結論

「行うことによって学ぶ」とは継続して行うプロセスで、ローバースカウトのコミュニティにおける全ての活動を強調するものです。活動とは、スカウトの経験の原動力となるものです。様々な活動をバランス良く組み合わせることで、ローバースカウトは色々な学習機会を得て、多様な経験を積むことができます。そのことが、様々な技術を身に付けることを促します。

「行うことによって学ぶ」ことは、グループにおける活動と同様、人間関係、グループ生活、実験、責任といったものから学ぶことと関係しています。「行うことによって学ぶ」ことは、若者がコミュニティにおいて、観客ではなく役者となることを促すものです。

「行うことによって学ぶ」とは、理論的な説明とは対照的に、直接の経験の結果として成長することを意味します。「行うことによって学ぶ」ことは、若者が知識や技術、心構えを高める能動的な方法です。「行うことによって学ぶ」ことは、スカウティングにおいて、興味を追い続け、日々の生活を送る中で得られる経験の機会を通して学習することに基づく、教育に対する実用的なアプローチとなります。そのため、これは、経験したこと全てから個にとって重要なものを引き出すことを通じて、若者が個の全ての要素を成長させるのを助けるものとなります。

### Resources リソース

#### Scouting In Practice: Ideas for Scout Leaders.

(スカウティングにおける実践：スカウト指導者のためのアイデア)

世界中の全てのスカウト指導者のために作成された冊子です。その目的は、スカウティングの基本を思い出し、スカウト教育法からひらめきを得ることで、子供や若者の成長に貢献することです。

この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

#### Scouting an Educational System. (教育システムとしてのスカウティング)

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者にに向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

### REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 See Annex: “Programme Cycle”
- 2 Based on the work of David Kolb. Kolb (1984) Experiential Learning: Experience As The Source Of Learning And Development.
- 3 See Section - “WHAT”





© WGBH Inc. / WGBH-TV (1999)

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### プロヴァンスのスカウト・オブ・ザ・ワールド・ベース

南仏の夏は暖かく乾燥した地中海性気候です。森の木は主に松の木なので、簡単に燃えます。「ミストラル」と呼ばれる強風が、しばしばローヌ川に沿って北から吹いてきます。干ばつ、高い温度、火のつきやすい植物、強風が合わさって、非常に火事が起こりやすい環境になります。火のついたたばこは大きな森林火災を引き起こし、消防士が消火するまでに何千ヘクタールもの森を燃やし、時には人家を燃やすこともあります。一旦森が破壊されてしまうと、その跡地は茂みになりますが、茂みは木よりも遙かに火事に弱く、水を大地に保持することもできません。干ばつが激しいと火事が起こる危険性が高まります。そして自然環境は徐々に破壊されていきます。

毎夏、ベンチャースカウトとローバースカウトは、こうした地域でキャンプを行います。スカウトは、環境を脅かすことなくキャンプが出来るように、特別なトレーニングを受けます。活動の一つとして、森林火災を防止することに焦点をあてます。双眼鏡、ラジオ送信機、コンパスを装備して、煙の位置を発見するよう監視塔から見張り、煙が見えたら消防士に正確に位置を知らせます。スカウトはカナディアの飛行機（記者註：カナダの航空機メーカー、カナディア社製の飛行機のことではないかと推察されます）を飛ばして、燃え始めた火の上に水を落として初期消火を行う責任があります。失敗は許されません。また、スカウトたちはマウンテンバイクで森をパトロールして、旅行者達に森林火災の危険性について伝えます。

秋季および冬季には、森をきれいにするためのキャンプが行われます。スカウトはチェーンソー等の道具の使い方を習って、下草を刈ります。春季のトレーニングコースは指導者とローバースカウトを対象として実施します。そこでは、夏季に向けて、キャンプやベンチャースカウトを指導する準備を行います。



## 5) ローバースカウト部門のチーム・システム

1. 導入	61
2. チーム・システムの本当の性質	62
3. ローバースカウト部門のチーム・システムの特徴	63
4. ローバースカウト部門のチーム・システムの要素	64
4.1 ローバースカウトのコミュニティ	64
4.2 ローバースカウトのコミュニティにおける集会	65
4.3 ローバースカウト協議会	65
4.4 ローバースカウト・チームのリーダー	66
4.5 ローバースカウト・コミュニティのアドバイザー	66
5. 結論	67
Resources リソース	67



## Key concept (基本概念)

- ・ローバースカウト部門では、たとえ個人の活動の要素が非常に強くても、チーム・システムを採り入れることには意義があります。B-Pが述べたように、「組織化された社会構造と民主的な自治は、ボーイスカウトのおきてに基づくものである」ということです。
- ・ローバースカウトのコミュニティとは、いくつかの（時には異なる場所から参加してくる）ローバースカウト隊により構成されます。
- ・ローバースカウトのコミュニティには3種類の小グループがあります：パーマネントチーム、サービスチーム、タスクチームの3種類です。
- ・各ローバースカウトはローバースカウトのチームに属し、活動やプロジェクトを実施する際、または自分の進歩のふりかえりや評価の際に支援を受けます。
- ・ローバー部門においては、若者の参加からリーダーシップを含め、全ての鍵となる役割はローバースカウトによって演じられます。

## 1. 導入

チーム・システムはスカウト教育法の基本的な要素で、各年代それぞれに適した方法により、全ての部門に用いられています。それはローバースカウト部門でも例外ではありません。

ローバースカウト部門は青年を対象とした部門であるので、B-P 卿が「パトロールシステム」として示した「スカウトのおきてに基づく組織化された社会構造と自治のための民主的なシステム」を実施する際に、より大きな意味を持ちます。

チーム・システムに関しては、世界中の各国スカウト連盟のプログラム開発担当者が多くの課題に直面しています。その内のいくつかは、次のようなことです：

- ・ チーム・システムはローバースカウト部門にはあてはまらないと思っている。
- ・ チーム・システムを、ローバー部門より下の部門に用いているのと全く同じ方式で適用するべきだと思っている。
- ・ 青年は様々なことに興味を持った個人であるので、チームの一員ではありたくないと思っている。
- ・ 若者がチームの支援を必要としていない。

とりわけこれらの課題に関して、この項では、次のことに関する情報・アドバイス・手引きを提供しようとしています：

- ・ ローバー部門のチーム・システムの特徴
- ・ ローバースカウト部門にてチーム・システムを実施する方法；
- ・ チーム・システムによって青年を支える。

ローバースカウトのプログラムを作成する際に、各国スカウト連盟は次のことをすべきです：

- ・ 個人に対するアプローチとチーム・システムのバランスを考える。
- ・ チーム・システムの詳細と、それを自国の連盟のニーズにどのように適用するかを考える。

## 2. チーム・システムの本当の性質

※以下の斜体文字部分は、“*The Fifth Discipline Fieldbook*, Peter M. Senge, Nicholas Brealey Publishing, London”からの引用。

“I see you”

南アフリカの北ナタール族の間で、英語の「ハロー」に相当する最もよく使う挨拶の言葉は「Sawu bona」です。文字通り、“I see you”（私はあなたに会う）という意味です。もしあなたがこの種族の一員ならば、“Sikhona”（私はここにいますよ）と、簡単に答えるかもしれません。やりとりの順番は重要で、あなたが私に会うまで、私は存在しないのです。そうであるならば、あなたが私に会った時、私は存在するようになるのです。

この言葉に内在する意味とは、“ubuntu”という、アフリカのサハラ砂漠に住む人々の間で一般的な考え方です。“ubuntu”の語幹はズールー語の“Umuntu ngumuntu nagabantu”「人は、他の人のための人である」から来ています。もしこのような背景のもとで育ったならば、あなたのアイデンティティは、あなたを人として尊重し認めてくれる人々からどのように見られているか、という事実に基づくことでしょう。



ローバースカウト部門では、若者が自身のアイデンティティを見つけるための手助けをする必要があるので、個に対するアプローチが他の部門よりも強くなります。私たちは、若者の具体的な課題、選択、夢、才能、困難といったことを扱うこととなります。ローバースカウトの活動は、個を定め行動する、ということに対する非常に重要な時間となります。

このように言う際、それは孤独な時間とか個人主義的なもの、という意味ではありません；実際、そうであってはならないのです。（自主性を強化する）個人の決心や活動と、他の人と共有し共通の興味を見つけて楽しむことができる機会とのバランスをとるようにしないとなりません。そうして、グループ内における役割を実践し続けることができるようにします。

しかし、チーム・システムはしばしば誤解されてきました。場合によっては、成人が指導者の役割を果たし班長に指示を与えるという、軍隊で用いている方法に近い「ピラミッド状のシステム」と見なされました。またある場合には、その本当の性質を青年の意思決定における参加のシステムと見なしていても、「小グループの時に機能するシステム」とだけ評されていました。

実際には、チーム・システムは青年の参画を促すツールとなります。通常、各スカウトが生活する様々な環境（家族、学校、クラブ活動、一般的な社会）における意味のある個人の行動のために、しっかりしたスタート地点を設定することで、これを完全に実施できるようになります。

若者が意思決定に参画する対象として、いくつかの機関が存在します。どのような民主主義においても、少なくとも3種類の機関があります：

**地域のコミュニティ**（住民が小さな範囲で一緒に生活している場合）。この最初のタイプの機関が持つ機能は、住民同士の良好な関係と連帯を育むことで、このレベルにおける意思決定を行い、これより上の意思決定機関に代表を送り込むことです。スカウトにおいては、「地域のコミュニティ」とは班や（6人）組を意味します。友人達と一緒に小グループを作り、その中から代表としてリーダーを選出します。

**議会（立法府）** ここにいる全ての構成員は選ばれた人達で、協力して大きな決定を行い、規則に従って投票します。スカウトにおいては、議会は隊集会に相当します。スカウトが皆集まって活動やプロジェクトを選択し、グループ活動を評価し、スカウトのおきてに基づいたルールを決めます。

**政府（行政府）** 議会の決定事項を大臣が実行します。スカウトにおいて、政府は隊会議に相当します。チームのリーダーと成人指導者が一緒になって、隊の集まりで決めたことを実行します。隊会議は、カレンダーに従って活動を調整し、計画を定めます。

教育の科学において、このようなシステムは「組織の教育学」（若者が民主的な機関の範囲で意思決定に参画している）と言われます。このようなシステムは、非常に現代的で「革命的なもの」と考えられています。スカウティングにおいては、この運動の草創期から実践してきたことです。

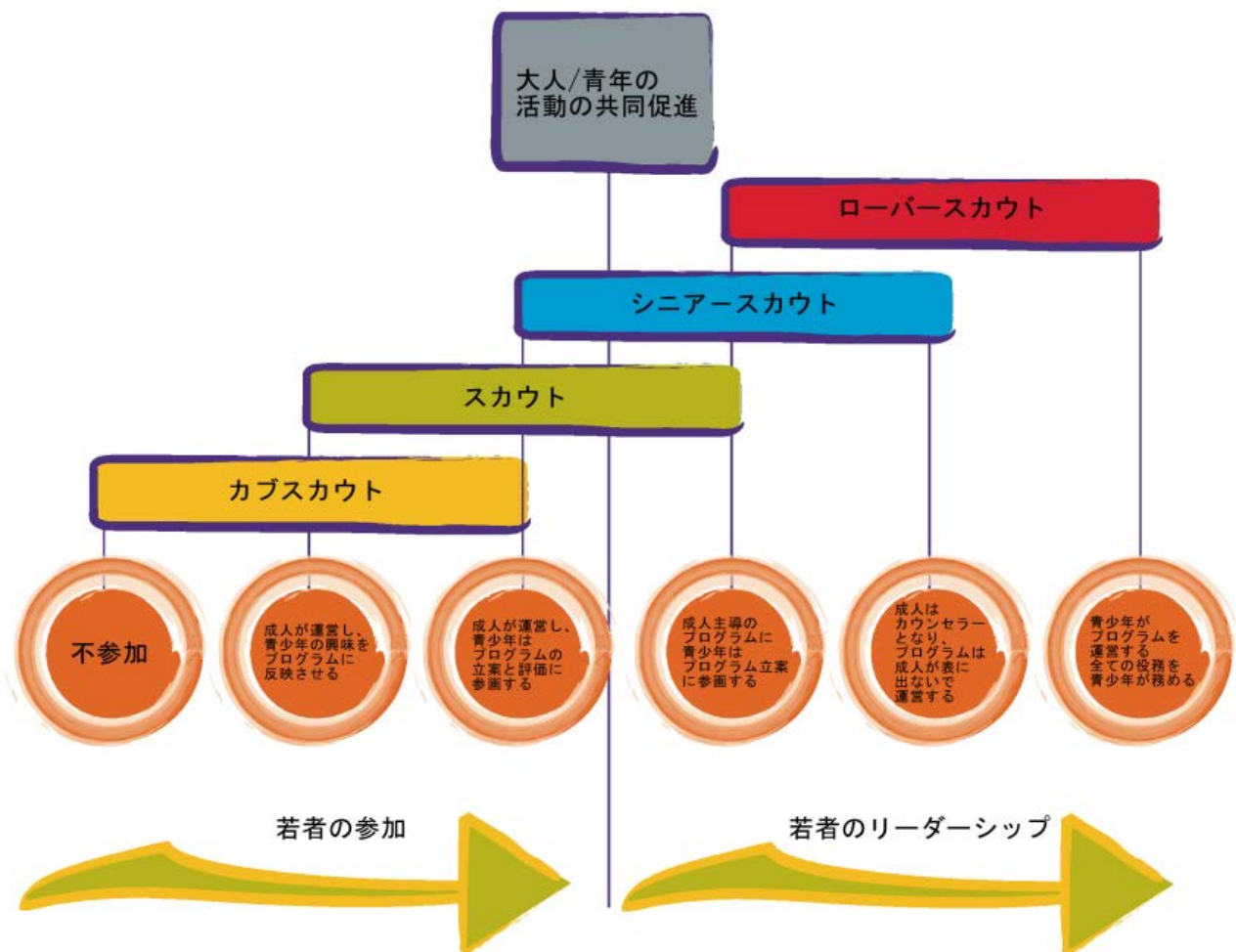
### 3. ローバースカウト部門のチーム・システムの特徴

スカウティングでは、全ての年齢部門において、各年齢の特質に合わせた三つの基本的な機関（チーム、協議会、集会）があります。

子ども達は長時間会議に出席したり、活動の全てを詳細に計画する、といったことができません。そのため、カブスカウト部門では協議会と集会は非常に短くして、成人指導者により組の活動がうまくいくよう主導していくことが必要です。

ボーイスカウト部門やベンチャースカウト部門においては、若者の参画のレベルはより高いものとなります。ローバースカウト部門では、若者の参画をより押し進めて、若者が評価や意思決定の最も重要な部分を担うことができるようにします（図1参照）。

図1：若者の参画からリーダーシップまで



若者のリーダーシップの成長は、カブスカウト部門では小さいながらも意味のある方法で始め、ボーイスカウト部門を通して成長を続けます。ローバースカウト部門では、若者がリーダーシップを発揮して全ての役割を果たすことができるようになり、成人指導者は単にアドバイザーとして見守ります。もしローバースカウトを活動的で責任ある市民にしたいのであれば、これは必要な原則と言うことになります。チーム・システムにおける様々な「機関」によるこの原則の結果を理解するようにしましょう。



#### 4. ローバースカウト部門のチーム・システムの要素

各々のローバースカウトはローバースカウトのチームに属しています。ここでは、自身の進歩や、活動やプロジェクトを実施したことのふりかえりと評価についてのサポートを得ることができます。ローバースカウトのチームは、活動とそのふりかえりを共に分かち合おうと決めた若者達によって構成されます。

一般的に、ローバースカウトのコミュニティには3種類の小グループが見られます。



##### 1. パーマネント・チーム：

活動やプロジェクトを一緒に行い、経験を共有し、一緒にふりかえり、個人のプランを評価するローバースカウトのグループです。

##### 2. サービス・チーム：

ローバースカウトのコミュニティの外部で行われている活動に従事するローバースカウトのグループです。このグループは主に奉仕プロジェクトに従事します。ここでもまた、経験を共有し、一緒にふりかえり、個人のプランを評価します。しかし、パーマネント・チームのメンバーと一緒にローバースカウトのコミュニティの活動に参加します。

##### 3. タスクグループ：

ローバースカウトのコミュニティは、ある種の活動やプロジェクトのための特別なタスクを実行するグループを設立することがあります。このタスクグループは主に特別な活動のために編成されます。通常は短期間の設置です。非常に運営しやすい活動単位と言えます。

#### 4.1 ローバースカウトのコミュニティ

ローバースカウトのコミュニティとはローバースカウト隊のことです。このコミュニティはいくつかのローバースカウトのチームにより構成されます。ローバースカウトのコミュニティは地元のスカウト団に所属して、18歳～22歳の若者にローバースカウトのプログラムを提供し、スカウト隊や地元の地域から参加した若者の要望に応じ、ローバーより年少のスカウト部門にとって憧れの存在となることが推奨されます。

しかしながら、ローバースカウト部門の加盟員数が少ないことを考慮すると、少なくとも第一段階において、全てのスカウト団がローバースカウトのコミュニティを作るということはできそうもありません。効果的なローバースカウトのコミュニティとするためには、少なくとも15人～20人のローバースカウトによって構成されなければなりません。

そのため、ローバースカウトのコミュニティは、ローバーのチームが1～2個あるスカウト団のいくつかによって「共有」することになります。ある国では、ローバースカウトのコミュニティは地区に作られることがあります（主にスカウト団にローバー年代のメンバーが非常に少ない場合です）。または、大学にローバーの集まりが作られることもあります（様々な町からのローバースカウトが参加し、在学中もスカウティングとの関わりを持ち続けることになります）。

ローバースカウトのチームが孤立してしまわないよう、あらゆる努力をするべきです。ローバースカウトのチーム同士の交流はチームシステムの中心であり、他の人々と一緒に活動し、共に決定し実施することで、非常によい学習の機会を得ることができます。また、色々なことに焦点をあてて上記の様々なチームと交流することは、ローバースカウトの考え方や経験を広げる豊かな素地をもたらすことになります。

ローバースカウトのプログラムをしっかりと発達させたいのであれば、ローバースカウトのコミュニティは重要です。次の表は、ローバースカウト6～8人程度の小グループでは、若者からのニーズの全てに答えることはできないということを示しています。もし活動の多様性を求めて若者のニーズにしっかりと応えていこうとするのなら、例えばローバーコミュニティのような、より大きな構成要素が必要ということになります。このことが意味するのは、他の部門と同じように、ローバースカウト隊においても（小さなチームから大きなグループまで）グループ作りが重要であるということです。なぜなら、これらのグループには様々な役割があり、様々な教育のニーズを満たすことになるからです。

さらに、若者により広い範囲での役割やリーダーシップを与えることは、ローバースカウトのコミュニティを通じて可能になることです。（より大きなグループ作りから小さなものへ向かって）自治を促すことで、ローバースカウトは主要な責任を引き受けて、リーダーシップの技術を高めることができます。それは活動的な市民となることを考えた時、基礎となるものです。



	若者のニーズ	グループの構造	活動
基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰属意識 分担し、他と協力し、愛することによって成し遂げられる。</li> <li>・自由 選択をすることによって成し遂げられる</li> <li>・熟達・力 達成することが認められ、尊重されることで成し遂げられる。</li> <li>・刺激・楽しみ 笑い、遊び、様々な興味あることを行い、活動に従事することで成し遂げられる。</li> </ul>	初歩的なチーム	チーム活動 発見 ふりかえり 気分転換 (遠出、ハイキングなど) プロジェクト
応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価 その人のニーズ、可能性と能力を確認する。</li> <li>・自己充足 より多くの知識と技能を得て、その人の潜在能力を最大限に高める。</li> <li>・社会への参加 個人の計画(仕事、結婚/家族)を作成して、積極的に社会に関与し、認められる。</li> </ul>	ローバースカウト協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ活動 議会と委員会の会議 議論とフォーラム 仲間 評価 トレーニング・ワークショップ 個人計画の支援</li> <li>・ボランティア・サービス</li> </ul>

#### 4.2 ローバースカウトのコミュニティにおける集会

ローバースカウトのコミュニティにおける集会は、ローバースカウトのコミュニティのメンバー全員が集まって重要な決定を下す場となります。ローバースカウトのコミュニティにおける集会は定期的に行われます(少なくとも四半期に1回)。その目的は次の通りとなります：

- ・ローバースカウトのコミュニティ全体の状況を評価して、ニーズに合わせた活動を行うようにする。
- ・ローバースカウトのコミュニティの活動やプロジェクトについて決定する。
- ・総体的な規則を採用する。
- ・各人の進歩を認める。
- ・ローバースカウトのリーダーを選出する。

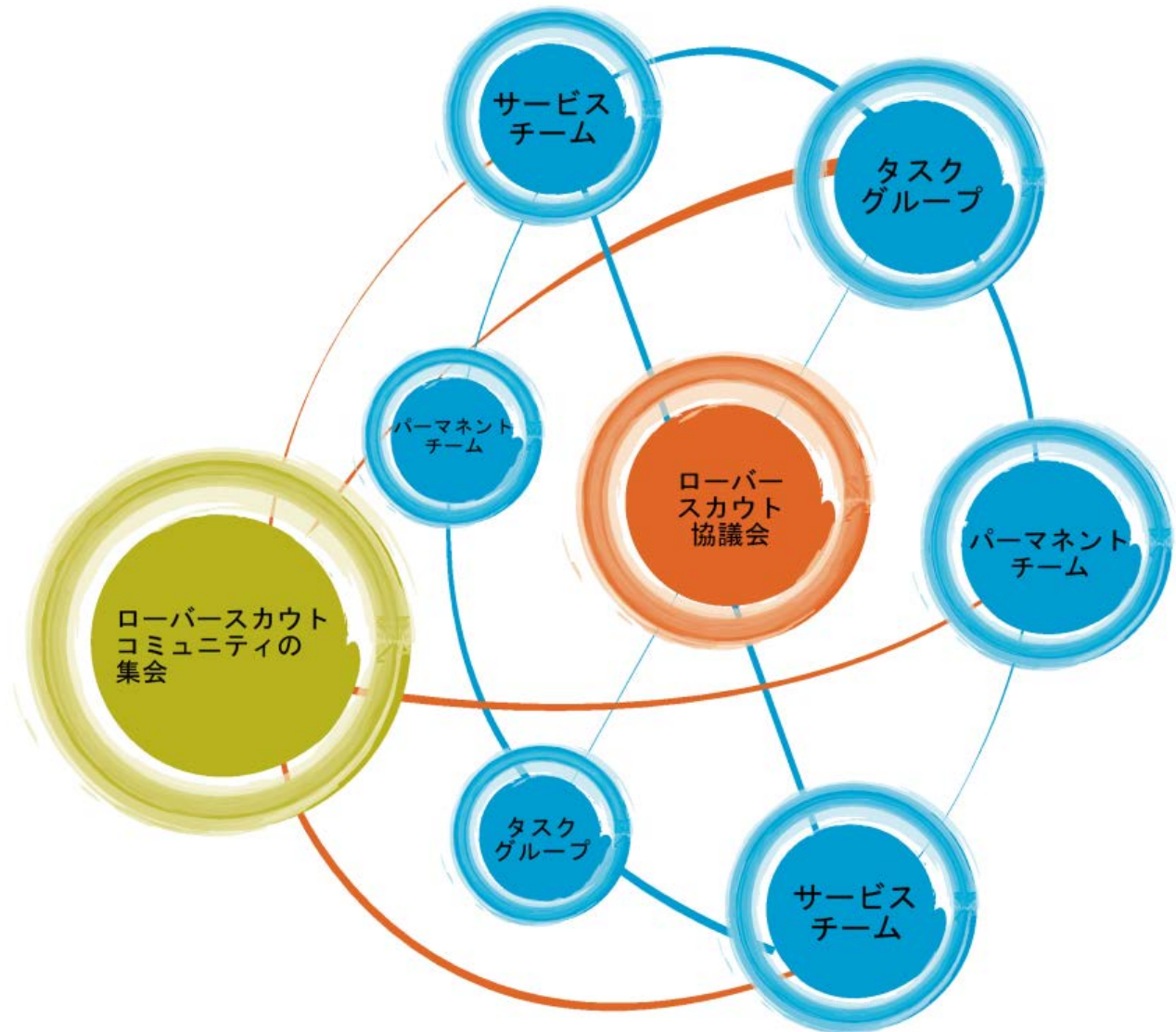
#### 4.3 ローバースカウト協議会

ローバースカウト協議会とは、ローバースカウトのコミュニティにおける意思決定機関となります。この協議会は、ローバーアドバイザーの支援を受けたローバースカウト・チームのリーダー全員により構成されます。ローバースカウト協議会は定期的に行われます(少なくとも1ヶ月に1回)。協議会では、ローバースカウトのコミュニティにおける活動の流れをまとめ、チームやタスクグループの作業を引き継ぎ、全ての運営や計画に関する決定を行います。

ローバースカウト協議会の役割は非常に重要です。なぜなら、この年齢層のニーズや特徴を考える際、コミュニティにはその運営に影響を及ぼすようないくつかの特徴があるからです：

- ・いつでも、また状況によっては同時に、ローバースカウトのコミュニティ・ローバースカウトのチーム・タスクグループ・または個人によって行われる多様なプロジェクトや活動が存在する。
- ・ローバースカウトの中には、普段のほとんどの時間を個人の活動に費やし、ローバースカウトのチームからの支援を得たい時やローバースカウトのアドバイザーに相談したいことがある時だけ、ローバースカウトのコミュニティに戻ってくる者もいる。
- ・ローバースカウトの活動の中には、定例会議における通常のパターンにあてはまらないものもある。

図2 ローバースカウト部門のチーム・システム



#### 4.4 ローバースカウト・チームのリーダー

- ローバースカウトのコミュニティはローバースカウトにリーダーシップを発揮する機会を提供します：
- ・チームのリーダーとしてチームを指揮することを担当する。
  - ・タスクグループのコーディネーターとしてタスクグループを指揮することを担当する。
  - ・議長として会議の準備と運営を行う。協議会にも参画する。
  - ・その他、コミュニティが実施することに関する役割

これらのリーダーシップを発揮する役割は、チームのメンバーによって選ばれ、コミュニティの会議で認証されます。会議では、チームのリーダーを選挙にて直接選ぶこととなります。

一部の各国スカウト連盟では、ローバースカウト部門の若者に責任あるポジションを任せない場合があります。そうした場合、若者はしばしばローバー以下の部門に目を向け、そこで責任ある役割を見つけて、自身の価値とアイデンティティを証明しようとします。「ローバースカウトか指導者か」の議論についての記述、または「成人のサポート」の項を参照して下さい。

ローバースカウト部門におけるリーダーの責任は、ローバー以下の部門における副長等の補助指導者と同じくらいのレベルの、大きな責任を担うものでなくてはなりません。

#### 4.5 ローバースカウト・コミュニティのアドバイザー

ローバースカウトのコミュニティのアドバイザーには、全てのローバースカウトに助言し、支援し、力を与えるという、具体的な義務があります。また、ローバー部門におけるスカウティングの使命を守る、という役割もあります。ローバースカウトのコミュニティのアドバイザーの役割とその輪郭については、「成人のサポート」の項で記述します。

## 5. 結論

若者には、同じ年齢層でグループを作るという傾向があります。チーム・システムではこの傾向を利用して、若者が楽しく、建設的な方向を向いてお互いに影響し合えるような環境を提供します。

若者を参加させるという形を取った教育の点で重要となるのは、多くの冒険を共有したことにより培われる生活の規範や関係を通じて、そこから若者が一体何を得たか、ということです。



- ・ チーム・システムは、ローバースカウト活動の要となるものです。
- ・ ローバースカウトは多くの役割を果たして、多くの価値ある技能を学びます。
- ・ ローバースカウト・チームのリーダーとなることは、ローバースカウトのコミュニティ内で重要な責任を持つ、ということです。
- ・ リーダーシップを発揮する全てのポジションは、ローバースカウトのコミュニティのメンバーによって担うこととなります。
- ・ チーム・システムは、ローバースカウトが組織においてどのように行動したら良いかを理解する助けとなります。

## Resources リソース

### “The Youth Involvement Toolbox” . (青年の参画に関するツールボックス)

「青年の参画に関するツールボックス」は、「Toolbox Handouts」シリーズの2冊目の本です。隊指導者・プログラム開発担当者・トレーナーに対し、若者を意思決定に参画させるにはどのようにすれば良いかを、スカウト隊のレベル、スカウティングの組織内におけるレベル、そして最終的には社会のレベルで、解説しています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

### “Scouting an Educational System” . (教育システムとしてのスカウティング)

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者に向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。 [www.scout.org](http://www.scout.org)

## REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 A country well known by Robert Baden-Powell
- 2 The Fifth Discipline Fieldbook, Peter M. Senge, Nicholas Brealey Publishing, London
- 3 ‘The object of the Patrol system is mainly to give real responsibility to as many of the boys as possible, with a view to developing their character... Through it the scouts themselves gradually learn that they have considerable say in what their Troop does. It is the Patrol system that makes the Troop, and all Scouting for that matter, a real co-operative effort.’ (Robert Baden-Powell, Aids to Scoutmastership).
- 4 ‘Scouting puts the boys into fraternity gangs which is their natural organisation whether for games, mischief, or loafing.’ (Robert Baden-Powell, Aids to Scoutmastership).

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### スロバキアにあるロマのコミュニティでスカウティングを開始

しばしば「ジプシー」と呼ばれるロマのコミュニティは、その放浪的で風変わりな文化のせいで、大部分のヨーロッパの国々で問題のある地域と見なされてきました。東欧や中欧では、ロマのコミュニティは地域の最も取り残された少数民族とされています。スロバキアでは、総人口550万人の内、ロマは50万人前後といわれています。

貧困はロマのコミュニティの広範囲にわたり、多くの人々は都市の端にあるスラム街で、不健康な住居に暮らしています。コミュニティでは教育の水準が低いので、失業率は非常に高いです。最も影響を受けているのは子ども達で、ロマの子ども達の半分以上は小学校を卒業できず、家族を助けるために働きに出ます。このようにして、ロマのコミュニティはますますスロバキアの社会から取り残されていきます。

ロマのコミュニティを率いている人達はスカウティングに興味があったので、スロバキア・スカウト連盟の指導者たちに連絡を取りました。スロバキア・スカウト連盟の指導者たちは歓迎し、彼らが何を期待しているのかを聞くことにしました。

ロマの子ども達と大人がスカウティングに参加するようになったことは、広くコミュニティに影響を与えました。その結果、多くのロマのスカウトが活動的で責任感のある生徒になり、学校の出席率や成績が向上しました。両親との会話により、子供と親の関係が良くなりました。また、(若者や大人の)スカウトたちと公共生活を送ることで、ボランティアや地域の奉仕活動に対しより能動的になり、目立った変化が見られるようになりました。

このプロジェクトは、スロバキアのローバースカウトや指導者にエネルギーと熱意を生み出しました。多くの人々は、キャンプやトレーニングコースを実施したいと申し出ています。両方のコミュニティからのスカウトが公共の場所で演奏を行い、CDが制作されました。



## 6) 象徴的フレームワーク

1. 導入	71
2. スカウティングにおける象徴的フレームワーク	72
2.1 教育的なツール	72
2.2 個人の目的の達成を励ます	74
3. ローバースカウト部門の象徴的フレームワーク	75
3.1 象徴的なフレームワークとしてのローバーリングは 青年の期待とニーズを満たす	75
3.2 アイデンティティを見出し独立する	75
3.3 世界を知る	76
3.4 役に立つと認められ、社会に貢献する	76
3.5 人生の旅路における良い航路を選択する	76



4. ローバースカウトの象徴的フレームワークは健全で、真実で、未来を指向するものです	77
5. ローバースカウト部門のシンボル	78
6. 結論	79
Resources リソース	79

### Key concept (基本概念)

- ・ローバースカウト部門の教育的なツールとしての象徴的フレームワークは、最終的な教育の目的に関する展望を伝え、青年が成長するように動機づけ、力を与えるものです。
- ・B-P卿によって提唱された、スカウティングにおける青年のための象徴的フレームワークの原型を改訂します：ローバーリング
- ・ローバーリングとは、人生において道を見つけるための象徴です。最も良い人生の「航路」を見つけ、選択することができるように、様々な未来を見定めます。
- ・「航路」はまた、若者が旅をして、新しいことを見つけ、新しい人と出会いたいというニーズに対する象徴でもあります。

## 1. 導入

象徴的フレームワークとは、スカウティングが進めようとしている概念の要素をまとめたものです。象徴は、しばしば概念を伝えるのを助けるのに用いられます。というのは、概念というものは、既によく知られている意味以上のことを伝えようとする場合があるからです。象徴は経験や想像力を通じて伝えられます。伝える際には、理論や複雑な言葉といった難しい要素を用いずに伝えるようにします。

象徴的フレームワークは、スカウティングにおいて活動を実施する際の枠組みを提供します。また、学習環境を作るためのツールとなります。象徴的フレームワークを用いることで、若者は想像力を働かせるようになります。想像力が限界に達すると、大きなことが達成できるようになります。象徴や象徴的フレームワークを通じて、若者は帰属意識や安心感を得ることができます。そのため、スカウティングにおける学習環境が前向きなものとなります。

象徴的フレームワークに関して、各国スカウト連盟やプログラム開発担当者が直面している課題があります。それは次の通りです：

- ・ 象徴的フレームワークの概念を理解しておらず、またその有用性も分かっていない
- ・ 若者にとって意味のない時代遅れの象徴的フレームワークを用いている
- ・ 象徴的フレームワークをローバーのスカウティングにおけるねらいとして用いている。

とりわけこれらの課題に対して、この項では、特に各国スカウト連盟のプログラム開発担当者に、情報・アドバイス・手引きを与えることを目的としています。

- ・ 教育的なツールとして象徴的フレームワークを理解すること；
- ・ 適切な象徴的フレームワークとしてローバーリングを用いること
- ・ 象徴的フレームワークを用いることの利点

ローバースカウトのプログラムを作成する際、各国スカウト連盟は次のことに留意すべきです：

- ・ 自国の若者の状況に合わせて、象徴的フレームワークを適用する方法を見つけること
- ・ 価値、意味、概念からその意味するところを抽出できるように、主題を探究する
- ・ こうしたことをサポートするのに必要な素材や象徴を創る



## 2. スカウティングにおける象徴的フレームワーク

例えば、人々が互いに意思疎通するために使用する言語は、象徴のシステムです。言葉は実体を表し、理解させ、関連させることができますが、言葉そのものに実体があるわけではありません。実際には存在しないものを表現する時でさえ、私たちは象徴システムの基礎に基づいて心に思い描き、現実のもののように認識することができます。ゆりの紋章はスカウティングのシンボルです。そのデザインは各国スカウト連盟によって異なり、古代の地図に描かれた磁北を示す羅針図に由来します。B-P 卿の言葉によると「すべてのスカウトがたどらなければならない良い旅路」を意味します。



象徴とはある特徴を持ったイメージ、または形を持ったもののことです。これによって、物体、状況、概念といったものを示すことが可能になります。

象徴は、合意があって初めて象徴であることができます。ここで言う合意とは、意味であったり、日常の経験に基づき明らかであったりするもの、ということです。例えば、ゆりの紋章という象徴は、紫の背景に咲く美しい花であると同時に、知っている人にとっては世界スカウト機構およびそれに関連するもの全てを指し示すものになります。

象徴的フレームワークは、その要素に意味（象徴）を含みます。例えば、カブ・ボーイ・ローバーといった部門の名前、ユニフォームやワッペンのような識別に使用するもの、歌、物語、式典です。これら全ての要素により、環境や雰囲気といったものが形作られます。それはこの運動の価値や提案する内容を示すものとなり、抽象的な説明では決して分からないような内容を、若者に理解させることができるようになります。

スカウト教育法において、象徴的フレームワークは取るに足りないものでも、想像上の要素でもありません。象徴的フレームワークを意味あるものとするために、またスカウト運動における教育の提案を伝えるために、象徴的フレームワークを若者のニーズと深く一致させて、若者の関心と熱意を刺激するようにしないとなりません。

### 2.1 教育的なツール

ローバースカウト部門の象徴的フレームワークは、スカウティングの最終的な目的に関するビジョンを伝え、若者が成長するように動機づけ、力を与えるものとするべきです。

ローバースカウト活動のねらいは、若者が幸福で、健康で、役に立つ世界市民となるように手助けすることです。

「ローバーリング・トゥ・サクセス」に、B-P 卿は以下のように記載しています。

ローバーとは戸外活動と奉仕運動をする兄弟仲間のことである。彼らは公路のハイカーであり、森のキャンパーである。自力で進むことができると同様、他の人達に対しても何らかの奉仕ができる能力と準備ができている彼らは、ボーイスカウト運動の年上の部門に属する17歳以上の若者達である。

これが放浪者達の兄弟仲間である以上、そして君がそのメンバーの1人である以上、君は諸外国へまで旅を伸ばして国籍の違った兄弟ローバー達と友情を結ぶことができる。

われわれのスカウト運動のこの部門は興味があり教育的であるばかりではなく、その相互の善意を通じて、未来における世界平和を確立する実際的な歩みとして、進みつつある。

(ローバーリング・トゥ・サクセス日本語版より抜粋)

若者がそうありたいと願う性質を明確にすることで、若者は自分自身を乗り越え、成長していくという動機を得ることができます。

B-P 卿が象徴性をどのように用いたかを考えてみましょう：

「戸外活動と奉仕運動をする兄弟仲間」「公路のハイカーであり、森のキャンパーである。」

「自力で進むことができると同様、他の人達に対しても何らかの奉仕ができる」

「諸外国へまで旅を伸ばして国籍の違った兄弟ローバー達と友情を結ぶことができる」

「その相互の善意を通じて、未来における世界平和を確立する実際的な歩みとして、進みつつある」





象徴的フレームワークは教育的ツールであると言えます。その理由は次の通りです。

- ・ 成長のための動機とエネルギー。ある人は、若者に成長のための動機とエネルギーを与えるのは自己認識（自分は他の誰でもない自分であるという意識）を持つことだと言います。自身を自由な放浪者と認識することにより、自分に向き合うことができます。また同様に、他の人達に対しても何らかの奉仕ができるということは、若者にとって魅力的で意味ある、自身の成長のモデルであると言えます。
- ・ グループの活動に関連のある環境は、コミュニティへの帰属意識を高めます：象徴的フレームワークはローバースカウトのコミュニティにおける活動の共有を助け、あらゆるものが首尾一貫するようになります：戸外活動と奉仕運動をする兄弟仲間のこと。
- ・ スカウトに目的と価値を提示するための魅力的な方法を与えること。スカウティングの目的は、若者が自己を信頼し、頼りになり、信頼できる、献身的な人となるよう支援して、よりよい世界を創ることに参画できるようにすることです。ローバースカウトは旅人であり、世界を冒険する人であるので、スカウティングの価値を、過去ではなく現在の世界に置こうとします。他の人々と分かち合い、様々なコミュニティを知り貢献することを学び、世界の素晴らしさを知ったなら、ローバースカウトはスカウトのおきてが青年だけではなく、成人にとっても非常に大きな意味を持つものであることを知るでしょう。ローバースカウトには共通の目的があります。今日の世界における課題や機会を発見すること、すなわちよりよい世界を創ることに貢献し、自分の人生のプランを作るための方法を見つける、ということです。このことは、ローバースカウトのコミュニティにおけるあらゆることの意味を繋ぎ、一つにするものです。
- ・ 活動を結び合わせることで、プログラムの準備が整う前に、自分たちが何をしたいかを青年に問うような活動システムにおいて、プログラムはしばしば本来のあり方から変わってしまうことがあります。共通のゴールが存在することで、私たちが行う全てのことの意味を繋いで統一することができます。

若者の具体的なニーズに一致し、活動システムの柱となるものを作るもので、ローバースカウトの象徴的フレームワークに直接結びつく、4つの分野があります。ローバースカウトにおける4つの分野とは、次の通りです：

- 1) 今日の世界における課題と機会を発見する：積極的に旅をして異文化についての経験を積む。
- 2) よりよい世界となるように貢献するための方法を探す：地域への奉仕やスカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード。
- 3) 人生のプランを作る：社会と経済の統合。
- 4) 自然における野外活動と生活：大自然の中で冒険すること。

## 2.2 個人の目的の達成を励ます

後述しますが、活動によって段階的・連続的に個人の経験を積み上げることは、スカウト教育法が提案している目的を達成するように導きます。若者は自身のニーズや望みに合わせて、これらの目的を自分自身に合うように作りかえます。

この過程は、もしそれがローバースカウトのプログラムにおいて経験する冒険の一部でなかったなら、無味乾燥で学術的なものになってしまう危険があります。象徴的フレームワークは、ローバースカウトのコミュニティでの活動に、冒険の感覚や熱意と興奮をもたらすことができます。

しかし、スカウティングにおけるゲームとは取るに足らないものでも、単なる気晴らしとして行うものでもありません。象徴的フレームワークでその人がなりたい人物像を示そうとする場合、各々の若者が提示された目的を達成する中で身に付けたものを通じて、理想の人物の言葉や、スカウトのおきてにおける価値や行いと直接結びつけることができます。

各人の計画に基づいて進歩的に人生のプランを組み立てられるようになるので、ローバースカウトに提案される進歩のシステムは、ローバーの象徴的フレームワークによって密接に関連づけられ、サポートされます。それによって、自分が進むべき道を見つけ、未来への道を切り開いていくことができます。

ローバーリングが意味するところは、世界において積極的な役割を演じることができるよう、新しい知識や技術、姿勢を身に付けることができる、ということです。

ローバースカウトの象徴的フレームワークが勧めることは、ローバースカウトが変化と未来から学ぶ、ということです。そうすることで、個人にとっても社会にとっても様々な未来の実現が可能であるということを理解できるようになります。それによって、ローバースカウトが自身の将来を形作る際に、率先的な態度をもって人生のプランを組み立てることを促します。





### 3. ローバースカウト部門の象徴的フレームワーク

元々、B-P 卿がスカウティングにおいて若者に提案した象徴的フレームワークとは、ローバーリングのことでした。スカウティングの最終年齢部門をどのような名前にするとしても、象徴的フレームワークはB-P 卿の元々の「目的を持った旅」という考えを反映したものでなくてはなりません。

「ローバーリングとは 目的なしの さまよい だとは考えない。はっきりした目標をみつめ、愉快な道を進んで行くことだと私は意味づけている。そして、その道中には苦難もあれば危険もあり、君たちはそれに出会うものと考えてのことである。」

(*Revering to Success* 日本語版 ポーイスカウト日本連盟 平成8年版)

ローバースカウト部門の目的は、若者が自分の可能性を把握して、成人期に移行できるようにすることです。象徴的フレームワークとしてのローバーリングは、若者が自身に課題を課し、自主性を備え、自分を高めるよう勧めている点で、今日の世界においても意味のあるものです。これによって若者は、他の文化やライフスタイル、視野といったものを発見し、広い世界において自身の経験を広げていく機会を得ることができます。

#### 3.1 象徴的なフレームワークとしてのローバーリングは青年の期待とニーズを満たす

若者が成人の役割に挑戦してみることができるようになったなら、ローバーリングはもはや象徴的な想像上の冒険ではありません。それは社会、文化、国家、民族の垣根といったものを結びつけて、社会的・専門的に統合することを促します。そしてそれは、実生活における冒険となるのです。

象徴的フレームワークは、スカウト教育法にとって、取るに足りないものでも、非実在的な要素でもありません。それを意味あるものとするために、言い換えるとスカウト運動の教育の目的として伝えていくために、各年齢層における若者のニーズに深く一致させ、若者の関心と熱意を刺激するようにしなくてはなりません。さもなければ、それをを用いる効果はありません。

言うまでもなく、若者にとって意味あるものとするため、各国スカウト連盟が用いる象徴的フレームワークは自国の文化に合わせたものでなければなりません。

#### 3.2 アイデンティティを見出し独立する

青春期において、自分の人生における道を見つけることができるよう、若者は旅に出て独立する準備をしなければなりません。ローバースカウト活動は、このことの助けとなります。

旅に出るということは、若者が望む新しい独立のシンボルとなるものです。若者は自分の能力を試して、自身のアイデンティティを確立したいと望むものです。ローバースカウト活動は、このアイデンティティの探求を象徴するものです。若者は自ら進んでプロジェクトに乗り出していきます。それは若者にとって、自身のアイデンティティを見つけるための道となるのです。

### 3.3 世界を知る

様々な場所へと動き回るような時、ローバースカウト活動では、そのフットワークの軽さや、移動先で得たり見つけたりする全ての新しいものに注目します。また、ローバースカウト活動は、旅をして新しい事実や考え方を見つけないという若者の自然な欲求に沿うようにします。

実際、若者は旅をして、新しい場所を見つけ、異なる文化の人々に出会い、その人達の生活、問題、望み、価値観といったことを知りたいものなのです。若者は、国際的な関係を知り、他の文化と交流して、世界の市民となるべく備えたいものなのです。多くの伝統文化においてそうであるように、現代の社会において、若者は、自身の属する社会において成人としての役割を担い、一生を通じて進んでいく「航路」を見つける前に、知識と知恵を高めるため、旅に出ることを望みます。今日では、グローバルゼーションによって、それは新しい価値を帯びることになります。

### 3.4 役に立つと認められ、社会に貢献する

青年は社会における自分の居場所を見つけなければなりません。若者は、成人の役割を見つけて、演じたいものなのです；若者は、自分の能力を、友人達だけでなく、広く社会から認められたいものなのです。

ローバースカウト活動を通じて、ローバースカウトは新しい経験をし、「ツール」を得ます。これによって若者は、将来やって来るであろう課題に備えることとなります。これらの経験とツールのお陰で、若者はより成熟し、能力を高め、社会においてより積極的な役割を担うことができるようになります。そういうわけで、ローバースカウトは自己開発と奉仕の象徴であると言えるのです。

スカウティングの目的は、人が積極的に責任のある市民となるよう備えることです。スカウティングの最終段階として、ローバースカウト活動は、社会における積極的な役割を担い、その発展に貢献できるようにするにはどうすれば良いかを、若者に伝えるものでなければなりません。そして、これはまさに、若者が無意識のうちに捜し求めているものなのです。

### 3.5 人生の旅路における良い航路を選択する

青年は人生において、将来に向けての選択を行うステージにいます。選択とは、学業における選択、職業の選択、感情の選択（恋や結婚）のことです。ローバースカウトは、人生において進む道を見つけるためのシンボルとなるもので、これによって自分にもたらされた様々な未来を認識し、その中から人生における最高の「航路」、最高の旅を選ぶことができるようにするものです。そういうわけでB-P 卿は、ローバースカウトとは先端が二股に分かれた杖を持っていて、それは様々な未来と、そこから「良い道」を選ぶ必要性を象徴している、と言ったのです。





#### 4. ローバースカウトの象徴的フレームワークは健全で、真実で、未来を指向するものです

若者は容易に象徴的フレームワークに引きつけられますが、そのことが危険である場合もあります。「若者」であることは簡単ではありません。若者の中には将来に不安を抱き、どの道を選んだらよいか分からない者がいます。若者の中には非現実的で退行する世界に逃げ込み、その閉鎖的なグループの中で難解な言語や儀式による価値観に基づく生活に逃げ込んでしまうことがあるかもしれません。それは、私たちが若者にそうなることを欲しくない価値観です（例えば、民主主義に反する権威や階級社会への服従、「論理的かつ構造的に考えること」ではなく魔術や不合理な思考に魅了される、といったことです）。このことは、中世のフィクションに基づくロールプレイ（「ダンジョンズ&ドラゴンズ」）の成功により説明できます。

スカウティング・フォア・ボーイズの第7章で参照されているような、中世の象徴的フレームワーク（騎士のおきてや聖ジョージといった騎士道に基づく姿勢）を使用しないのには、いくつかの理由があります。まず第1に、これはB-P卿がもっと若い年齢層、即ちボーイ部門に向けてのスカウトのおきての導入としたものであったから、ということ。第2に、これは西欧世界の価値観に基づいたものであって、世界中の大多数の若者の期待やニーズには一致しないであろう、ということ。もし私たちがB-P卿が示したローバー部門の象徴的フレームワークを参照するのなら、単に「自分のカヌーは自分で漕げ」というイメージを用いるべきです。このイメージは「ローバーリング・ツウ・サクセス」にて口絵として用いられ、創始者自身が次のように述べているからです：

「この絵はあなたの航海の成功をあらわすもので、そこには、当然出あうであろういくつかの大きな岩（暗礁）が描かれている。その岩や暗礁は、一見暗く見えるが、よく見ると明るい一面もあって、あなたがえらんでよいものがその暗さをこえて存在していることを忘れてはならない。だから、あなたが暗い岩角をぐるっとまわって漕ぐことができれば、暗礁はその明るい面をもあらわすのである。あなたは、その暗礁のとりこにさえならなければ、それだけでその明るい面を発見することになるが、そうなるについては、漕ぎ方がじょうずでたくみにそこを通りすぎなければならない。私のこのことばはふたつのたのしさを意味している。いちばん暗い岩にこそ明るい面があるということ。消極的になって身を亡ぼすことなく積極的に成功に向かって進むならば、その報いがあるということである。次々と暗礁をよけて漕ぐならば、そのたびごとに「性格」がつくられる。そして、最後に幸福というゴールに到達することになるのだ。

（注意） 大空の星を高くあおぎなさい！

君の車を空にひきあげよ

星を君の道案内にしなさい」

（Revering to Success 日本語版      ボーイスカウト日本連盟 平成8年版）

したがって、私たちの創始者によれば、ローバー部門の象徴的フレームワークとは「ローバーリング・ツウ・サクセス」である、ということになります。これによって、人生の旅を幸福に導くための道を見つけることができるのです。

ローバースカウトの象徴的フレームワークとは過去を向くものではなく、未来を指向するものです。それは若者にとって、今日の世界における現実がどのようなものであるかを知るための助けとなるものです。そしてそれは若者を難解で偏狭な言葉に閉じ込めることはないので、健全なものであるといえます。

## 5. ローバースカウト部門のシンボル

ネッカチーフは、スカウティングのシンボルとして、世界中で最も一般的なものです。単なるユニフォームの一部に過ぎないものが、至る所でスカウトを結びつけるものとなります。しばしば、ユニフォームは軍隊の影響を受けているのではと考えられることがあります。しかし、「軍事教練や軍隊の風紀といったものは、私たちがスカウト運動を通じて教えたいこととは正反対のものである」と、B-P卿は1925年10月に開催されたジャンボリーにて述べています。

ローバー部門で最も人気のあるシンボルの一つは「サムスティック」です。これは先端が2つに尖っていて、これが若者の決意を象徴する二つの道を表しているように見えます。B-P卿によると「生涯を通じて自分のカヌーを自分で漕ぐかどうかは、あなた次第である」ということとなります。



シンボルとなるものは国によって異なるでしょうし、場合によってはローバースカウトのコミュニティ毎に異なることさえあり得ます。しかし前述したように、シンボルの要素として重要なことは、若者が今日の世界における現実を見つめて、人生の旅路を幸福に向かって歩んでいけるように勧めることなのです。

2008年度のJOTI（ジャンボリー・オン・ジ・インターネット）において、若者は「ワールド・スカウト・チャレンジ」に参加するよう促されました。そこで、ローバーリングに関する一つの質問が出されました：「ローバー部門の最も重要なシンボルは何か？」答えは、次のようなものでした：

- ・「サムスティック」はB-P卿がローバースカウトに与えたシンボルの一つである。なぜなら、「サムスティック」は日常の意思決定に二つの道があることを示しているからである。サムスティックの二つの終端から1つを選ばなければならないように、二つの道があるということである（アルゼンチン、パナマ、オーストラリア、フィリピンのローバースカウト）
- ・ローバースカウトの最も重要なシンボルは星である。なぜなら、星は私たちの人生における方向や旅を導くことができるからである。星の光は、私たちには常に希望があることを意味している。なぜなら、若者が含まれる時、そこには希望があるからである。
- ・ローバーリングにおける最も重要なシンボルは、ゆりの紋章でなければならない（スウェーデンとイギリスのローバースカウト）。
- ・ローバーリングの重要なシンボルは円でなければならない。なぜなら、ローバースカウトの奉仕には終わりが無く、循環するものであることを意味するからである。

## 6. 結論

象徴的フレームワークは、スカウト教育法において本当に重要な要素であるといえます。心に確かな目的を持って旅に出るというローバースカウトの元々の概念は、今でも若者に作用するものであるし、若者が自分自身で課題を設けるよう動機づけ、励ますものでもあるからです。

教育的なツールとして、象徴的フレームワークは若者がすぐに明らかになっているものに目を向けるようにすると共に、多くの新しい可能性を受け入れるよう促します。また、それによって若者に課した課題や仕事を、冒険という雰囲気ですべて覆ってしまうこともあります。というのは、そうでないと、若者は退屈で面倒だと感じてしまうかもしれないからです。

たとえ象徴的フレームワークが理解されなかったり過小評価されることがあったとしても、これは実際にスカウティングにおいて私たちが行っていることに価値を付加したり、教育的な質をもたらしたりするものなのです。

もし将来の選択肢を認識し、最も良い「航路」・最も良い人生の道を見つけるためのシンボルと見なされるのなら、ローバー活動に対して提案された元々のシンボルはその意味を持ち続けることでしよう。「航路」はまた、若者が旅をし、新しいものを発見し、新しい人に出会うことのシンボルと見なすこともできます。

こうしたことから、今でもローバースカウトに対して「自分のカヌーは自分で漕げ」と言われるのです。



## Resources リソース

### “Scouting an Educational System” . (教育システムとしてのスカウティング)

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者に向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

### “Scouting, and Spiritual Development” . (スカウティングと精神の発達)

この参照文書が解説しているのは、スカウティングにおいて精神的な平和や真実を探求するのに役立つ雰囲気を作るためには、どのような原則、方法、活動、グループ生活、等を通じて行うのがよいか、ということです。そうするために、スカウティングでは、強い信念を持ち、寛容で、信頼できる、(狂信ではない) 信仰を持った若者に成長するよう、貢献しています。宗教に対する無関心や物質主義の台頭を考えると、このことは明らかに重要であると言えます。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

### “The RAP Toolbox” . (ラップ・ツールボックス)

The Renewed Approach to Programme (RAP)は、ユースプログラム開発の新しい切り口です。NSOがユースプログラムを更新したり、改善する際の助言とすることができます。RAP ツールボックスは世界プログラム方針を説明し、新たなプログラムの切り口を、非常に簡単に総合的な方法で紹介しています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

## REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 Adapted from the book for the Leaders of the Scout Section; World Organization of the Scout Movement, Interamerican Scout Region
- 2 Adapted from the book for the Leaders of the Scout Section; World Organization of the Scout Movement, Interamerican Region
- 3 Look at Section WHAT – “Activities in the Rover Scout section”
- 4 “Rovering to Success” , Baden-Powell

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### オーストラリア・スカウト連盟による森林火災防止活動

2月にオーストラリア地域全体を襲った猛火は210人の死者と2千軒以上の家を破壊し40万ヘクタール以上の森と農地に損害を与えました。長期干ばつ、摂氏46度を超える気温、風速毎時100kmを超える強風が組み合わさり、この日はビクトリア州の「歴史上最悪の日」となりました。スカウトは迅速に対応し、この自然災害に被災した地域の生活の再建に従事することになりました。

様々なコミュニティからのメンバーと共に、スカウト指導者やローバースカウトは様々な支援作業に取り組みました。この災害に被災してからの一ヶ月間で、280人以上が1800時間を超える作業に取り組みました。取り組んだ作業は次の通りです：寄金集めのテレビ番組に電話をする、ダイヤモンドクリーク・リリーフセンターからの寄付金を分類して再構成する、寄付を収納するスカウト会館を見つける、救世軍の倉庫に行って支援物資の分類を手伝う、ウィットルシーにあるキャンプ・ワリングルとメリープレインズ・キャンプ場のスカウト用品を整備すること、メルボルンで追悼式に立ち会うこと。

残念なことに、この火災でカブスカウト、スカウト、リーダー、スカウト経験者の何人が亡くなり、財産や家を失ってしまった人もいました。こうした森林火災に影響を受けたスカウティング家庭に対し、ユニフォームや資材を提供したり、ボーイスカウト・センターの再建をしたりといった形で、直接の支援を行っています。





## 7) 自然と環境

1. 導入	82
2. 自然と環境、スカウト教育方法	83
3. 環境教育と教育的目的	84
4. 結論	85
Resources リソース	85

### Key concept (基本概念)

- ・ B-P 卿は「自然には、クラブ、研究所、寺院の要素がある」と述べています。ローバースカウト活動にとってふさわしい場所であると言えます。
- ・ 環境に対する関心と持続可能な開発

## 1. 導入

自然における生活：自然と接触し、主に野外活動で展開する活動。B-P 卿は「自然には、クラブ、研究所、寺院の要素がある」と述べています。ローバースカウト活動にとってふさわしい場所であると言えます。

自然における生活はいつでも、主に経験によって豊かなものになります。自然によって人は自分の限界を探りそれを超えようとすることができ、また同じような方法によってそれを守ることもできません。自然に生きるには、決心することが重要であり、実際の行動がどのような効果をもたらすかを理解している必要があります。自然において自身の能力を発揮して生き残ろうとすることは、大いにその人に力を与えます。自分の能力を頼りとすることができるようになると、その若者に自信と自尊心が備わることになります。

キャンプにおいて、若者は生きるために不可欠な全てのことを行わなければなりません。自分の進むべき道を決め、キャンプ場を選び準備し、食事を準備し、悪天候から自分を守らなければなりません。野外活動やキャンプ活動は、若者が共に作り、自身のスケールで小社会の全ての面を経験することができるので、若者はこうした活動を好みます。自然における活動は、社会化の手法としては、非常に優れたものであると言えます。

より深いレベルにおいては、自然における生活は自然と創造の不思議を発見する方法となります。これによって、若者は「森羅万象における人の位置」を知り、精神的な面に近づくことができるでしょう。

各国スカウト連盟のプログラム開発者が直面している課題は多く、その中にはローバー部門における自然と環境に関するものもあります。例えば次のようなものです：

- ・周囲が都市環境であるようなコミュニティにおいて「自然における生活」を提供しなければならない。
- ・「安全な」地域への接近
- ・目標ではなく、スカウト教育法の要素として「自然」を用いる。
- ・ある社会において、主な気晴らしとして屋内でテクノロジーを用いて過ごすことが好まれるという無気力感

とりわけこれらの課題に応じて、この項では各国連盟でプログラム開発を担当している人を対象に、情報やアドバイス、手引きを与えることを目的としています。

- ・スカウティングにおける環境教育の原則とねらいを理解する。
- ・ローバースカウトのプログラムにおける自然と環境の重要性。

ローバースカウトのプログラムの開発にあたり、各国スカウト連盟は次のことに留意すべきです：

- ・「自然における生活」の機会を与える（自然の要素に立ち向かう荒野の冒険）；
- ・その全ての面から最善の要素を得られるよう、自然の概念を研究する。
- ・スカウティングにおける環境教育の原則とねらいに従う。
- ・環境教育と教育の目的を関連づける。

(B-P 卿の文章より抜粋)

私はいま森に覆われた丘と急流でキャンプをしています。

天国は空の上のどこかにある漠然としたものではなく、あなた自身の心の中、そして取り巻くものの中にあります。

キャンプファイアによって、心は開き、大いなる考えと強い感情を得ることができます。

自然を学ぶことで、創造主が創った世界の一部としての、無限に対する問い、歴史に対する問い、微細なものに対する問いといったものの調和を図ることができます。

そこにあるものに満足せず、「なぜ」「どのように」を知ろうとしないさい。

まだ最初に過ぎないのに、人生において成功を収めることに望みを持つことができないなら、巨大なオークの木でさえ最初は地面に落ちた小さなドングリから始まったことを思い出さないさい。

成功するためには、忍耐は他のどの性質よりも重要なものとなります。

気むずかしい老人になると、私たちはかつては若者であったことを忘れやすいものです。

私たちが生きるべく神が下さったこの世界は、美と驚きに満ちています。そして光があり、見ようという気があるなら、私たちにはそれらを見ることのできる目だけではなく、それらを感じることのできる心までも授かっているのです。

## 2. 自然と環境、スカウト教育法

「スカウト教育法の要素として考えると、自然は若者の成長に計り知れない可能性もたらすものであると言えます。」野外で生活し自然と接触することと、ローバースカウト活動の目的の間には、直接的な関係があります。

自然と野外での生活は、ローバースカウトの活動にとって理想的なフレームワークとなります。スカウティングにおける環境教育への取り組みを考え、世界スカウト機構もこのフレームワークを支持しています。

ローバースカウトは世界を旅して探検することで、自然がもたらす豊かなタペストリーを見つけることができます。自然の様々な要素から最も多くのものである最善の方法は、他のローバースカウトと協力して事に当たることです。

ローバースカウトにとって、自然の中での生活は刺激的で、価値のあるものです。冒険的な活動の範囲は、想像力と資材次第でいくらかでも広げていくことができます。確かに、ローバースカウトはしばしば、ローバースカウトのコミュニティの仲間達や外部の人達と一緒にあって、より高いレベルの冒険的なスポーツに挑戦しようとすることもあります。また、より高みを目指して、お互いに影響し合いながら、より挑戦的な活動に参加しようとすることもあります。こうすることで、自分が通る世界を見て感じることに時間を費やすことができる、という別の側面もあります。自然の環境に感謝し享受することを学び、大自然に対する愛情を育み、自然の理についてより深く学び、こうしたことに心を傾けることに時間を費やします。

持続可能な開発とは、「将来の世代が求めるであろうニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たす」ということです。

環境に対して積極的な行動をとることが必要になったことから、これまでの歴史で初めて、持続可能な環境開発に関与するという姿勢を高めることが、より重要になってきています。

最近ではますます若者が自然環境から遠ざかってしまっているため、ローバースカウト活動の持つ自然界と人を繋ぐという役割は、重要なものとなっています。都市部の環境に生活している人の50%近くにとって、環境の「より大きな絵」を取り入れることが重要になっています。それは単に植物や動物と触れ合ったり、環境保護に従事したり、といったこと以上のことを意味しています。ローバースカウトは環境プログラムに活発に関わり、環境、人、そして社会について、情報に基づいた選択、それもスカウトのちかいとおきてを反映させた選択をしなければなりません。



### 3. 環境教育と教育的目的

自然における生活は、成長のための全ての分野において、教育の目的を高め達成するための理想的な環境をもたらします。

若者の身体的な成長のために野外での生活から得られる恩恵は分かりやすいものです。こうした活動によって、若者は座りつきりになっているライフスタイルから解放されることとなります。ローバースカウトが自然に向き合って自己の限界を広げるよう挑戦することは、教育の目的を達成する助けとなります。野外での活動に時間を費やすこと、特に探検に出掛けることは、体力増強と健康増進に役立ちます。自然における生活は、特に最近ますます増えている都市部に住む人達にとっては、自然界と関連するために不可欠なものです。というのは、こうした人達にとっては、1人でハイキングに行ったり、カヌーで探検したり、高い山でキャンプをする、といった機会がほとんど無いからです。

おそらく、自然における生活が子供や若者の知的な発達をもたらす可能性があるということは、はっきりと分かってもらうことは難しいかもしれませんが、重要なことです。自然は子供や若者の限界を広げ、森羅万象における深い意味を見つけることができるようになります。特に動植物は、どんな子供にとっても、観察し、発見し、探求する課題となるものです。この観察する、ということにより、若者は疑問を持ち、調べ、さらには自然界とその相互依存の面について本物の探求を行うようになります。最終的には、自然における生活の最高の段階として、五感を用いることによって目に見えないものに対する心の感受性と柔軟性を養うことができ、それによって創造性や独創力を培うことができます。

若者の心の成長において自然が教育的に重要であることは、見落とすことのできないものです。自然の美しさを経験することは、感情と感覚の発達を促します。自然の中でローバースカウトのプログラムを行うことは、静かで平和な状態からアドレナリンが分泌されるような意気揚々とした状態に及ぶこととなります。自然における生活を経験することを通して、ローバースカウトは感謝の心を持ち、環境への結びつきを高め、環境を維持し保護する気持ちを強くします。

自然における生活は若者の社会的な成長にとっても役立つものです。町にいれば、グループの問題は単にそこから去って家に帰ることで避けることができます。しかし、一旦自然の中に出たなら、問いかけをする必要も出てくるし、小グループはより強くはっきりした形のものになります。そして、そこにいる個人はより強い関係を結ぶこととなります。自然においては、商業的なものや「よそ行きの」飾りは忘れられ、技術や能力を示すことで尊敬を集めることができます。協力して現実の状況に向き合うことや、生きるためのニーズを満たすために協力して頑張ることは、グループのメンバーの間にまるで兄弟のような非常に強い「一体感」を創りあげることとなります。

自然は若者に対し、精神的な成長のための理想的な基礎をもたらします。自然における生活は、命がどれほど貴重ではないのかを示し、世界のライフサイクルがどれ程もろいものであるかを私たちに教えてくれます。壊すことがどれほど簡単で、直すことがどれほど難しいかを理解することで、その価値を理解し、自然や他者に対する尊敬の念を高めることができます。自然や野外活動は、創造物やその中における人の立ち位置に対し感謝するという、大きな可能性をもたらします。人の信念や心情といったものは、自然の要素により高められた時、特別な意味を帯びるようになるものです。

B-P 卿は自身の概念を次の言葉で要約しています：

「自然を知ることは、神を知ることへの第一歩となります。海や森、山といった自然と共生することで、謙虚さと畏敬の念を高めることができます。」

道徳的な性格の発達には、実際に野外の環境に影響を受けます。というのは、時には自然において、私たちの命を自分の手で何とかしなければならぬからです。組織の大きさやどれだけ準備しているかに関係なく、常に何が起こるかを予測できるわけではないのに、それにもかかわらず対応する用意をしなければなりません。自然における生活において、若者は自然の要素に立ち向かうこととなります。そうすることで、自身を理解し、自分と他の人々を尊重することになるでしょう。野外での生活では、若者は独特の状況に立ち向かうこととなります。そこではお互いに信頼し、どのような行動が必要かを認識していることが必要となります。

「ローバースカウトは、若さという鉄を焼き直すために、野外という鍛冶屋を使います。しかし、野外活動はどのように性格を形作るのでしょうか？そうするためには、私たちの本当の姿をもって立ち向かうような状況を創らなければなりません。自然という鏡は、その人の本当の姿を映し出すものです。このように、私たちは自分の強さと弱さを知り、自分の強さを活用し、自分の弱さと向き合うことを知るのです。」

したがって、自然と野外活動は、スカウティングの方法論において常に主要な役割を担うこととなります。スカウティングにおける教育的なツールとして自然や環境を最大限利用することにより、私たちの方法論を今日の若者のニーズや期待に合わせてアップデートし続けることが必要になってくるのです。

定義上、スカウティングはコミュニティに常に深く根ざしています。スカウティングの役割は社会の質を高めることであるという考えは、B-P 卿の著作全てに浸透しています。このことは、B-P 卿の「ラストメッセージ」に要約されます：

「この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするように努力し、あとの人に残しなさい。」

#### 4. 結論

自然と環境に対し責任ある若者として、私たちの知る世界を保護し維持することができるよう、ローバースカウトは人類がその習慣を変える必要がある、ということを理解します。

ローバースカウトのコミュニティにおいて自然に触れ合うようにするという事は、単に活動の問題ではありません。それはシンプルなライフスタイルを推奨し、基本的に全ての生きるものを尊重する、ということです。スカウト教育法の要素として、自然とは若者の成長に計り知れない可能性をもたらすものである、ということに言及しましょう。



#### Resources リソース

##### The World Scout Environment Programme (世界スカウト環境プログラム)

世界スカウト環境プログラムとは、世界中のスカウティングの環境教育の発展をサポートするためのツールやリソースを集めたものです。このプログラムは環境の原則とねらいに基づき、スカウティングにおける環境教育の基礎となるものを提供しています。世界スカウト環境プログラムは、環境教育活動に従事し、自然や環境から学び、環境に対してスカウトのちかきとおきてに基づいた選択ができるよう、スカウトをサポートします。詳細な情報については [www.scout.org/environment](http://www.scout.org/environment) を参照して下さい。

##### The Scouts of the World Award (SW Award) (スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード)

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、若者が世界の問題に気付き、自発的な活動を通じて必要な経験や技術を身につけ、世界市民となるようにするための特別なアワードです。スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは若者が世界市民となる準備として、理解することや、技術や知識を得てこの小さな星における生活を良くすることができるよう、3つの中心的なテーマを設定しています。そのテーマとは、環境、開発、そして平和です。詳細な情報については [www.scoutsoftheworld.net](http://www.scoutsoftheworld.net) を参照して下さい。

##### “Scouting, and the Environment” (スカウティングと環境)

世界が新しい世紀、新千年紀にはいつてから、人類が直面している環境問題は非常に重要なステージへと移行してきました。教育の問題として、環境問題はスカウティングに関連するものであり、また今日、世界中のノン・フォーマル青少年教育団体にとっても最前線の課題であります。このことが、この資料の性格を全て表していると言えるでしょう。この資料は次のリソースエリアから入手することができます：[www.scout.org/environment](http://www.scout.org/environment)

##### “Scouting, and Spiritual Development” (スカウティングと精神の発達)

この参照文書が解説しているのは、スカウティングにおいて精神的な平和や真実を探求するのに役立つ雰囲気を作るためには、どのような原則、方法、活動、グループ生活、等を通じて行うのがよいか、ということです。そうするために、スカウティングでは、強い信念を持ち、寛容で、信頼できる、(狂信ではない) 信仰を持った若者に成長するよう、貢献しています。宗教に対する無関心や物質主義の台頭を考えると、このことは明らかに重要であると言えます。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。[www.scout.org](http://www.scout.org)

#### REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 Adapted from “RAP”, WOSM 2000
- 2 WOSM “Scouting: an educational system”. World Scout Bureau
- 3 WOSM (2008) Principles & Aims for Environmental Education in Scouting. World Scout Bureau
- 4 United Nations (1987) “Report of the World Commission on Environment and Development.” General Assembly Resolution 42/187, 11 December 1987.
- 5 Barbara Ehringhaus, Strengthening Scouting’s Role through Education and Action on Nature and Environment, a discussion paper for the First Marbach Seminar, Geneva, January 1991
- 6 Idem, p.174
- 7 Opie, F. (1993) “The Global Scout” Scouting for nature and the environment. Maskew Miller Longman and WOSM
- 8 Baden-Powell, R. “Scouting for Boys”, published by Boy Scouts of America for and on behalf of Boy Scouts International Bureau, World Brotherhood Edition, USA, 1946, p. 295
- 9 Adapted from “Scouting: an educational system” WOSM, World Scout Bureau

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### モンゴルで地球開発村キャラバンを実施

(モンゴルの) ボーイスカウトでは、特に農村地帯で、人々の健康に関する知識が非常に乏しいと認識していました。また、健康と環境の間に密接な関係があるということに気付いていない、という問題もありました。子供や若者は非常に脆く、将来に対する態度を変えるためには若い世代を教育しなければならないという必要性も認識していました。

そこで、モンゴル・スカウト連盟は地球開発村のコンセプトを用いて、地域社会に健康と環境のメッセージを届けることにしました。モンゴルは非常に広く、高度なインフラが全然整備されていないので、人々に直接メッセージを伝えることが重要でした。それゆえ、地球開発村キャラバンというアイデアを採用することにしたのです。

ローバースカウトは国中でバス・キャラバンを組織して、地方の7千人の子供や若者に健康と環境のメッセージを届けました。3ヶ月間にわたって、合計4500kmをカバーしました。

翌年、モンゴルのローバースカウトはオーストラリアのローバースカウトと協力し、地球開発村キャラバンによって、重要な健康メッセージを西部の5地区、東部の3地区に届けました。彼らの旅は合計3900km、メッセージを伝えた人は1万人以上に達しました。



© World Bank / Alan de Brown / Science & Art / Photo.com, Moscow.

## 8) 教育の目的と個人の進歩

1. 導入	89
2. 教育の目的	90
2.1 全ての範囲	90
2.2 重要な構成要素	91
2.3 教育の目的一例	91
3. 個人の進歩	92
3.1 個人の進歩における3つのステージ	93
4. 将来を形作る	94
4.1 個人の課題	94
4.2 個人の課題の例	94
4.3 個人の計画	95
4.4 個人のタイムライン	95
4.5 ローバースカウトの日記	96
5. 結論	96
Resources リソース	97



## Key concept (基本概念)

- ・ローバースカウトの教育の目的は、スカウトのプログラムにおける「最終目的」なので、個人の成長における全ての領域（社会、身体、知識、性格、感情、精神）をカバーするものとなります。ローバースカウトは、これらの目的が何であるかをよく知らなければなりません。なぜなら、これらは個人の成長のベースとなるものだからです。
- ・この「最終目的」が対象とする範囲が広いので、各々のローバースカウトが各々の目的に応じた個人の課題を定めることができるよう支援します。
- ・（その年齢のため）ローバースカウトは人生のプランを作ります。それはスカウティングにおける生活を含んだ以上のもthingとなります。ローバースカウトにおける進歩は、成人としての生活に向けて進歩していくことと密接にリンクしていなければなりません。
- ・各々のローバースカウトが作る「個人の計画」は、教育の目的に基づいた個人としての目標を定めるためのツールとなります。
- ・ローバースカウト部門には、それぞれ3つの進行ステージがあります：「発見」「旅」「旅立ち」です。



## 1. 導入

あらゆる若者が自分の能力を知り、生産的に働き、自分の社会に貢献できるということは、世界中の各国スカウト連盟、政府、市民団体に共通する理想像であると言えます。

スカウティングの年齢構成における最終部門の若者と共に活動する際、ローバースカウト部門における教育の目的と個人の進歩に関して、世界中の各国スカウト連盟のプログラム開発担当者が直面しているいくつかの課題があります。これらの課題は次のようなことを含むでしょう：

- ・明確な教育目的が定義されていないので、ローバー部門のプログラムと活動にインパクトがない。
- ・ローバースカウトの教育目的がローバー以下の年齢部門の教育目的とあまりにもかけ離れてしまっていて、ローバー以下の部門からローバースカウトに「上進」するのが非常に大変である。
- ・教育目的に基づいた個人の進歩は「体系化された」「アカデミックな」ものかもしれないが、それはローバースカウトにとっては魅力的に映らないかもしれない。
- ・今日の社会に生きる若者にとって、教育目的が意味のないものである場合がある。

とりわけこれらの課題に応じて、この項では、各国スカウト連盟のプログラム開発担当者に対しアドバイスと手引きを提供しようとしています：

- ・教育の目的とその主な構成要素
- ・個人の課題
- ・個人の計画
- ・ローバースカウト日記と個人のタイムライン

ローバースカウトのプログラムを開発するにあたり、各国スカウト連盟は次のことに留意すべきです：

- ・ローバースカウトのコミュニティのためのプログラムの不可欠な部分として、ローバースカウトの教育目的を定義し、含め、成長の6つの分野をカバーするようにする。
- ・教育目的が今日の若者にとって意味があることを確認する。
- ・ローバースカウトのコミュニティにおいてライフスキルを習得することができるようにするとともに、個人の進歩のシステムを通じて教育目的を達成するようにする。



## 2. 教育の目的

教育の目的とは、ローバースカウトがスカウティングの目的を達成することができるようにするための成果となるものです。

教育の目的とは、教育の過程の最後に得られる「期待される結果」であると定義されます。そしてそのことは、どのような新しい能力を身につけたかによって表されます。それは新しい「知識」であったり、新しい「技術」であったり、新しい「姿勢や態度」であったりします。そしてそれらは、その人の「全ての」成長に寄与するものなのです。

ローバースカウトの教育目的は、ローバー以下の部門の教育目的と比べて数が少なかったり範囲が広がったりするかもしれませんが、それはローバー部門の教育目的がスカウトのプログラムにおける「最終的な目的」であるからです。

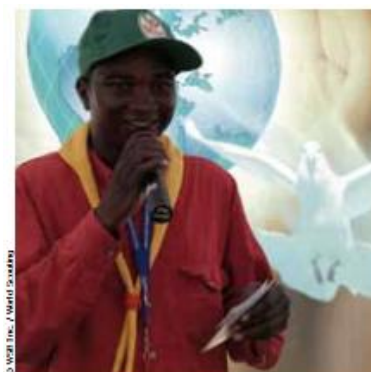
優れたローバースカウトのプログラムは目標を定めています。教育の目的によって、これらの目標を明確で分かりやすい方法により表すことができます。もちろん全ての部門においてあてはまることなのですが、ローバー以下の部門でそうしたように、ローバースカウトのプログラムにおいても、自国のスカウト連盟の最終目的を用いることができます。

全てのスカウト部門のプログラムにおいて、特にローバースカウトにおいて、教育の目的を「今日の若者」に意味があるものとする必要があります。私たちの住む世界は、素晴らしく挑戦的で活気に満ちた場所です。多くの場合において、私たちの親が育った世界よりも多くのことが変わってしまいます。例えばこの25年間に起こったデジタル革命は、それ以前の150年間に起こった変化よりも大きいものです。この「新しい世界」は、ローバースカウトに対して、自分がなれる最高の状態になり世界を良くするために積極的な役割を果たす、という課題を提示します。

### 2.1 全ての範囲

スカウティングでは、個人の成長における全ての分野で若者が成長することに貢献することをねらいとしています。

- ・ 社会的
- ・ 身体的
- ・ 知的
- ・ 感情的
- ・ 精神的
- ・ 性格の発達



スカウティングにおいて、ローバースカウトの全体的な目的は、彼らが自主的で、頼りになり、責任感があり、明確な意思を持った個人となるようにすることです。

- ・ 自主的な：自分自身で決めることができ、自分の人生を歩んでいける人
- ・ 頼りになる：他の人を積極的に助けることができる人
- ・ 責任感がある：自分で決めたことの結果を引き受け、責任を持ち、引き受けたことを完遂することができる人
- ・ 明確な意思を持った：自分の価値観に基づいて生きることができ、その人にとって重要な原因や理想を支えることができる人

## 2.2 重要な構成要素

教育の目的を正しく策定することが必要です。そしてそのためには、個人の発達における全ての分野をカバーするようにするとともに、次の事項のバランスをとるようにしなければなりません：

- ・ 知識を得て深める
- ・ 技術を学び向上させる
- ・ 姿勢を高め補う



優れた教育の目的とは明確で分かりやすい言葉で書かれており、次の要素を備えています：

- ・ 具体的である：1つのトピックのみを扱い、はっきりとした正確な言葉で書かれている。
- ・ 測定できる：目的に合致しているかどうかを測ることができる。
- ・ 達成できる：取り組もうとする若者の能力と一致している。
- ・ 現実的である：現在の状況（例：時間や資源）のもとで達成できる。
- ・ 時間を定めることができる：これらの目的をいつ達成したいのか？

ローバースカウト部門の教育目的、あるいは「最終目標」は、次のように表されています：

- ・ その国のスカウト連盟がローバースカウト部門の若者に対して提示している青少年プログラムの教育目標を表現していること。
- ・ ローバースカウトのメンター（第9項参照）からの支援とアドバイスにより、ローバースカウト部門にわたって若者が簡単に自分の学習の目的を定義できるようなフレームワークを開発すること。
- ・ それぞれの個人を発展させる分野において、各ローバースカウト個人の進歩を評価する基礎を提供していること。
- ・ スカウティングにおける経験が知識・技術・姿勢を身につけることの助けとなるような、高い品質の活動デザインの基礎を作ること。
- ・ 青少年プログラムの有用性を測ることができる変数を構築すること。

## 2.3 教育の目的一例

以下は、4つの異なる各国スカウト連盟が設定している教育目的または「最終的な目的」の例です：

- ・ 自身の特性によって、自由に、創造性をもって、人生のあらゆる面において活動することができること。
- ・ ローバースカウトとしての責務にしたがって生きること。
- ・ 自然に触れ合うことから得られる恩恵を知り、運動の習慣、良い衛生、良い栄養状態により、自分自身の身体を大切にすること
- ・ 環境を尊重し、感謝し、環境を守り環境をより良くする人となること
- ・ 偏見を持つことなく、自分の適性、可能性、興味、価値を考慮して職業を選択すること
- ・ 愛の表現として自分や他人の性別を知り、尊重し、受け入れること
- ・ 公正で、参加しやすく、協力し合えるような社会を作ることができるよう、自分の地域社会に対し積極的に奉仕すること
- ・ 信条を守り、自分が信仰する宗教に忠実であり、そこから生じる義務を引き受けること

- ・自分の感情を理解する際に、他の人がどのように自分を助けてくれるかを知ること
- ・不正、不平等、争いといったものがどのようなものであるかを知り、それを解決する方法を知り、その解決のためにどのような役割を果たせばよいかを知ること
- ・日常生活において人や人との関係を尊重する方法を知ること
- ・決心する前に、情報を集め評価し、分類し、それらを忘れないようにする方法を知っていること
- ・教育を尊重すること。知識を広め、系統的に新しい情報を集め、様々な学習の方法を知り、必要とする情報を得るために様々な情報源を見つけることができること
- ・チームのルールを受け入れ、守り、組織やグループの決定に従うことができること。チームにおいて責任を持って活動を準備し実施することができること。
- ・宗教に対して寛容であり、他の人がどの宗教を信仰しているかにかかわらず、誰とでもわだかまり無く積極的に交流することができること
- ・自主的に決心して、その結果を受け入れることができること。他の人々から受け取るだけでなく、与えることができること。
- ・攻撃的ではなく愉快地に、自分の主張をもって独創的にふるまうことができること

### 3. 個人の進歩

時々言われるように、ローバースカウトのプログラムはローバー以下の部門のプログラムのように構築してはなりません。というのは、ローバー年代の若者は規則というものに対して異なる反応をしますし、より「ゆるい」流動的な構造を好むものだからです。

しかし、個人の進歩のためには、フレームワークをはっきりと定めることが必要です。ローバースカウトは、スカウティングにおける旅路に沿って進歩するためにはどのような選択をしたらよいのかを、自分でコントロールできるでしょう。しかし、同時にローバースカウトを導き、進歩するために励ますための仕組みも必要です。

ローバースカウト活動における進歩は、成人期へと進歩することに密接に関連していなければなりません。このことは、ローバースカウトは自分の人生のプランを立て始めていて、そしてそれがスカウティングにおける生活以上のものを含んでいる、ということの意味しています。

ローバースカウトが自分自身で立てる「個人のプラン」は、自分に合った方法で、ローバースカウト部門の教育目的を考慮することになるでしょう。ローバースカウトの個人のプランは成長の6つの分野を考慮に入れて、定期的に再検討するものです。



### 3.1 個人の進歩における3つのステージ

ローバースカウトがより良く進歩していくことができるように、いくつかのステージを設定する必要があります。その際、「発見」、「旅」、「旅立ち」の3つのステージを設定することが推奨されます。その場合、各ステージにおいてローバースカウトが何を達成したのかが分かるようにする必要があります。例えばワッペン、証明書、免状、または「記章」のようなものを用いることになるかもしれません。これについては、各国スカウト連盟は国内のニーズや伝統、ローバースカウトのプログラムにおける象徴的フレームワークによって決定する必要があります。すなわち、ローバースカウトリングということなのです。



#### 「発見」のステージ ～ 責務とその理解

若者がローバースカウトのコミュニティに参加する時、その若者はローバースカウトのメンター（第9項参照）からの支援を受けて自分自身の状況进行评估し、自分の課題が様々な最終目的と一致しているかどうかを明確にするよう促されます。

発見のステージとは、若者がローバースカウトであることの意味を考え、ローバースカウトとしてののちかいを立て、その責務に従うかどうかを考える時間であると言えます。同時に、若者は「個人のプラン」への準備を始めることとなります。

#### 「旅」のステージ ～ ローバースカウト部門における生活

ローバースカウトが自分で立てる個人のプランは、成長の6つの分野を網羅した教育目的を取り入れたものとなります。

全てのローバースカウトは、少なくとも一年に一度は自分の個人のプランを再評価し、「見直して」更新します。このことは、ローバースカウトがローバースカウトのコミュニティでの生活を送る間、何度も自分の個人のプランと全ての教育目的を「見直す」ことを意味します。これを行う時期については、人はそれぞれ異なるので、各々のローバースカウト次第、となります。「見直し」を行う際には、各回それぞれにおいて、ローバースカウトに達成したことが分かるようなシンボルを与えるべきです。

ローバースカウトが自分の個人のプランを通じてこのセクションの全ての最終目的を達成したなら、それは「旅立ち」のステージに移行する時期であり、自分の人生のプランを示す時となります。

#### 「旅立ち」のステージ ～ 人生のプランとローバースカウトからの旅立ち

ローバースカウトが3回目の自分の課題の大部分を成し遂げたとの評価を得られたら、それはローバースカウトからの旅立ちを準備する時間が来たということです。このことは、スカウティングでの活動を通じて学んだ全てのこと、そしてこれから将来に向けて達成したい全てのことを知るのに役立つ「自分の人生のプラン」を含むでしょう。

ローバースカウトからの旅成ちは、ローバースカウトとしての経験が終わったということを示すセレモニーとなります。ローバースカウトのコミュニティにとっては、ローバースカウトに対する信頼と支援を示す場となります。ローバースカウトはスカウティングの活動から、常に大切にしている何かを「記念品」として受け取ります。

ローバースカウトから旅立つということは、スカウトのプログラムの質を評価する具体的な方法となります。この質は、スカウト運動に参画した若者の数ではなく、社会の発展に寄与する意思と技術を持った若者が毎年何人ローバースカウト部門から旅立つか、によって測られることとなります。

## 4. 将来を形作る

ローバースカウティングは個々人が選択して行うものです。ここでは、個人の進歩を可能にするいくつかの方法を提示します：個人の課題、個人の計画、個人のタイムライン、ローバースカウトの日記です。

### 4.1 個人の課題

ローバースカウト部門の性格上、他の部門に比べてその最終目的が広い範囲にわたるので、各々のローバースカウトが各人の目的に応じた個人の課題を定めることができるよう支援しなければなりません。

その名の通り、個人の課題は何か個人的な事項を含んでいなければなりません。そして、メンターの支援を受けた各々のローバースカウトによって定められ作成されなければなりません。個人の課題は、ローバースカウトがより良く理解し、目標に向かうための具体的な方法を作り出すことができるような任務または活動の形を取ります。学ぶということは、活動そのものよりも、各人が参加するという経験から得られます。そのため、個人の課題がいつでも予想した結果になるわけではないということは、心に留めておく価値があります。

メンターの役割は「コーチ」に似ています。というのは、メンターはローバースカウトが自分で定めた目標についてよく考え、課題が何であるかを明らかにし、課題に対処するための活動は何であるかを明らかにし、その進捗状況を把握するのを支援するからです。各々のローバースカウトは自分の進歩のためにメンターを選ばなければなりません；メンターの役割は、ローバーのグループにいるローバーアドバイザーやローバーのコミュニティにいる誰かによって行われることとなります。

### 4.2 個人の課題の例

	教育目的	個人の課題
身体的	自分自身の身体を維持するために、自然と触れ合うことの恩恵が何であるかを知り、運動を行う習慣を身につけ、良い衛生状態、良い栄養状態を保つようにする。	定期的にスポーツを行う。
知的	自分自身の適性（可能性と興味）を考慮に入れて職業を選ぶ。その他についても偏見なく尊重する。	自分の可能性、適性、興味を分析して、自分の将来の職業について、より正確な計画を作成する。
性格	公明正大で、誰もが参加でき、協力し合えるような社会を作ることができるよう、自分の地域のコミュニティに奉仕する。	自分のコミュニティにおいて人種差別の撤廃に向けて活動しているグループの活動に積極的に参画する。
感情的	性に関する関心と愛情表現を知り、尊重し、受け入れる。	愛と性の関係について更に学ぶ
社会的	自分の自由および他の人々の自由について関心を持つ。権利を行使し、義務を果たし、他の人々の権利を守るとはどういうことかを理解する。	自分の権利と他人の権利を擁護するための主張が出来る。
精神的	信念を厳しく守り、信仰を明確にし、信仰により生じる義務を受け入れることにより、信仰に忠実であること。	信仰に関してより深く自分自身の信条と責務を理解できるよう、自身の経験をふりかえり反省する

### 4.3 個人の計画

個人の計画とは、ローバースカウトにとっては体系的で個人的な方法により自分自身の目標を定める機会となります。個人の計画は様々な形を取りますが、どれをとっても成長の分野で達成すべき個人の課題を含むものでなければなりません。そのため、個人の計画とは、自己の成長を高めるツールでもあるのです。

変化から学び、将来を変化させるのです。

ローバースカウトにとって、個人の進歩は将来を形作るための方法となります。この過程におけるローバースカウトのメンターの役割は、次のようになるでしょう：

- 1) ローバースカウトが自分自身で明確な個人の課題を設定することができるよう、ローバースカウトのプログラムにおける教育の目的を調整する。
- 2) 過去、現在、未来は連続したものであることをローバースカウトが理解できるようにし、自分の能力を信じることで将来に影響を及ぼすことができるようにする。
- 3) ローバースカウトが自分の「個人の計画」を作成しふりかえるのを支援する。
- 4) ローバースカウトが自分の生涯の計画について考え始めるよう支援する。

タイムラインに従って、成すべきであると分かった課題を達成することができるよう、ローバースカウトが達成すべき必要なステップ、活動、プロジェクトを計画するようにしなければなりません。



### 4.4 個人のタイムライン

個人の計画をまとめることができるようにするために、ローバースカウトが自分の将来にどのような可能性があるかを理解していることは重要です。

過去の経験が現在を形作っていることに気付くことなく、更に重要なことにこれからの未来をコントロールすることができるということに気付くことなく、若者が現在のみにも生きている、ということは良くあることです。

変化を引き起こすことで自分にとっても自分が住むコミュニティにとっても良い結果が得られるようにするために、ローバースカウトは自分がどのようにになりたいか、そのためにはどのような行動が必要か、というビジョンを持っている必要があります。あらゆる行動は、望む目標に向かって小さなステップを積み重ねていくことで達成されるものです。

時には全く手に負えない状況になってしまうので、自分が望む未来をつくるということは、いつでもできることではありません。しかし、実現に向かって必要なステップを踏んでいくことで、望む未来に近づいていくことはできるのです。

ローバースカウトは自分の未来に向かって、受け身ではなく、率先して行動しなければなりません。ローバースカウトには、自分の人生をどのような方向に向け、それを実現するためにどのようなステップを踏めばよいかを教えてくれるメンターが必要です。ローバースカウトにとって、自分自身の強さと弱さを知り、何を達成すべきかを決め、そのための短期および長期の目標を設定することは、本当に助けになります。同時に、自分の人生は常に完全にコントロールできるものではないことを知ること、そして、それゆえ「可能性がある」未来を思い描くことが重要となります。

ここに、考えられる3つの未来を示します：

- 1) 状況が私たちの未来を形作っていくにつれ、「起こりそうなこと」はおそらく起こることになるでしょう。
- 2) 自分自身で決められることは実現できる可能性があり、その実現に向かって進んでいくことができます。
- 3) 夢に向かって進むことは好ましく、私たちはそれを目指して努力することができます。しかし、そうするためには現実を見なければならぬ必要があるし、また実現できないものであるかもしれません。

## 4.5 ローバースカウトの日記

ローバースカウトの日記は、個人の進歩を評価するための非常に有用なツールです。これはまた、WEB上で使用するツールの場合もあります。ローバースカウトの日記の目的は、ローバーの選択と行動の記録をまとめることにあります。

ローバースカウトの日記は、以下のことを含みます：

- ・ローバースカウトのプログラムの最終的な教育の目的
- ・ローバースカウトが選んだ個人の課題に対する各々の最終目標
- ・ローバースカウトの個人の計画
- ・課題に対処できる活動；個人の活動やプロジェクト（ローバースカウトのコミュニティの外で開発された、チームやコミュニティの活動やプロジェクト）
- ・個人の計画のために必要なリソースや技術、そしてどこに行けばそれを得られるかというアイデア。
- ・個人の計画を導くための活動計画を示したカレンダー（タイムライン）
- ・ふりかえりと評価についてのメモ

## 5. 結論

個人の進歩は、自分の成長に意識的に、活動的に関わるよう、特に各々の若者を支援することに焦点をあてています。進歩の計画は、スカウト教育法においてこの要素を支援するための主要なツールとなっています。知識、技術、姿勢に基づき確立されたローバースカウト部門の一連の教育目的に基づき、ローバースカウト部門が終わる頃には、若者が様々な分野において合理的に成長しているようにしようとしています。

個人の進歩は若者を支援して、自身が成長するよう気持ちを高めたり、ローバースカウト部門の教育目的が示す方向に向かって自分のペースで進んでいけるようにしたり、自分がどのような進歩を成し遂げたのかが分かるようにします。

ローバースカウト部門における個人の進歩は、次のことに基づいています：

- ・ローバースカウトのメンターの支援を受けて、各々が最終目標を達成できるよう、個人の課題を明確にする。
- ・これらの課題に合わせて考えられた様々なプロジェクト、活動、役割を通じて、個人の日記（タイムライン）の支援により、個人の進歩の道筋—個人の計画—を設定する。
- ・ローバースカウトのメンターだけではなく仲間やローバースカウトのコミュニティの外にいる人からも含めて、どのくらい成長したかを評価してもらう。
- ・人生の計画を作成することに向けて、様々な個人の計画を通じて個人の目標や課題の達成を認識するよう、承認のシステムを用いる。
- ・段階的にライフプランを作成する。それは個人のアイデンティティの鍵となる要素であり、ローバースカウトの旅立ちのセレモニーにてコミュニティにおいて完成され、共有される。







## Resources リソース

### “Educational Objectives of the Scout Movement”（スカウト運動の教育目的）

この資料は世界スカウト機構インターアメリカ地域が発行したもので、全ての年齢グループの教育目的について書かれています。内容は、成長（発達）の分野や年齢グループに分けて記載されています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

### “Scouting an Educational System” .（教育システムとしてのスカウティング）

この冊子は、教育システムとしてのスカウティングがどのように機能するかについての理解を深めることができるように作成されたものです。この冊子は各国スカウト連盟の青少年プログラムおよびアダルトリソース担当者に向けて書かれたものですが、スカウト指導者を支援しようとしている全ての人に読んで頂きたいと考えています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。www.scout.org

## REFERENCES（参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載）

- 1 As identified in “The Education of Young People: A Statement at the Dawn of the 21st Century” p. 5. Statement presented by the Chief Executive Officers of five of the world’ s largest non formal education organizations.
- 2 Idem
- 3 See Chapter “Adult Support” for more information.
- 4 See Annex 5: Personal Time Lines - that shows how Rover Scouts could be trained in order to become able to develop a life plan. It was successfully experienced during the Rover gathering (Sharjah 2005).
- 5 Idem
- 6 Adapted from “Scouting: an Educational System” . WOSM, World Scout Bureau
- 7 Idem

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### コスタリカのローバースカウトによるウミガメの保護

オサガメは、海に生息するウミガメの中で最も大きな種で、爬虫類の中では4番目に大きいです（爬虫類としてはもっと大きいワニがいる）。オサガメは他のウミガメと違って頑丈な甲羅を持たないので、容易に見分けることができます。甲羅は頑丈でない代わりに、皮膚と油で覆われています。オサガメは成長すると6.5フィート（約2メートル）の長さになり、体重は最高で2000ポンド（900kg）に達します。

オサガメは大きいので、オサガメを捕食する生物はあまりいないのですが、それでも成長し生き残る個体は非常に少数です。人間が密漁したり、浜辺を開発したり、釣りを行ったりするため、大変な危険にさらされているのです。例えば学者の試算によると、現在太平洋に生息しているオサガメは5千匹以下で、これは1980年から95パーセントも減少したことになります。また、生まれたばかりのオサガメは大変弱く、様々な種に捕食されてしまいます。

毎年、コスタリカのローバースカウトは、他のNGOや地域社会、政府組織と協力して、オサガメの保護活動を行っています。とりわけこの活動の中で、ローバースカウトはカメの巣を保護し、「赤ちゃん」カメが無事に海にたどり着けるよう、地域社会において夜間にカメを保護したり、注意するよう呼びかけるキャンペーンを実施しています。

この10年の間に大変多くのローバースカウトがこれらのプロジェクトに参加し、カメが安全な場所で卵を産めるようにしました。また、ローバースカウトはカメの移動ルートの監視も積極的に行いました。



## 9. 成人の支援

1. 導入	101
2. ローバースカウトと成人の支援	102
3. ローバースカウトのアドバイザー	
チームへの支援とローバーのローバースカウトのコミュニティの促進	102
3.1 ローバースカウト・アドバイザーの役割	102
3.2 ローバースカウト・アドバイザーの責任	102
4. ローバースカウトのメンター — 個々のローバースカウトを支援	103
5. 対等な協力関係	103
6. ローバースカウト・アドバイザーと	
ローバースカウト・メンターに対する責任	104
6.1 青年に力を与えるようにするには	104
6.2 リーダーシップを高める	105



7. ローバースカウト・アドバイザー またはローバースカウト・メンターになる人のプロフィール	106
8. プログラムとトレーニング開発者との密接な関係	108
9. ローバースカウト？ それともリーダー？	109
10. 結論	111
Resources リソース	111

## Key concept (基本概念)

- ・ローバースカウト部門では、若者はグループ内（ローバースカウトのコミュニティ内）の全ての責任あるポジションについて責任を引き受けることになります。
- ・ローバー部門を支援する成人は、ローバー以下の部門の成人とは異なる役割を担う必要があります。
- ・ローバースカウト・アドバイザーとは、ローバースカウトのコミュニティやチームを作り維持することを支援することで、ローバー隊全体をサポートする人のことです。
- ・これに対し、ローバースカウト・メンターとは、ローバースカウトになることを決心した個々の若者を支援する人のことです。そのため、自発的なパートナーシップを築くことになります。

## 1. 導入

ローバースカウト部門における成人の役割とは、ローバースカウトを支援することです。スカウトの人格の全ての分野における可能性を完全に引き出し、自主的で、頼りになり、責任感があり、献身的な人間になるようにします。B-P 卿が述べているように、各々の若者は自己の成長という舞台において主演俳優となるべきなのです。B-P 卿は「自己学習」という概念を強調しています。これについては、著作スカウティング・フォア・ボーイズで次のように述べています：「自己学習 つまり、先生から強要され指導を受けるよりもはるかに、独学や自分自身で学んだことのほうが 過ぎてから身になっていたことが分かる。」

ローバースカウトの個人の進歩を考える際、ローバー部門を支援する指導者には2つの目標があります。1つは、各々のローバースカウトが、適切な時期に、適切なレベルの自己学習ができるようにする、ということです。そのためには、ローバースカウトが各々の成長のために必要なものは何かを理解できるようにします。また、これらのニーズはローバースカウトのプログラムを通じて満たされるようにします。2つ目は、ローバースカウトのグループが共同で作業を行う際、前向きで魅力的な環境にて行うことができるように支援することです。

成人がローバー部門を支援する際に鍵となるのは、対等なパートナーとして自発的なパートナーシップを築くことにあります。スカウティングは若者の運動として知られていますが、実際には成人の支援を受けた若者の運動なのです。

世界中の各国スカウト連盟のプログラム開発担当者は、ローバー部門に対する成人の支援の点で、いくつかの課題に直面しています。それは次のようなことです：

- ・あるスカウト連盟では、ローバー部門よりもローバー以下の若い部門に焦点をあてるようになった。その結果、成人の人材がローバーより若い部門に優先して割り当てられるようになった。
- ・ローバー以下の部門で指導者が不足しているので、ローバースカウトにリーダーの役割を担ってもらう必要がある。
- ・あるスカウト連盟では、どのようにローバースカウトを支援するかを再定義しなければならない、あるいはローバースカウトを支援するための成人指導者をどのように訓練するかを再定義しなければならない、明確な必要性がある。
- ・あるスカウト連盟では、若い加盟員の（部門間の）連携に適切なバランスが取れていない。それによって、例えばプログラム開発といった意思決定、さらにはスカウティングの全ての面に、ローバースカウトが十分に参画できていない。
- ・目まぐるしく世界が変わるので、青春期から成人期への移行のあり方も変わってしまった。そのため、成人の支援のあり方も現在のニーズに合わせて再定義する必要が出てきた。
- ・ローバー部門の加盟員数が減少している。

とりわけこれらの課題に応じて、この項では、各国スカウト連盟のプログラム開発担当者に対し、アドバイスと手引きを提供しようとしています：

- ・ローバー部門における成人の役割（ローバー部門における成人のプロフィール）
- ・世代間のコミュニケーションへのアプローチ
- ・ローバー部門における成人のサポートのモデル
- ・ローバースカウトが青少年プログラムを修了することの重要性

ローバースカウトのプログラムを開発する際、各国スカウト連盟は次のことに留意すべきです：

- ・青年のリーダーシップとは何かを定義し、支援し、推奨すること
- ・ローバースカウトと成人が対等の立場で築く真のパートナーシップとは何かを定義し、支援し、推奨すること
- ・成人がローバースカウト・アドバイザーやローバースカウト・メンターになれるように、充実したトレーニングを定義し、支援し、推奨すること



## 2. ローバースカウトと成人の支援

各部門それぞれにおいて、成人が担う役割は変わります。というのは、若者の性質や能力が変わってくるからです。ローバー以下の部門では、スカウト教育法によって、意思決定にどんどん参画するよう促されます。ローバー部門では、リーダーシップを発揮するポジションを、ローバースカウト自身が担うこととなります。すなわち、成人のアドバイザーやメンターの支援のもと、ローバースカウト自身が全ての責任あるポジションを担う、ということです。

ローバースカウトのコミュニティにおける成人指導者の役割とプロフィールは非常に具体的で、ローバー以下の部門での役割とは異なるものになります。そういうわけで、「成人指導者」を「ローバースカウト・アドバイザー」と呼ぶのです。

ローバースカウト・アドバイザーとはローバー隊全体を支援する指導者のことで、これから述べるように様々な役割を持っています。その上、各々のローバースカウトは、これから述べるように、ローバースカウト・メンターという自分を支援してくれる人を持つべきです。ここで注意点として、「アドバイザー」と「メンター」という言葉は、成人の役割を示すために用いられている、ということです；ローバー部門においては、リーダーの役割を担うのは若者です。

ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターは若者の盟友と見なされるでしょう。というのは、若者を引っ張ったり押ししたりするのではなく、成人期に向かう道において若者の傍らに存在だからです。そのため、スカウティングにおいて築かれる世代間の関係は、ローバースカウトにとっては非常に広範囲にわたって有益なものとなります。成人にとっても、ローバーのコミュニティに参加できる非常に幸運な成人、ということになります。

## 3. ローバースカウトのアドバイザー

### チームへの支援とローバーのローバースカウトのコミュニティの促進

#### 3.1 ローバースカウト・アドバイザーの役割

ローバースカウト・アドバイザーの役割とは、ローバースカウトがローバーのコミュニティやチームを作ること、そしてそれを維持するのを支援することです。ローバースカウト・アドバイザーは、ローバースカウトのコミュニティ、そして全ての教育的な要素によって示されるフレームワークにおいて、方向を指し示す存在でなければなりません。

しかし、アドバイザーには、学習組織としてのコミュニティが活発に機能するようにする役割もあります。

アドバイザーの役割は、次のようなものです：

- ・各々のローバースカウトが個人の課題を認識し、個人の計画を立てることができるようにする。
- ・発見、活動、責任の領域を広げる。
- ・各々のローバースカウトが個人、チーム、コミュニティの活動に参画できるようにする。
- ・個人に対してトレーニングの機会を提供する。
- ・ローバースカウトが進歩し、限界を超えることができるように促す。
- ・各々のローバースカウトが進歩を評価し、自分の可能性に気付くように支援する。
- ・ローバースカウト・メンターと連携する。

#### 3.2 ローバースカウト・アドバイザーの責任

##### スカウティングの使命に対する責任がある

ローバースカウト・アドバイザーは「使命を守る者」であり、スカウティングの使命に対する責任があります。アドバイザーは、ローバースカウトのコミュニティがスカウティングの基礎となるもの（原則、ねらい、教育法）に基づいて機能し、スカウティングの使命を実行することができるようにします：

*『スカウトの「ちかい」と「おきて」に基づいた価値体系を通して、人々が個人としての資質が発揮でき、社会において建設的な役割を果たすことが出来るような、より良き世界を築く手助けとなるよう、若い人々の教育に貢献することにあります。』*

##### スカウトの価値の例を設定する

ローバースカウト・アドバイザーはローバースカウトに対し、スカウトの価値を示し、推進するようにします。つまり、あるスカウト、あるチーム、あるコミュニティがスカウティングの原則と価値を忘れてしまっているような時には、アドバイザーは躊躇することなくローバースカウトに疑問を呈するようにする、ということです。



#### 4. ローバースカウトのメンター 個々のローバースカウトを支援

ローバースカウトのメンターには、個々のローバースカウトをサポートするという役割があります。ローバースカウト・メンターとは、ローバースカウトが自分自身で選択することができるようにする人のことです。そのため、そこに含まれる自発的な性質に基づくパートナーシップを強調することになります。また、ローバースカウトのニーズや希望によっては、メンターは必ずしもスカウティングに関連した経歴を持っていない人も構いません。

ローバースカウト・メンターの役割は次のようなものです：

- ・各々のローバースカウトが個人の課題を認識し、個人の計画を立てることができるようにする。
- ・発見、活動、責任の領域を広げる。
- ・各々のローバースカウトが個人、チーム、隊の活動に参画できるようにする。
- ・個人に対してトレーニングの機会を提供する。
- ・ローバースカウトが進歩し、限界を超えることができるように促す。
- ・各々のローバースカウトが進歩を評価し、自分の可能性に気付くように支援する。

時にメンターは、同時に複数のローバースカウトに対するメンターの役割を担うこともあります。



#### 5. 対等な協力関係

ローバースカウトと成人のパートナーシップは、それぞれ相手が持ってきた価値を認め合うという基礎の上に成り立っています。

ローバー以下の部門とは対照的に、ローバースカウトは様々な点で成人指導者と対等の立場にあります。Veikko Aalberg（青年発達上の精神医学におけるフィンランドの権威）によると、主にローバースカウトは成人から対等であると見なされる必要がある、とのこと。本当のパートナーシップを築くためには、メンターになろうとしている成人は、若者全般、特にローバースカウトに対する態度をどのようにするかを考える必要があります。以下は、Barry Checkoway の記事“Adults as Allies”（盟友としての成人）からの引用です：

若者と上手に付き合っていくには、アダルティズムの存在に全面的に向き合っていくことが必要です。（訳者註：「アダルティズム」とは、子どもや若者には価値がないので、子どもや若者の力を信じないし、尊重しないという思想のこと）。アダルティズムでは、成人は若者よりも優れているので、様々なことを若者の合意無しに行ってもよいという仮定から、全ての態度や姿勢が生じることとなります。

囚人や施設に収容されているグループのような場合を除いて、社会のどのグループよりもこの思想に影響されるのは若者の生活です。加えて成人は、「しつけ」のためには有益で必要であると考えた時には、若者を罰し、脅し、打ち、追い払う「特権」を持っています。

もしこれが成人のグループに対する扱いの説明であるならば、社会は直ちにそれを抑圧であると認めるでしょう。しかしながら、成人は一般的にアダルティズムを抑圧とは考えません。なぜなら、自分たちが若い頃にはそのように扱われていたからです；つまり、この過程は内在化してしまっているわけです。

アダルティズムの本質は、若者が尊重されないということです。若者は重要ではなく、ある意味では成人よりも劣っている、とされます。若者が正しく成長するとは思われていないので、若者は教えられ、しつけられ、引き具をつけられ、罰されることで成人の世界に導かれるべきだ、となるのです。

次に示すような物言いが、どれほど失礼なものかを考えてください。こうした物言いの背後にあるものは何か？こうした物言いを若者はどのように聞いているか？

「15歳にしては頭が良いね」

「いつからそんなに偉くなったんだ？」

「自分の部屋に行け！」

「この年になってまだそんなことをしているの？」

「何を知っているというのだ？」

「まだ何も経験していないだろう！」

「そろそろいいだろう。卒業しても良い頃だ。」

その振る舞いが「アダルトイズム」かどうかを見分ける簡単な方法があります。次の問いを考えてみてください：

「私は成人をこんな方法で扱うだろうか？」

「私は成人に対してこんな口調で話をするだろうか？」

若者を解き放つには、成人の積極的な参画が必要になります。まず初めに、現在の成人が子供の頃や若い頃どのように虐げられ、低く評価されていたかを考え、理解しましょう。そして今日、成人として、どのように行動すればよいのかを考えましょう。



ローバースカウト・アドバイザーはローバースカウトの考えや能力を、真に尊重しなければなりません。そして、そのことを絶えず明白に示さなくてはなりません。会議では、アドバイザーの役割として、グループの全てのメンバーからアイデアを引き出し、真剣に扱い、引き立て、ローバースカウト自身で決定できるようにします。活動においては、アドバイザーの役割として、一步引き下がり、若者が活動し決定を下すことができるようにします。しかし基礎的な情報は与えて、ローバースカウトが情報に基づいた決定ができるようにしないとなりません。

こうしたことは、大多数の成人にとって、容易なことではありません。大多数の成人は気付くことなく、権威的な役割を果たす状況に陥ってしまうのです。成人は、自分たちの意見や行動様式が、無意識のうちにローバースカウトのそれよりも優れたものであると考えがちです。ローバースカウト・アドバイザーはこうしたパターンの例外となる存在でなければなりません。

## 6. ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターに対する責任

ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターは、リーダーシップを高める過程を通じて、若者に力を与えることができます。「ここで言う過程とは若者の長所を伸ばすものであり、無価値や不平等といった状況に対しても立ち向かうことができるような経験を得ることができるようにすることである。」

### 6.1 青年に力を与えるようにするには

(“Adults as Allies” (盟友としての成人) からの引用：)

成人は若者に力を与えることができるのでしょうか？一般に、力を与えるということは、ある人やコミュニティが他から力を与えたり、力を得たりする過程のことをいいます。こうした概念に於いて、力とは人やコミュニティの外から生じるものであり、他から受け取ったり取ってきたりするものです。力を与えるということについて別の見方をすると、力とはあらゆる人やコミュニティに於いて現存しているか、潜在的に存在するもの、ということになります。常に、力を与えられる別の人あるいはコミュニティが存在する、ということです。

しかし、人にとって、鍵となるのは、その人が既に持っている力あるいは潜在的な力を認識する、あるいは作用させる、ということです。

次の話を考えてみましょう：『オズの魔法使いで、臆病なライオンは魔法使いに勇気が欲しいと頼みました。結局、魔法使いはライオンにリボンを与えます。このリボンが勇気を表しているのです。ライオンがこのリボンを見ると、ライオンは自分に力があると信じます。ライオンがこのように感じることで、勇気ある行動を取ることができます。しかし、魔法使いは言いました。「人はいつでも私に、自分が既に持っているものを欲しいと尋ねてくる。私には人がなぜそうするのが分からない。』』

青年に力を与えるという概念は、ローバースカウトのコミュニティにおいて成人の支援をどのように展開すればよいかを理解するための、中心的な要素となります。青年に力を与えるということは、必要な技術の習得を始めるスカウティングの最初期から、若者が経験し始めるべき過程となります。

「青年に力を与える」ということを可能にするためには、公平で、民主的で、秩序ある、平和な環境が必要になります。このことは、若者から話を聞き行動する前に、受け身の姿勢で安定するのを待っている、という意味ではありません。安定している状態は、青年に力を与えることを実践することにより作り出すのです。必要なことは、若者の長所と短所を理解し、若者が必要とする技術を高める機会を得られるようにすることです。

各国スカウト連盟の中には、実際には見せかけの行為を行っているに過ぎないのに、青年の参画や青年に力を与えることを実践していると信じている場合もあります。

あらゆるローバースカウトは、参画し貢献する力を、潜在的に持っています。ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターはローバースカウトに対し、自分たちがこうした力を持っている、ということに気付くことができるようにしないとなりません。

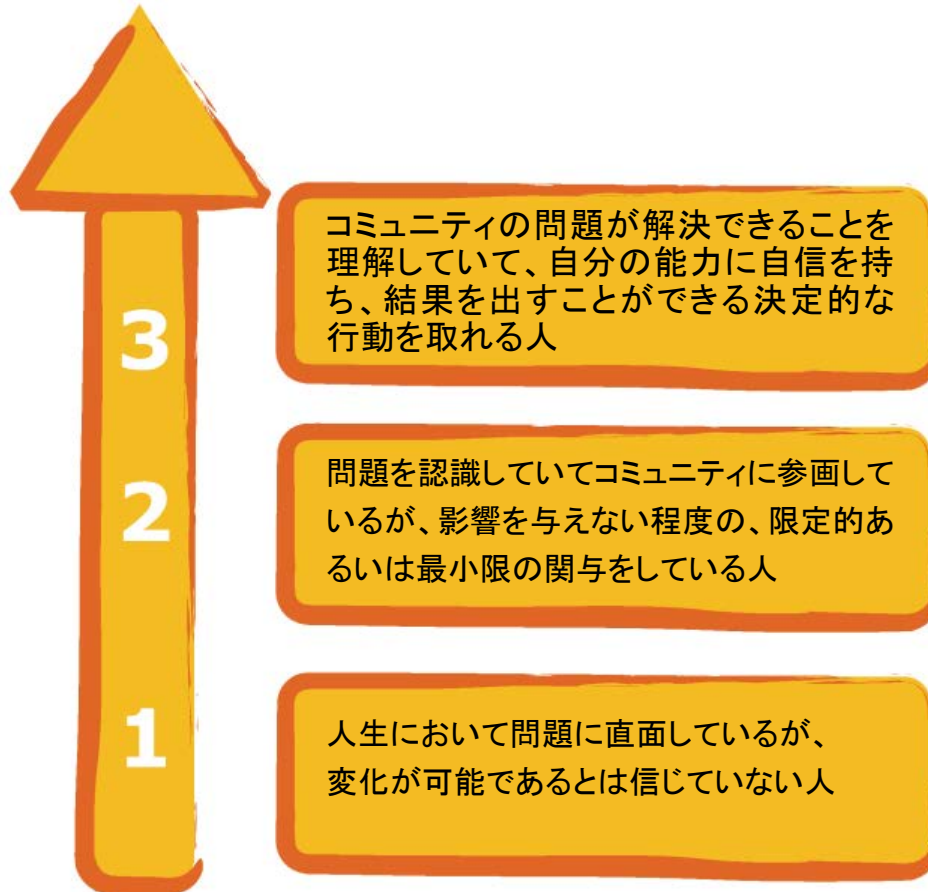


しかしながら、たとえ21世紀の若者であっても、特に若い女性や少数民族、少数文化の人々の場合、この潜在的な力に気付く機会が全く無い場合があります。それどころか、若者は成人と違って価値がないと言われていたり、自分で決める権利を与えられていなかったり、両親の言いなりになっていたり、罰されたり虐待されていたり、法的な権利が制限されている、といった場合すらあります。

したがって、若者には参画する力があり、違いをもたらすことができるのだ、ということを若者に気付かせるための、積極的な努力が必要なのです。次の表1で、あらゆる人間のグループに見られる「力を与える」ということの三段階の過程を示します。

ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターの役割は、若者がこの第一段階から第三段階の過程を通して力を与えられるように支援することです（表1参照）。

表1：「力を与える」段階（変化の連続体）



## 6.2 リーダーシップを高める

リーダーシップを高めるための鍵となる要素として、ローバースカウト・アドバイザーやローバースカウト・メンターが提供できるものには、次のようなものがあります：

- ・ **関係を育む：**  
他の人々をより良くする前に、まず自分自身をより良くすることが必要です。人は自分を愛してくれる人から、最も良く学ぶことができます。人がより良く成長していくためには、例えばメンターや友人、カウンセラーといった、私たちを励まし支援してくれる人が必要です。
- ・ **その人の可能性を識別する：**  
リーダーシップの可能性を示すものが何であるかは、しばしば明らかではありません。時には、とても活動的なリーダーにマイナスの要素があり、そのことがその人を優位な状況に立たせることもあります。遠慮がない、人気がない、断定的でない、といった性質が、より良い可能性を示すこともあるかもしれません。
- ・ **成果を強調する：**  
若者が隊のために行う任務は、重要で見に見える結果を示すものでなければなりません。ローバースカウト・アドバイザーは、隊からはっきりと認めてもらえるような、高い水準の達成項目を提供しなければなりません。
- ・ **リーダーシップを高めるのを支援するための仕組みを提供する：**  
ローバースカウトのコミュニティは社会の縮図であり、そこには様々なリーダーシップを発揮する役割があります。ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターは、成人として指導と支援を行います。

・ **学習の機会を提供する：**

ローバースカウトがローバースカウトのコミュニティにおいて経験することは、ローバースカウトのチームリーダーとなるために必要な技術を高めるのに役立ちます。そうした経験には次のようなものがあります：建設的に考える、計画する、まとめる、運営する、目的を定める、アクションプランを策定する、報告する、等。

・ **活動の範囲を広げる：**

リーダーシップを高めるということを、スカウティングで経験することのみに限定してはなりません。リーダーシップを育むためのトレーニングは、スカウト運動を離れたところ、例えば学校や大学、職場、そして社会に奉仕する場といった、そうした場所でもリーダーシップを発揮できるように提供されなければなりません。

・ **真に世界的な問題に関わる：**

地域社会の問題は、何らかの形で世界的な問題の何かと関連し、影響を及ぼしているものです。同時に、世界的な問題が地域の問題に影響を及ぼしている場合もあります。若者は、この繋がりを見つけなければなりません。そこで、若者の視野が自分のコミュニティに限られてしまうことがないように促すことが必要になります。身近なことから経験を始めたとしても、その視野は周囲の垣根を越えていくものでなければなりません。スカウト運動の国際的なネットワークを用いることで、この目的を達成することができるでしょう（スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードや、国際的な合同プログラムといったものが役に立ちます）。

## 7. ローバースカウト・アドバイザーまたはローバースカウト・メンターになる人のプロフィール

ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターの役割は、要求される事項がとても多いです。若者が自分の潜在能力に気づき、人生における自分の道を見つけることができるようにすることは、二次的な任務ではありません。そのため、ある種の性質を持った成人のプロフィールが要求されることとなります。

ローバースカウト・アドバイザーやローバースカウト・メンターになろうとする人は、男性でも女性でも、ある程度の人生経験を積んでいなければなりません。アドバイザーもメンターも、青春期の課題や問題を解決しなければなりません。アドバイザーもメンターも、夢を失ったり楽観的になることなく、成功も失敗も経験していることが必要です。人間関係についても、有益な経験をしていなければなりません。

各国スカウト連盟には、全ての成人指導者に対して、適切なトレーニングと支援を提供する責任があります。

### 精神的にバランスが取れており、成熟している

若者は人生においてある種の課題を抱えます。若者は感情の問題、落ち込み、薬物乱用、危険な行動といった、難しい状況に直面することもあります。そのような場合、若者は自分に向き合ってくれる成人を必要とします。そうした成人は、パニックに陥ったり攻撃的に振る舞ったりすること無く若者に向き合えるよう、十分にバランスの取れた、成熟した大人であることが必要です。

### 成人のコミュニティにおいてしっかりとした立場を確立している

ローバースカウトのアドバイザーもメンターも、若者が個人の計画やチームや隊のプロジェクトを実施する際に必要とする全ての知識や技術を備えているわけではありません。そこでその役割をしっかりと果たすためには、ローバースカウトのアドバイザーもメンターも、成人のコミュニティにおいて広い人脈を持ち、必要なアドバイス、リソース、専門知識を見つけることが出来るようになります。そうすることで、若者は活動を成功させることが出来るでしょう。

### 若者とコミュニケーションをとることが出来る

多くの若者は、自分の家族や、学校や大学、職場において、成人との人間関係の難しさを経験するものです。そうした中で、ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターは、若者との間に信頼に基づいた前向きな人間関係を築くことが出来なければなりません。ローバースカウトのアドバイザーもメンターも、若者からの人気取りに陥ることなく、若者の支えとなり、時には苦言を呈することもしなければなりません。

アドバイザーもメンターも、自分に備わっていないのに、全ての性質や技術があるように見せかけてはなりません。アドバイザーもメンターも、若者に対して誠実であり、自分の欠点を認め、知識や技術がない場合にはそれを認め、問題を解決するための新しい方法を探して若者と協力することが出来なければなりません。





### 技術を高めるためにより多くのことを学ぼうとしている

最後に、ローバースカウト・アドバイザーとローバースカウト・メンターは、生涯を通じて学ぶようにすることが必要です。アドバイザーやメンターは、社会の傾向や若者に影響を与える問題に応じて、知識を高めるようにする必要があります。アドバイザーやメンターは、若者に合わせることで、スカウト教育法を実施するための教育の技術や能力を高めることが出来る方法で、若者のニーズや性質について積極的に学ぶようにする必要があります。アドバイザーやメンターは、他の同様な役割を持った成人と意見や経験の交換を積極的に行うべきです。そうすることで、自分の専門知識、さらにはスカウト運動全体に関わる能力を高め、若者が人生における道を見いだすのを支援できるようにします。

### 若者を導く立場の人へ

あなたは、親しく、責任があり、愛情深く、熱心ですか？

あなたは、支援できますか、良き話相手になれますか？

あなたは、相手の話を十分に聞きますか？

あなたは、例を示すことによって導くことができますか？

あなたは、まとめることができ、創造的で、革新的で、忠実ですか？

あなたは、前もって企画をしますか？

あなたは、心を開き、頼りになり、臨機応変で、順応性がありますか？

あなたは、熱心に関わりますか？

あなたは、16歳以上の青年に接することが出来ますか？

あなたは、若者を奮起させ、動機づけるために時間を割くことが出来ますか？

あなたは、若者の生活に違いをもたらしたいですか？

もしこれらのことができるのなら、ローバースカウト・アドバイザーになってみませんか？

この自発的なポジションは、ローバースカウトに助言し、ローバーからの問いに答えるために傍らにいて、スカウト精神を促進し、その支えとなるものです。あなたはローバースカウト達に成長と発達の機会をもたらすことになるでしょう。あなたはローバースカウトのニーズを理解し、地域や国のレベルに対してローバーが興味をもっていることについて示します。

あなたはスカウト教育法を用いて、ローバースカウティングの目的に沿い、グループの安全に責任を持ちます。

あなたには成人としてスカウティングに関わる時間があるでしょう。あなたは、柔軟で役に立ち、活動に参画し、新しいプロジェクトを見つけて、資金造成の機会を知り、ローバースカウトのプログラムに精通し、国レベル/国際レベルの行事の情報を得ている必要があります。最も重要なのは、例を示すことによって導くことができる、ということです。

他のスカウトの部門に関する経験があるのが望ましいです。実習訓練や構築訓練も受けることができます。

詳細は、あなたの地元のローバースカウト・グループに連絡してください。

(世界スカウト機構ヨーロッパ地域発行資料“RoCoReKi”(Rover Commissioners' Resource Kit)より抜粋)

## 8. プログラムとトレーニング開発者との密接な関係

あなたが所属する国のスカウト連盟の方針を、成人の役割や成人に対するサポートを再定義するよう変えるのは、非常に大変なことです。成人がスカウティングをどのように考えているのか、ということは、技術やトレーニングの問題以上に（トレーニングを通じて変化をもたらすことが可能であるにもかかわらず）、姿勢や価値観の問題（上述したアダルトイズムのことを考えてみましょう）、ということになります。しかしながら、スカウティングに関わる大多数の成人は本当に素晴らしい人です。そして、もしあなたが自分の国のスカウト連盟に見られるような役割を伝えることができるならば、成人はスカウティングの実生活において様々な素晴らしい成果を出すことができるでしょう。

プログラムの開発においては、次のような点を考慮することになるでしょう：

- ・若者と指導者のために作成したこれらのツールは、若者と成人がパートナーとして力を合わせることを可能にするだろうか？
- ・これらのツールは、若者が選択し責任を負うことに対して、十分な許容度があるだろうか？
- ・どのくらい、そしてどのように、若者が成熟していく段階に応じて、若者に対する責任を含む成人指導者の役割を漸進的に変化させていけばよいだろうか？

ローバースカウトのプログラムがうまくいくようにするためには、成人のためのトレーニングによってバックアップされている必要があります。トレーニングの計画を立てる時は、次の点を含み、考慮している必要があります：

- ・成人の指導者は、スカウティングの教育的な提案を、真に理解しているだろうか？
- ・成人の指導者は、若者が多面的な学習経験を実際に積むことができるような方法で、理論を実践に移すことができるだろうか？
- ・若者にとって困難な状況が建設的な学習の機会となるようにするために、成人指導者にどのような支援が必要か？
- ・ありきたりの活動を用いて、若者が提案する活動のアイデアを豊かなものにすることができるようになるには、成人指導者にどのような支援が必要か？
- ・若者が責任を持って率先して行う必要がある機会を次第に増やしていけるようにグループが機能する、そのための方法を微調整することができるようにするためには、成人指導者にどのような支援が必要か？
- ・グループにおける日常的な活動やグループ内における人間関係が豊かな学習機会を提供できるようにするためには、成人指導者にどのような支援が必要か？
- ・これらは検討できるほんのわずかな項目に過ぎない。もちろん他にもたくさんある。



## 9. ローバースカウト？ それともリーダー？



ローバースカウトのコミュニティの外でリーダーシップを発揮しているローバースカウトに最もありがちな問題は、ローバースカウトがカブスカウトのようなローバー以下の年齢部門において責任あるリーダーシップを発揮している、ということです。

リーダーシップを発揮することは、ローバースカウト部門において若者に対し定義された教育の目的に沿うための、1つの方法ではあります。ローバースカウトのプログラムでは、若者がリーダーシップを身に付けることが出来るよう、様々な機会を提供しています。例えば、ローバースカウトのチームリーダーを務める、ローバースカウトのコミュニティで議長を務める、ローバー以下の年齢部門を支援する、赤十字のようなスカウト運動以外の団体を支援する、といったことです。しかし、最優先事項の1つは、ローバースカウトがローバースカウトのプログラムを楽しみ、プログラム全体を確実に経験するようにすることです。

ローバースカウトがローバー以下の年齢部門においてリーダーシップを発揮するという点に関して、各国スカウト連盟によって様々なモデルが見られます。各国スカウト連盟は、ローバースカウト活動に対するアプローチの方法を決める前に、いくつかの要素を考慮する必要があります。同様に、ローバースカウトのプログラム以外にリーダーシップを発揮する機会がある、ということについてもよく考えないなりません。これらの要素には、次のようなものがあります：

1. ローバースカウト部門の年齢上限
2. 自国におけるローバースカウトの状況～大部分のローバースカウトはまだ就学年齢なのかどうか、あるいは既に就職している若者を含む広い範囲の若者にとってもローバースカウト活動は魅力的なものとなっているのかどうか
3. ローバースカウト活動の機会が無い

### モデル1：ローバースカウトは指導者ではない

このモデルを取り入れている国のスカウト連盟では、ローバースカウト部門と、成人の指導者が担う責任とを、明確に切り分ける必要があります。ある期間カブ隊やボーイ隊で指導者の補助を行うことは、ローバースカウトにとって意味のある奉仕であるし、リーダーシップを発揮するための選択肢の1つとなります。別の選択肢として、学校における地域社会でのトレーニングや社会的組織においてリーダーシップを発揮する役割を担う、ということもできます。若者にとっては、自分のリーダーシップ能力を養う場を自分で決めることができる、という選択肢となるようにしないとなりません。「社会における建設的な役割を担うことができるよう、若者を支援する」というスカウティングの使命に留意しましょう。

このモデルでは、各国スカウト連盟は：

- ・指導者になっても良い年齢を制限した上で、ローバースカウト部門の年齢の上限を定義する（もしローバー部門が18歳で終了するのならば、18歳になる前に指導者にしてはならない。もしローバー部門が22歳で終了するのならば、22歳になる前に指導者にしてはならない）。
- ・この年齢になる前は、指導者にしない。

各国スカウト連盟はこのようにすることで、より質の高いプログラムを提供できる方法とします。18歳から22歳の若者に対して教育的なプログラムを提供すること、そして22歳以上になって初めて指導者に任命するようにすることで、各国スカウト連盟は成人指導者を成熟した、より立場のしっかりしたものとすることができます。例えばイタリアでは、AGESCIによってローバースカウトと指導者の問題について論じています（下記メッセージボックス参照）。

私たちはいつも指導者不足に悩まされています。AGESCIでは、公平を期すため、各隊は男性と女性によって指導されます。そのため、各隊は最低6人（男3人、女3人）が必要になります：2人がBranco（8～12歳の部門）、2人がRepart（11～16歳の部門）、2人がNoviziato Clan（ローバー前の部門）を担当します。指導者はトレーニングヘッドの規則に従って承認されなければなりません。もしローバーやスカウトを指導者に含めることができれば、必ずしも「男性と女性」でなくとも、もっと多くの人を集めることができるでしょうが、そうすると他の問題が出てきます。ローバーやスカウトが責任を担うことができるようになる前に、より多くの責任を課してしまうと、彼らは燃え尽きてしまうでしょう。そのため、ローバーやスカウトは指導者を助けるに留め、また指導者を助けることを通じて、何物も（活動）、常に方法（スカウト教育法とスタイル）による理由（目的）があるのだということを学びます。この方法を取ることでより大きな責任を担わなくても良くなるので、ローバーやスカウトは他の人々にどのように与え、その人達をどのように幸せにするかを学ぶことができます。ローバーやスカウトは、自分自身を理解するために誰かを助けることは、自己実現のための最も優れた方法の1つであるということを学ぶことができます。

## モデル2：スカウティングにおけるローバースカウトとリーダーシップ

一部のスカウト連盟では、若者のための部門の1つとして、ローバースカウトと指導者の両方になれる機会を提供しています。若者はローバースカウトとなり、青少年プログラムを受ける対象として、自己の発達に焦点をあてていきます。その一方で、ある部門の正式な指導者となり、その部門において他の若者に青少年プログラムの内容を与える責任を負うことになります。

このモデルでは、2つの役割を切り離しておくことが重要です。そして、若者がスカウティングの指導者になる際は、通常の過程を経ることが必要になります。この過程には、任命委員会のインタビューを受けることが含まれるかもしれません。そうすることで、適切に人柄を見て、最初の導入トレーニングを行い、チャイルドプロテクションに関するトレーニングを行い、それからスカウティングにおける具体的な役割を与えます。

このモデルを取り入れているスカウト連盟は、これらの役割を明確に切り離すべきです。そして、若者がその成人期への移行において、これらの役割を区別でき、その活動におけるこれらの複雑さをうまく取り扱うことができるようにします。

このモデルはオーストラリアで取り入れられています。そこでは、ローバースカウトが自発的に、ローバー以下の年齢部門に対し責任を負うかどうかを決めることができます。しかし、ある部門の指導者と認められるためには、リーダートレーニングの計画に従わなければなりません。

## モデル3：ローバースカウト活動の機会が無い

あるスカウト連盟では、ローバースカウト部門やそれに相当する部門が無く、青少年プログラムは中等教育の終わりに達した時点で提供されなくなります。スカウト連盟がこのような選択をしている一方で、ローバースカウト・プログラムは、青春から成人期への移行に際し、若者に豊かで価値ある経験をもたらすことができるようにも思えます。というのは、ローバースカウト・プログラムはB-P 卿がまとめた概念に基づき、今日の若者のニーズに合わせるようにガイドラインを定めているからです。

世界的な運動体としてのスカウティングでは、若者が世界中の他のスカウトと繋がりを持つことができるようにします。そして、スカウティングは若者に、他の人々と分かち合い、異なる文化や習慣から学び、寛容と理解を高める機会を提供します。また、ローバースカウト部門では、ローバー以下の年齢部門では得られない個人の発達の機会を提供します。また、この年齢の若者にとってパートナーシップを育み、ローバー以下の様々な年齢部門においてより高度な奉仕プロジェクトを行う機会をももたらします。

アイルランド・スカウト連盟では、プログラム開発チームが新しい青少年プログラムを開発しました。それは全ての年齢範囲に対する1つの進歩プログラムであり、今日の若者に関連して、最良のスカウト教育法とその実践を用いています。アイルランド・スカウト連盟はローバースカウト部門に対して、この年代の若者は成熟期に達して「現実世界」への参画に備えている、という概念を反映させた図式を提案しています。現在では、ローバースカウトはより大きく変化し、自分の人生の方向を選ぶ準備ができています。同時に、成長の旅路と個人の発見はまだ終わりに達していないという概念を反映させています。

そのため、スカウティングにおけるローバースカウト活動およびリーダーシップについては、次の点をよく考えなければなりません：

- ・ローバースカウト部門がうまく機能するようにするためには、ある年齢範囲の全ての若者が個人の発達のための教育プログラムに参加するようにならなければならない。ローバースカウト・プログラムは、充実していて、全ての個人の成長の分野における教育目的に沿ったものでなければならない。ローバースカウト・プログラムは、挑戦的で、価値があり、真にそこにいる青年のニーズと能力に適したものでなければならない。
- ・全てのローバースカウトがローバー以下の年齢部門の指導者になるという期待を持ってはいけない。リーダーシップは自らの意思によって発揮されなければならない。
- ・大部分の若者は、ローバースカウトとして青少年プログラムに参加し自分の自己発達に焦点をあてることと、指導者となって他の者に青少年プログラムをもたらすその自己発達を支援することは違うということを理解している。
- ・どんな成人であっても、正式に具体的な役割を与えられることなく、スカウトの指導者として受け入れてはならない。明確な基準に従い、評価を受ける限られた期間の間、受け入れるべきである。



ローバースカウト部門は、ローバーが対象とする年齢層の全ての若者に対して提案されなければなりません。そこでは、若者が期待するリーダーシップを発揮するポジションと責任が提供されることとなります。

ローバースカウト部門では、3つのステージによって、進歩的な方法でこのニーズに対処しようとしています。第1のステージは「発見」で、若者はローバー活動を通じて技術や経験を得ます。第2のステージ「旅」に到達すると、若者はローバーのコミュニティにおける役割や（例：ローバースカウトのチームリーダー）、ローバー部門の外での役割（例：ローバー以下の年齢部門や他団体における奉仕）を担うようになります。最後に、スカウティングに対し継続的に関与する（スカウト指導者としての道を選ぶ）か、社会の発展に寄与する他の組織に参加するかを選んで、「旅立ち」に備えることとなります。



## 10. 結論

スカウティングにおいて、成人の支援は、個人およびグループ両方における成人指導者と若者の自発的なパートナーシップを含みます。この教育的なパートナーシップにおいて、成人指導者の役割は、スカウティングの目的、原則、手法に基づいた方法を通じて、自己学習の過程を促進することです。

成人指導者が若者にもたらすサポートは、教育の性質に基づいたものです。すなわち、成人は各々の若者が成長するのを支援する、という特定の役割を果たすということです。

スカウティングにおいて提供される教育的な支援は、他の成人による支援、すなわち、通常、若者の人生に対して両親や学校の先生、スポーツのコーチといった成人からもたらされる支援とは、異なる形を取ります。それぞれの場合において、なぜ成人と若者がお互いに触れ合うかという理由は異なります。目指す目標も異なります。その役割が持つ性質も異なります。感情の関係も異なります。そして、そこから起こる相互の作用も異なります。要するに、教育の関係が異なる、ということです。

スカウト教育法を正しく適用することで、ローバースカウトはその成長を支援され、ローバースカウト・アドバイザーやローバースカウト・メンターから力を与えられることとなります。

## Resources リソース

### “World Adult Resources Handbook”（世界アダルトリソースハンドブック）

世界アダルトリソースハンドブックは、各国スカウト連盟がその組織の全ての段階において、成人指導者が担う全ての役割の開発・運営・トレーニングのためのシステムを構築できるようにするためのものです。この冊子は、世界アダルトリソース委員会によって作成されました。このハンドブックには、初期の国際訓練ハンドブック、および最近発行された世界スカウト機構の書籍「スカウティングにおける成人」および「アダルトリソース管理」に関する記述が含まれています。この冊子は次のホームページのリソースエリアから入手できます。  
[www.scout.org](http://www.scout.org)

### “World Adult Resources Policy”（世界アダルトリソース方針）

1993年にバンコクで開催された第33回世界スカウト会議において採択された世界スカウト機構のアダルトリソース方針の完全な分を含む参照文書です。この資料は次のホームページのリソースエリアから入手できます。[www.scout.org](http://www.scout.org)

## REFERENCES（参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載）

- 1 Checkoway, B. (1991) Adults as Allies. School of Social work the Universtiy of Michigan.
- 2 WOSM (2005) Youth Involvement Toolbox. Youth Involvement, Youth Empowerment. World Scout Bureau. p. 105
- 3 Checkoway, B. (1991) Adults as Allies. School of Social work the Universtiy of Michigan.
- 4 Based on the work of Checkoway, B. (1991) Adults as Allies. School of Social work the Universtiy of Michigan.
- 5 WOSM (2005) Youth Involvement Toolbox. Youth Involvement, Youth Empowerment. World Scout Bureau. p. 105 - 106
- 6 “RoCoReKi”. European Scout Region. p. 177
- 7 “Scouting: an Educational System”. WOSM, World Scout Bureau
- 8 About the age limits of the Rover Scout section, look at Chapter 2 “Characteristics & Needs of Young Adults”
- 9 WOSM - European Region (2006) Rover Commissioners’ Resource Kit, RoCoReKi, Interesting practice No. 1 from AGESCI, Italy, p. 133
- 10 “Age Ranges & Section Names. Version: 1.6” (2008) Youth Programme. Scouting Ireland
- 11 Adult Resources Policy adopted by the World Scout Conference in Bangkok, 1993.
- 12 WOSM (1998) “Scouting: an educational system”. World Scout Bureau

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### ソロモン諸島の「スカウティング・ツゲダ (Scouting Tugeda)」

ソロモン島でのスカウティングでは、若者に南太平洋式の生活を送る機会を提供しています。オーストラリア・スカウト連盟は、ホニアラのスカウトとの共同プロジェクトのため、42人のチームを送りました。ホニアラは、近年重大な市民不安に遭遇した町です。このプロジェクトのスカウトたちは、地域社会を支援しながら、平和の文化と二国間の理解を促すプログラムを実施しました。

オーストラリアのローバースカウトは、ソロモン島のスカウトと共同で「ホニアラ・プロジェクト」を展開しました。このプロジェクトでは、44人がホニアラに赴き、赤十字開発センターの修復作業を行いました。当時、ここはソロモン島で唯一、障がいを持った子ども達の学校として使われていたのです。

最初のサービスプロジェクトは赤十字開発センターとの特別な関係を継続することでした。そのため、ローバースカウト達はコンピューターや、屋根や台所の基本的な修理も行いました。

ソロモン島のスカウティングでは、まだローバースカウト部門は立ち上げられていませんでした。この年齢層の非常に多くの若者に仕事が無く、近年の社会不安に巻き込まれたことで、何もすることがない若者に何か生産的な活動を与える必要性が生じていました。これを考慮して、オーストラリアのローバースカウトはソロモン島に合った形でローバー部門を設立するのを支援することになりました。

この驚くべきプロジェクトでは多くのことを達成することができましたが、このチームが達成したことで最も重要なことは、決して定量化したり測ることのできない、そして写真に撮ったりすることのできないものでした。実際に、全く異なる文化や背景を持った人と生活し共同作業をするということは、目を見はるような経験となるのです。この短い二週間の中に、生涯続くような非常に強い友情が築かれました。両国からのチームメンバーにとって偏見は立ち向かうべきものでしたが、全ての任務を地域社会に根付いた形で行い、両国の指導者にとっても強いメッセージを送りました。





### 第3章 “WHAT”

青年プログラムとは、若者がスカウティングにおいてWhat（何を）行うのか（活動）、How（どのように）行うのか（スカウト教育法）、Why（なぜ）行うのか、の総合的なものです。

#### What :

ローバースカウトのプログラムは、ローバースカウト活動に参画する若者のためのプログラムを全て含むこととなります：例えば、キャンプ、野外活動、地域社会への奉仕、地域の開発プロジェクト、式典、スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード、といったものです。そして、これらの活動には共通の要素がなければなりません：すなわち、魅力的で、挑戦できて、若者に関わるものである、ということです。

この章は1つの項を含みます。

#### 10) ローバースカウト部門の活動

活動とは若者にとって楽しく、冒険的で、活動的で、生涯に亘って役に立つ技術を高めるためのものです。ローバースカウト部門の活動では特に、積極的に旅をする、多くの文化を経験する、大自然での冒険、地域社会への奉仕、社会や経済に対する理解を深める、といったことに焦点をあてます。

性格と能力を築く訓練を自分にするにあたり、君は単に自分の地位や幸福の達成を目指すだけでなく、他の人々に善いことをし社会に尽くすことをいつも目標にしよう。ひとたび君が他の人々に奉仕する立場に立ったならば、君は真の成功—すなわち幸福—へ昇る梯子段に足をかけたことになる。

(Revering to Success 日本語版 ボーイスカウト日本連盟 平成8年版)

## ROVER SCOUTS IN ACTION



### サウジアラビアでの善行

毎年、ほぼ300万人の巡礼者がハッジのためにサウジアラビアに行きます。ハッジとはメッカへの巡礼のことで、あらゆる信心深いイスラム教徒が生涯に少なくとも一回は行いたいと考えています。

これまでのように今年も、国中の4千人以上のスカウトが、情報の伝達、道案内、迷子が両親の元に戻るようにする、応急処置、といった奉仕活動を行いました。これは、スカウトによる単一の奉仕プロジェクトとしては、おそらく世界最大のものです。

スカウトは15日間のボランティア活動を行うことになるので、応急処置や情報伝達技術のための特別なトレーニングを受けます。

スカウトが助けた人達から送られた礼状には、共通して1つのことが書かれています：文字通り何百万もの人の海の中で迷ったこの人達は、よく見慣れたものを見ました。すなわち、スカウトのユニフォームを着た若者です。ユニフォームを着た若者には安心感があります。あるいは、自分たちがかつてはスカウトだった、という場合もあります。そういう訳で、スカウトのユニフォームを着た若者は安全だということを、この人達は知っていたのです。



## 10. ローバースカウト部門の活動

1. 導入	117
2. 活動の4つの分野	118
2.1 活動的な旅行と異文化の体験	118
2.2 大自然での冒険	119
2.3 地域奉仕活動	119
2.4 社会や経済に対する理解を深める	120
3. スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード	121
4. 世界のローバースカウト活動	122
5. 結論	123
リソース    Resorcess	124



## Key concept (基本概念)

- ・ローバースカウトの活動は非常に多彩で、様々な形を取り、様々な方法で編成されます。しかしながら、ローバースカウトのプログラムには基礎となる4つの分野があります。それは次の通りです：
  1. 活動的な旅行と異文化の体験
  2. 大自然での冒険
  3. 地域奉仕活動
  4. 社会や経済に対する理解を深める
- ・スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードはローバースカウトのプログラムを活性化し、上記4分野の実施を補うことができます。

## 1. 導入

活動はスカウティングを大いに楽しくするものです。しかし、「目的のある楽しさ」であることが、ローバースカウト部門では特に重要になります。明らかに活動はローバースカウト・プログラムの一部ですが、それは楽しいからではなく、ローバースカウトが成人へと成長していくための有用なツールであるから行うのです。

ローバースカウト部門の活動には、若者にとって重要な問題を扱う機会を含めるべきです：すなわち、健康、人間関係、性に対する責任ある姿勢、ライフスタイル、個人の安全、人生の選択、といった問題です。活動によって、若者が環境の問題とその地域や世界に対する影響が何であるかを体験することができるようにします。これは野外での生活を取り入れることによって可能となるでしょう。

ローバースカウト部門において活動にはどんな意味があるのかに関する総論と、それらをどのように教育の目的と関連させるかについては、「行うことによって学ぶ」の項で述べています。

ローバースカウト部門の活動を適切で魅力的なものにするということに関して、世界中の各国スカウト連盟のプログラム開発担当者は多くの課題に直面しています。その内のいくつかは、次のようなことです。

- ・あるスカウト連盟ではローバー部門よりもローバー以下の若い部門に焦点をあてるようになった。
- ・あるスカウト連盟は、教育の目的を達成することに対して活動が重要な役割を担っている、ということ認識していない。
- ・あるスカウト連盟では、目的もなくただ活動だけを行っている。
- ・あるスカウト連盟では、ローバースカウトのプログラムとはただ活動を集めただけのものだと考えている。

とりわけこれらの課題に応じて、この項では、各国スカウト連盟のプログラム開発担当者に対しアドバイスと手引きを提供しようとしています：

- ・基礎となる4つの分野をローバースカウトの活動に合わせる。
- ・スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードをローバースカウトのプログラムを活性化させるための教育ツールとして活用する。
- ・世界中のローバースカウト活動の例を提示する。

ローバースカウトのプログラムを開発するにあたり、各国スカウト連盟は次のことに留意すべきです：

- ・ローバースカウトのプログラムにおいて、多様で充実した活動を定義し、支援し、促進する。
- ・ローバースカウトのコミュニティやチームにとっての例となるように、地区や国レベルでローバースカウト対象のイベントを定義し、支援し、促進する。
- ・ローバースカウトのコミュニティにおけるプログラムの実施の全ての段階において、若者が参画できるような構造にする。
- ・自分に関連する宗教や他の文化に対する理解を深める。
- ・様々な価値観、特に平和や人間の理解に関する価値観を尊重する姿勢を高める。
- ・地域社会のニーズを発見し対応する機会を与える。可能であれば、地域あるいはもっと高レベルでのパートナーシップを育むようにする。
- ・他の生活の方法を見つけ、人間に対する理解を深めるためには、ネットワークを軽くし、新しい人間関係を築くことが重要であると認識する。
- ・社会において各々が担うことになる役割に関連した具体的な技術を育むようにする：例としては、自己表現、時間管理、コミュニケーション、リーダーシップ、協力、等。
- ・長期的な視野に立ってプロジェクトを実施し、責任の共有や協働管理といった姿勢に対する理解を深める。
- ・地球規模の問題に関する理解と活動を含める。



## 2. 活動の4つの分野

「行うことによって学ぶ」の項で説明したように、活動とは経験の流れであり、活動によって、若者が1つないし複数の教育目的に応じた知識・技術・姿勢を身に付けることが出来るようになります。若者は活動を通じて経験を積み、学んでいくのです。

ローバースカウトの活動は非常に多彩で、様々な形を取り、様々な方法で編成されます。このように様々な形を取ることは、充実した学習経験をもたらすことに貢献しています。ローバースカウト・プログラムにより学ぶということは、定着した活動や、多彩な活動やプロジェクトを通じて達成されるのです。（「行うことによって学ぶ」の項を参照して下さい。）

若者に多様な活動をもたらす一方で、ローバースカウトのプログラムはまた、若者がこの年代における具体的な課題に向き合うことができるような活動や経験も重視します（「青年の特徴とニーズに基づくローバースカウト・プログラム」の項を参照して下さい）。

したがって、ローバースカウトのプログラムは、各々のローバースカウトが自分の進歩において活動の4つの分野に取り組むよう求めていくものでなければなりません。4つの分野は次の通りです：

1. 活動的な旅行と異文化の体験
2. 大自然での冒険
3. 地域奉仕活動
4. 社会や経済に対する理解を深める

### 2.1 活動的な旅行と異文化の体験

若者は、他の社会や他の文化について知ることが必要だと感じています。ローバースカウト部門における象徴的フレームワークは、この必要性を認識しています。ローバリングとは、旅をし、探検し、発見することを意味しているのです。

活動的な旅行とは、ローバースカウト部門においては普通に行われる活動でなければなりません。ローバースカウトは、いわゆる一般的な旅行にのみ興味がある普通の観光客のような旅行はしません。ローバースカウトは活動的な旅行者、すなわち、様々な環境において、人はどのような文化、信念、期待を抱いて生活しているかを熱心に知ろうとしている旅行者なのです。ローバースカウトは好奇心が強く、探検を好み、発見し、理解したいと望むものです。活動的な旅行者は、冷房の効いた車に乗って一週間に 1000 kmも移動するような旅行はしません。活動的な旅行者は歩き、自転車を使い、ヨットを使い、地元の人と交流できるようなやり方で公共交通機関を使い、地元の人と交流し、地元の人を理解するようにするものです。活動的な旅行とは、自然環境を知り、歴史を知り、他の人々の生活や文化を知る方法なのです。

活動的な旅行と異文化の体験は、まず身近なところから始めるべきです。多くの若者は、自国の文化がどれほど文化的に豊かであるかを知りません。自分の国を愛し活動的な市民となる第一歩は、自分の国をよく知ることです。ローバースカウトのプログラムは、若者にこうした経験、すなわち自分の国の様々な面を知る機会を提供しなければなりません。

しかしながら、いわゆるグローバルゼーション（世界規模化）と言われる現代において、若者に他の文化を知り、国際的な／異文化の交流を経験する機会があるということは重要です。スカウティングの世界的なネットワークは、教育のツールとして用いられなければなりません。ローバースカウト部門では、例えば次に示す例により、国際的な経験を積むことができる機会を可能な限り多く提供しましょう：

- ・ 2つまたはいくつかの国のスカウト連盟による若者の交流
- ・ 外国の地域社会やローバースカウトのコミュニティと共同する
- ・ 国際的なイベントに参加する
- ・ スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードのフレームワークのもとに開発された国際プログラムに参加する（外国での発見や奉仕活動）





## 2.2 大自然での冒険

野外での活動と自然における生活は、スカウト教育法の重要な要素です。このことはローバースカウト部門でも無視してはなりません。

若者は多くの活動を行うことになりませんが、時間の管理と生活において良いバランスを保つことに関しては、若干の難しさを感じているようです。自然の中での活動、すなわち大自然において自然の要素と向き合うということは、身体の自然なバランスを保ちどんな状況においても対応できるように身体を鍛えるためには、本来欠かせないものです。

ローバースカウトは、山や森でのハイキング、カヌー、登山、ヨットといった活動を通じて、大自然を好む気持ちを高め、保持しなければなりません。また、これらの活動はローバースカウトが自然環境や野生生物を保護し、資源を無駄にすることなく生活することに対する理解と関心を高めるものでなくてはなりません。

ローバースカウトは定期的に大自然における探検を実施しなければなりません。そうすることで、自然の要素と向き合い、適切にリスク管理をすることを通じて自身の限界にチャレンジし、自然環境の重要性を理解し、自然に生きる人々から学び、チームでの活動を通じて自分の能力を高め、臨機応変に物事に対応できるようにします。

## 2.3 地域奉仕活動

「奉仕する」ということは、B-P 卿がローバースカウト部門に対して提案したモットーです。このことは、スカウティングの使命である「よりよい世界を創る」ことにも一致します。

旅行や探検を通じて、ローバースカウトは自分のコミュニティ、国、周りの世界から発見することができます。ローバースカウトは他の人々と連帯する気持ちを高め、問題を認識し原因を理解するために学びます。こうすることで、前向きな変化をもたらすよう貢献するためのプロジェクトを展開することができるようになります。

地域社会における奉仕活動に参画する前に、ローバースカウトは、ただ「親切」なだけであることを避けなければなりません。緊急に奉仕することも時には必要でしょう。しかし、ローバースカウトは地域への奉仕を通じて、責任ある市民となるのに必要な技術を学ばなければなりません：ここで言う技術とは、批判的な思考法、問題の分析、問題の解決、対立を解消する方法、プロジェクトの管理、といった技術のことです。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、ローバースカウトがコミュニティに参画し、地域や国、国際的なレベルで責任ある市民となるようにトレーニングするための良いフレームワークとなります。

## 2.4 社会や経済に対する理解を深める

多くの国において、若者は社会に出て仕事に就き、将来は家庭を築いて生活することに備えるという対し、困難な状況に直面しています。地域社会における奉仕を実践することは、若者に市民であることの感覚を身につけさせるのに役立ちます。しかし、職業に就き家族を持って生活することに備えることもまた、若者を成人の役割に近づけるためには非常に重要なことです。

ローバースカウトのコミュニティは、若者が社会に出て仕事に就くことができるよう支援するための様々な機会を提供しなければなりません。

- ・地域において労働市場に関する情報を集めて、労働組合の関係者、企業の役員、地元の雇い主からの話を聞く機会を設定することができるよう、ローバースカウトによって職業情報を管理する。
- ・例えばスカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードのようなボランティア奉仕のシステムを構築して、時間管理、チームワーク、意思決定といった、若者が職業に就いてから必須とされる技術を学び経験できるようにする。
- ・インターンシップ研修の仕組みを整備して、若者が様々な専門職のフレームワークを経験し、自分の進路を考えるための良い情報を集めることができるようにする。
- ・何らかの収入を得るプロジェクトを展開する機会を提供することで、実際の経済活動がどのようなもので、地域のニーズに基づいたサービスや製品を開発するとはどういうことかを経験できるようにする。この種のプロジェクトでは、ローバースカウトがミニ会社やミニ企業を作って、若者が仕事を見つけるのに苦労しているような状況にある国において仕事を作り出すことができるようにする。ある国のスカウト連盟では、この発案をサポートするため、パートナーの支援を得て、マイクロクレジット（貧困状態にある人々のための金融サービス）の仕組みを構築したり、家庭教師のネットワークを作ったりしている。ローバースカウト部門はこの分野への関与を増やさなければならない。







### 3. スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、現在の世界の問題により注意を払うことにより、社会の発展についてますます若者の参画を促すことを目的として立ち上げたもので、各国スカウト連盟がローバースカウト部門のプログラムを活性化するのを支援します。スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、能力、人種、信仰、居住地に関わらず、15歳から26歳までの全ての年代に開かれたものです。スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、若者が地球市民となる準備に関連して、小さな惑星上の生活に必要なとされる理解、技能、知識を要求する3つの中心的なテーマに焦点をあてています：即ち、平和、環境、開発です。

このアワードは若者を引きつけ、世界の重要な事項に対し活動する能力を与え、従事させるものです。その活動は、自由、寛容、平等、自然に対する敬意、責任の共有といった、あらゆる文化で尊重され、国連ミレニアム宣言に正式に記された、普遍的な価値に基づくものです。スカウティングはこれらと同じ価値を、100年以上推進してきました。

スカウト運動に対して頻繁に行われる批判の1つは、その活動があまりに内部の加盟員に焦点を当て過ぎている、ということです。このことは、私たちが社会に対して提供している教育のサービス全体を考えると、不当に思えるかもしれません。

しかしながら、大きな組織ゆえに、閉じられた円の中で活動し全てのことを私たちだけで行ってしまうということはあったでしょう。運動体としてのスカウティングは、世界の変化に応じて、精神的に変化していかなければなりません。したがって、ミレニアム開発目標に対処し、世界的な問題から地元の問題まで扱い、スカウトの加盟員以外の人々とも力を合わせて活動していくことは、スカウティングの責務と言えます。そうすることは、スカウティングのためになると同時に、世界のためにもなるのです。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、3つのステップから成ります。

#### 1. 調査（「それは何だろう？」）

ミレニアム開発目標に規定された1つないし複数の面を積極的に発見すること。例：汚染が深刻な森でレンジャーとハイキングする、偏見や迫害に遭っている民族のコミュニティを訪問する、難民キャンプを訪問する。これらは「活動的な旅行と異文化の体験」の分野と関連しています。

#### 2. 反応（「それが私にとって意味するものは何だろう？」）

原因と結果に関する批判的思考法の過程を通じて、集めた情報をまとめて、問題に関わるための個人の意識を高めること。

#### 3. 取り組む（「私にできることは何だろう？」）

問題に対する地域社会の意識を高め、問題の解決に貢献するため、個人の活動プランを立てること。

社会の一部としてのスカウト運動は、同じ種類の機会を誰に対しても提供しようとしなければなりません。ある国では旅に出ることができる若者がいる一方で、同様の機会を持つことができない若者がいます。スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードでは、例えば旅をしなくても、国際的な要素を提供することができます。様々な分野における協力を通じて共に活動し、世界の問題を学び、そこから得られた情報をもとに地元で展開するプロジェクトに組み立て直すことで、「発見」または「プロジェクト」は国際的な要素を備えることができます。このことは、「活動的な旅行と異文化の体験」の分野における活動と一致します。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、世界中のコミュニティにおける様々なボランティア活動を通じて、若者が自分の潜在能力を最大限に高めることができる機会を提供します。それによって、若者は他文化的な国際チームで活動する希少な機会を得ることができます。国際的なネットワークに加わり、地元の地域社会や国、または国際的なレベルの変化を引き起こすことができるということは、若者にとってスカウティングをより魅力的なものにします。このことは、「地域奉仕活動」の分野における活動と関連します。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、特別なチームによって行われる通常とは別のプログラムであると考えられたり、その国のスカウト連盟内に特別な体制を構築する必要があるものである、といったように思われてはなりません。それどころかスカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、ナショナルコミッショナーや部門のディレクターの責任のもとで、上位の年齢部門（ローバースカウト等）のプログラムに組み入れられるべきなのです。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは15歳から26歳までの年齢の、スカウトおよびスカウト加盟員以外の全ての若者に対して開かれたものです。スカウト加盟員以外の若者がスカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードのプログラムを完遂した後、ローバースカウト部門の一員になってローバースカウトのプログラムに参加するよう呼びかけることができるので、各国スカウト連盟は地方および国レベルで加盟員を増やす素晴らしい機会を得ることができます。

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードを実施しようとしている各国スカウト連盟を支援するため、「スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード プログラムガイドライン」を発行しました。詳細はホームページ [www.scout.org/scoutsoftheworld](http://www.scout.org/scoutsoftheworld) を参照して下さい。冊子版が必要な場合は、世界スカウト機構事務局にお問い合わせ下さい。

#### 4. 世界のローバースカウト活動

第21回世界スカウトジャンボリーの間、国際サービスチームのメンバーのうち各国からのローバースカウトたちに対し、自国のローバー活動についての情報を提供するようにお願いしました。これらの活動の大半は、これまで説明した4つの分野の活動の、少なくともどれか一つにあてはまるものでした。これにより、若者が既にこれらの分野で活動していることが分かりました。より重要なことは、これらの活動が若者のニーズや特質に一致していたということです。

活動の情報については、次の通り4つの分野に分類しました：

##### 活動的な旅行と異文化の体験

シンガポール：「世界をより良くするための地域プロジェクトのため、マレーシアに行きます。既に資金造成のための努力も始めています。厳しい三週間になりそうです。」

オーストリア：「“Bundespfingsttreffen”という、16歳～20歳のレンジャー／ローバースカウトが一堂に会して行う三日間の魅力的なプログラムを実施します。この方法は私たちが活動を計画できるプロジェクトとなっています。」

イタリア：「サラエボの若者と戦争について考えるための文化交流を行っています。」

パキスタン：「サウジアラビアでハッジ（メッカへの巡礼）の巡礼者のための奉仕活動を行っています。」

スイス：「PFFという全てのローバースカウトが楽しめるような大野外パーティーを行っています。」

イギリス：「私たちは登山、バレーボール、カヤックといったスポーツを楽しんでいます。メンバーはキャンプや地区のイベントの際、奉仕チームを編成します。私たちは自分たちでキャンプを実施する他、多くの国際プロジェクトや探検の機会を得ています。」



## 大自然での冒険

オーストラリア：「サーフムートという、ビクトリアの海岸でのキャンプを実施しています。」

ブラジル：「ブラジルの冒険」という、多くの陸上／海のプログラムを実施しています。」

ドイツ：「ハイキング、社会活動、登山、カヌーを行っています。」

イスラエル：「毎年夏、イスラエルのどこかの森で、全てのローバースカウトを対象とした5泊～9泊のサマーキャンプを実施しています。パイオニアリングとして木やロープを用いて構造物を作り、自然の中で生活します。」

南アフリカ：「ドラケンスバーグ山脈のハイキングコースでアフリカの自然を満喫するためのバックパッキング（バックパックを背負って徒歩で野山を旅行すること）を実施しています。国中の様々な人が活動に参加しています。」



## 地域奉仕活動

オーストラリアとマレーシアとエジプト：「スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードを実施しています。」

チリ：「非常に多くの活動を行っています。他のスカウトへの支援や、貧しい地域社会を助ける活動を行っています。私たちは常にいつでも、どこでも、誰に対しても奉仕できるよう、そなえています。」

グアテマラ：「地域社会に対する積極的なボランティア奉仕を行っています。」

中国（香港）：「香港スカウトセンターで開催している献血イベントは、毎年行っている行事の中でも大規模なものの一つです。」

インド：「ローバースカウトは災害発生時の救助や、若者を冒険活動へと誘うためのボランティア奉仕プロジェクトを実施しています。」

イタリア：「地域社会において障がい者に対する奉仕プロジェクトを実施しています。」

ケニア：「奉仕と善行のプロジェクトとして、次のような活動を行っています；スカウト隊がHIV/エイズ、薬物乱用、児童労働といった様々な問題に対するキャンペーンを開始することができるよう支援する；苗木畑、養蜂、園芸といった、貧困根絶のためのプロジェクトを展開する；争いを解決したり、マラリアを予防するための教育活動。」

メキシコ：「ローバースカウトは非常に貧しい地域社会を支援しています。ローバースカウトはこうした経済的な資源のない地域の老人や若者に読み書きを教えています。」

シンガポール：「国中から寄付を集めて、津波の被害にあった国を支援する試みを行っています。」

## 社会や経済に対する理解を深める

ベルギー：「私たちは少数民族のグループのためのオープンキャンプを開催しています。私たちはそこで彼らにスカウティングを経験し、私たちを知ってもらう機会を提供しています。」

コスタリカ：「私自身、そしてスカウティングと国に対する責務として、私は生涯プロジェクトを行います。私はローバーリングを通じて得た友人達と共に生涯プロジェクトを共有します。」

キュラソー島：「冒険。心にスカウトのちかいとおきてを持って、独立し、自分の活動を行います。」

## 5. 結論

活動はスカウティングにとって欠かせないものであるが、活動をスカウトの活動たらしめるものは活動の項目（例えば、自然の中でのハイキングや地域への奉仕）ではないし、単に明確な教育目標を持っているということですらない。スカウティングの教育システムという視点からすると、活動、すなわち青少年がキャンプを計画したり、装備を荷造りしたりするような日常的な活動を含む、スカウティングの中で青少年がすること全ては、主としてスカウト教育法を実践に移す状況を支えているのである。例えば、青少年が教育目標に向けて進歩したり、チームの中で活動することを学んだりすることなどは、活動を通してなのである。

(WOSM発行資料「スカウティング：一つの教育システム」より抜粋)

活動の4つの分野は、ローバースカウト部門における若者のニーズや特質に応えるような活動のためのフレームワークを提供します。

## Resources リソース

### “The Scouts of the World Award Programme Guidelines” スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードのプログラムガイドライン

スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは若者が世界の問題に気付き、奉仕活動を通じて世界市民となるために必要な経験と技術を習得するための特別なアワードです。スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワードは、若者が地球市民となる準備に関連して、小さな惑星上の生活に必要なとされる理解、技能、知識を要求する3つの中心的なテーマに焦点をあてています：即ち、平和、環境、開発です。詳細な情報についてはホームページ [www.scoutsoftheworld.net](http://www.scoutsoftheworld.net) を参照して下さい。

### “The Rover Commissioners’ Resource Kit” ローバーコミッショナーのためのリソースキット

RoCoReKi は主に国レベルのローバー担当コミッショナーやローバーに関わる指導者を対象とし、スカウティングにおける最終年齢部門を対象としたプログラムを考案／見直すためのものです。ローバー担当として十分に経験を積んでいても、あるいは新人であるとしても、このリソースキットを参照することで興味深い有用な情報を入手することができるでしょう。この資料が必要な場合は、次のホームページのリソースエリアを参照して下さい：[www.scout.org/europe](http://www.scout.org/europe)

### “Scouting and Peace” スカウティングと平和

この冊子は、次の問いかけをするものです：「平和に貢献するスカウティングとは何だろうか？」。この問いを歴史の観点から検討し、それからスカウティングが平和教育に対して貢献してきた主要な要素について分析します。この冊子が必要な場合は、次のホームページのリソースエリアを参照して下さい：[www.scout.org](http://www.scout.org)

### “Building Peace Together – 12 Workshops” 共に平和を構築する – 12のワークショップ

この冊子は、スカウト指導者が最近の世界スカウトジャンボリーで実施された地球開発村の経験からひらめきやアイデアを得て、地域や各国レベルで同様のイベントや活動を展開できるようにするためのものです。この冊子が必要な場合は、次のホームページのリソースエリアを参照して下さい：[www.scout.org](http://www.scout.org)

## REFERENCES (参考文献：書籍名等のため、英文のまま記載)

- 1 Scouting : an Educatinal System WOSM World Scout Bureau





## 最終的な結論

青春期の若者や青年と一緒に活動することは、世界中の多くの各国スカウト連盟にとって、未だに課題となっていることです。スカウティングがその社会における意味を維持して、人々の生活に違いをもたらすようにしたいのであれば、力強く、魅力的で、意味があるプログラムを、この年齢層に提供しなければなりません。

ローバースカウトのプログラムは、スカウティングの他部門のプログラムと同じ前提に基づいています：達成すべき目標に気づき、定義することが必要です；スカウティングの独特な教育的フレームワークであるスカウト教育法を活用して、この年齢層に適用します；若者が成長することができるような、いくつかの刺激的で教育的な活動を提供します。

しかし、ローバースカウト部門のために働くことは、他のどの部門で働くこととも同じではありません。全ての部門において教育的な目標を与えられていることを意味するので、その部門自身の特性や課題があると同時に、また、各国スカウト連盟の「通常の」部門とみなされなければなりません。

心理的な課題であり、またリソース（資源）と時間を必要とすることから、ローバースカウト部門を立ち上げることは非常に大変な仕事に思えるかもしれません。しかし、いくつかの基本原則を押さえておけば、成功裏に達成することができるでしょう。

- ・どこでもローバースカウトのプログラムを提供できるように、一つないし複数の地域グループのレベルで、ローバースカウトのコミュニティを設立しましょう。
- ・ローバースカウトのプログラムは、リーダーシップが発達することを強調するべきです。
- ・ローバースカウトのコミュニティ内でリーダーシップを発揮する立場の人には、高い水準の責任を与えなければなりません。これは、ローバースカウト部門における全ての権限あるポジションと責任を青年に与え、成人指導者はアドバイザーに徹することを受け入れることを意味します。
- ・青年に提供される活動は、より若い部門（ベンチャー等）向けの活動の繰り返しであってはなりません。青年向けの活動は、彼らのニーズや期待にしっかりと応えるもので、うまく成人期に移行できるよう、ライフプランを立てることを助けるものであるべきです。
- ・ローバースカウト部門における個人の進歩は、ローバー部門の終了時にスカウトプログラムから離れる際に、社会において前向きで責任ある役割を果たすのに必要な動機と技術を備えた青年となるように、明確に向きを定めたものでなければなりません。
- ・ローバースカウトのコミュニティから「旅立つ」ことは、青年がローバースカウトのプログラムにより何を身に付け、どのようなライフプランを立てたのかを表すセレモニーとして示されるものでなければなりません。

青春期の若者や青年と一緒に活動することを強調することで、各国スカウト連盟はスカウティングの使命を成し遂げ、社会において青年が行動する範囲を増やすよう、大きな貢献をします。そのことは、「より若い人々のためのより良いスカウティング」を提供することになるのです。

